

取扱説明書

ニュースーパーフォルテ
F195(D)・FX195(D)
F215(D)・FX215(D)
F235(D)・FX235(D)
F255(D)・FX255(D)
F265(D)・FX265(D)

YANMAR



取扱書

ヤンマーディーゼルトラクタ

ニュースーパーフォールテ

F195(D)・FX195(D)

F215(D)・FX215(D)

F235(D)・FX235(D)

F255(D)・FX255(D)

F265(D)・FX265(D)



ヤンマー農機株式会社

はじめに

このたびは、本製品をお買上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書はあなたの機械を常に最良の状態に保ち、安全な運転作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単な手入れについて説明してあります。ご使用前によくお読みいただき、充分理解してからご使用していただき、安全で上手な作業にお役立てください。

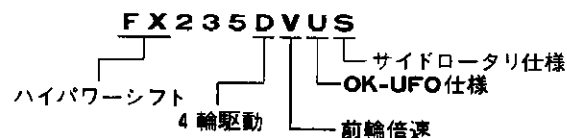
また、お読みになった後も大切に保管し、本機を末長くご使用いただけますようにご活用ください。

本書では形式仕様の異なる製品を次のように表示しています。

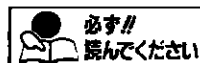
ハイパワーシフト形式名FX
メカニカルミッション形式名F
4 輪駆動仕様D
前輪倍速仕様V
OK-UFO仕様U
クイックヒッチ仕様K
センターロータリ仕様C
サイドロータリ仕様S

※ロータリにつきましては、ロータリの取扱書をご覧ください。

【例】



このトラクタの主な特長

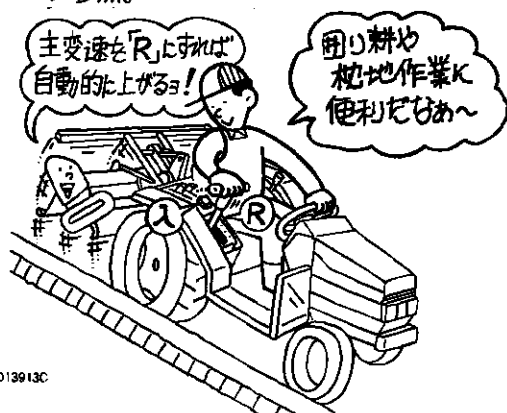


バックするときロータリが
自動的に上昇する

バックアップ機構

主変速レバーを「R」(後進)に入れると、自動的にロータリが上ります。さらに、後進時に作業機が上ると困る場合は、スイッチで簡単に解除することができます。

25ページ参照。



深く浅くの耕うん調節が
簡単にできる

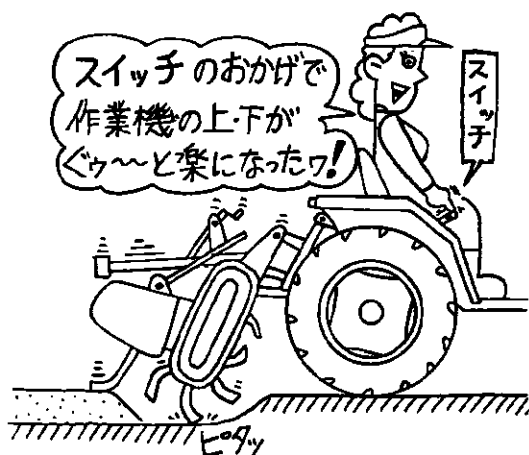
深浅回動ロータリ

ロータリカバーが回動し、深耕から代かきまで理想的なカバー位置に調節でき、深耕しても馬力をとられません。

作業機の上下が
す早く確実な

かんたん上下スイッチ

従来は、作業機の上下と位置設定をポジションレバー1本で行なっていました。そこで作業機の位置設定のための機能と作業機の上下のための機能を分けて、ワンタッチで作業機を上下できる、作業機昇降スイッチを操作しやすい位置に配置し、作業機の上下操作がよりす早く確実に行なえます。24ページ参照。



マイコン制御で簡単操作

OK-UFO (U仕様)

深さダイヤルをまわすと自動的にロータリカバーが回動し、理想的なカバー位置を選択します。また、ボタンを押すだけでUFOマチック、オートロータリ、バックアップ機構などが自動にセットされます。

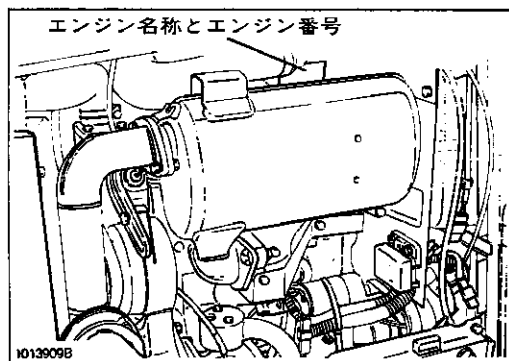
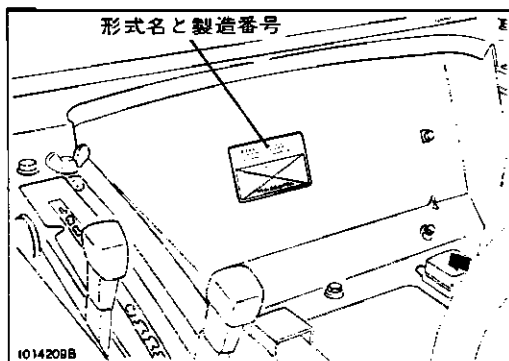
もくじ

サービスと保証について	5
公道走行とナンバープレートについて	6
安全に作業していただくために必ず守っていただきたいこと	7
各部のなまえ	9
各部のはたらき	11
運転と作業のしかた	20
1. お使いになる前の点検	20
2. エンジンの停止・始動のしかた	22
3. 作業機を上下させるには	24
4. 作業機の降下速度の調節のしかた	24
5. バックアップ装置の使いかた	25
6. 発進・停止・駐車 of のしかた	25
7. 道路走行のしかた	27
8. 坂道での運転のしかた	27
9. ほ場への出入りのしかた	28
10. 作業に適した速度の選びかた	28
11. ほ場での旋回のしかた	29
12. ほ場での旋回のしかた。前輪倍速ハイグリップ ターン仕様について(V仕様のみ)	29
13. ロータリ耕での耕深設定のしかた	31
14. ロータリ以外の作業機を使う場合の 耕深設定のしかた	32
15. オートロータリとポジションコントロールを併用して使用する 場合の耕深設定のしかた	33
16. ロータリ耕うんのしかた	34
17. デフロックの使いかた	35
18. トラクタへの積込み・積降しのしかた	36
19. 後輪車輪幅(輪距)の調節のしかた	36
20. 油圧外部の取出しかた	38
21. 作業機の取扱いについての注意事項	39
22. パワーステアリングについて (P仕様・オプション)	39
23. 下げクッション機構(UFO仕様以外)	40
OK-UFO仕様について(U仕様のみ)	41
1. 各部のなまえとはたらき	41
2. 基本的な使いかた	43
3. センサ異常時の表示について	44
4. 使用後の手入れ	44
作業後の手入れについて	45
1. 作業後の手入れ	45
2. 長期間使用しない場合の手入れ	45

手入れと点検・調整	47
1. 定期点検一覧表.....	47
2. オイル・グリス・不凍液一覧表.....	48
3. 給油・給水一覧表.....	48
4. エンジンサイドカバーの開閉のしかた.....	49
5. 各部オイルの点検・交換のしかた.....	49
6. 各部エレメントの交換のしかた.....	52
7. 冷却水の点検・交換のしかた.....	54
8. 燃料の点検・給油のしかた.....	55
9. 燃料の空気(エア)抜きのしかた.....	55
10. ラジエータスクリーンとエアクリーナ エレメントの掃除・交換のしかた.....	56
11. バッテリーの点検のしかた.....	56
12. パイプ類の点検について.....	57
13. 電気配線の点検について.....	57
14. グリスアップ(注入)について.....	58
15. ブレーキの点検・調整について.....	59
16. クラッチの点検・調整について.....	60
17. ハンドルの点検・調整について.....	61
18. ファンベルトの点検・調整について.....	61
19. トーインの点検・調整について.....	62
20. ヒューズ・ヒューズブルリンクの 点検・交換について.....	62
21. タイヤの点検について.....	63
22. 排気ガスの色について.....	63
不調診断	64
1. エンジン関係.....	64
2. クラッチ・ブレーキ関係.....	66
3. 油圧関係.....	66
4. 電装関係.....	67
5. ロータリ関係.....	68
仕様	69
標準付属品	79
配線図	80

サービスと保証について

機械の不具合は、早期発見するように心がけ、適切な整備をしてください。機械の調子が悪いときは、お買い上げいただいた販売店、お近くの当社支店までお気軽にご連絡ください。その際「形式名と製造番号」を合わせてご連絡ください。



トラクタの保証と点検整備

1) 弊社規定の点検整備表にしたがって、3回の点検整備を無料で受けることができます。(トラクタ保証書を御参照願います。)

第1回目……納入直後（納品時の取扱い
運転指導を含む）

第2回目……納入後起算1ヶ月または、
使用時間50時間のいずれか
早い時期。

第3回目……納入後起算11ヶ月または、
使用時間300時間のいずれ
か早い時期。

2) 第2回目、3回目の点検整備は、指定の
時間、または期日がきたらご購入先特約
店または農協に点検整備を申し込み、指
定整備工場で点検整備を受けてください。

※上記指定の期日、または使用時間を過ぎ
た場合は、無料点検を受けられなくなり
ます。

※エンジンおよび本機で封印されている所
はさわらないでください。性能を大きく
悪くするばかりか、封印が外されたと認
められる場合は、一切の保証を受けられ
なくなります。

なお、詳しくは保証書をご覧くださいよう
お願いいたします。

公道走行をするためには

このトラクタは、道路運送車両法の小型特殊自動車です。

- 公道を走行する場合は、小型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず免許証を所持してください。
- 勝手に構造等を変更した場合は、小型特殊自動車の対象外になり、公道を走行することができなくなることがありますのでご注意ください。

小型特殊自動車の大きさ等

車体寸法	全 長	4.7m以下
	全 幅	1.7m以下
	全 高	2.0m以下
最 高 速 度		15km/h以下
内燃機関の総排気量		1500cc以下

- 作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。必ず作業機を取外して走行してください。
- 作業により変更した輪距などは、必ず標準状態に戻してから走行してください。
(36～37ページ参照)
- 道路交通法等関係法規を守り、安全な走行を心がけてください。

必ずナンバープレートの交付を受けてください

このトラクタは小型特殊自動車なので、公道走行をするしないにかかわらず、必ずトラクタ取得の届出を行ない、ナンバープレートの交付を受けてください。

交付されたナンバープレートは、ナンバープレートブラケットに取付けてください。

〈届出のしかた〉

小型特殊自動車販売証明書(各特約店・農協が発行します)ならびに、小型特殊自動車届出書に軽自動車税を添えて、市町村役場へ提出してください。

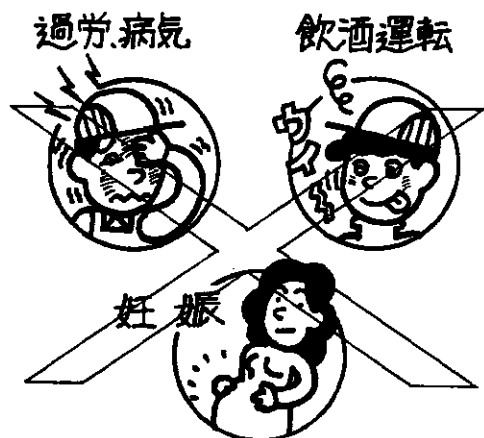
※市町村により、手続きが多少異なりますので詳しくは、特約店または農協にご相談ください。

損害賠償保険について

農耕作業用小型特殊自動車は、自動車損害賠償保険法第2条の「自動車」から省かれ、強制保険の対象から除外されております。万一の場合を考えて自動車保険の契約を希望される場合は、自動車共済、または任意自動車保険にご加入ください。

心も身体も健康な状態で

酒を飲んだとき、過労ぎみ、病気や妊娠しているときは、作業をしないでください。



作業前・作業後に必ず点検を

トラクタを使用する前に必ず仕業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかをチェックしてください。

点検整備を定期的に!



点検整備をするときは 必ずエンジンを停止して

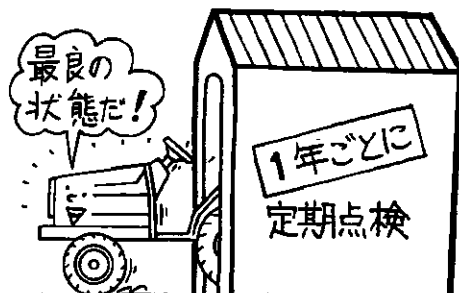
トラクタの点検整備や作業機の調整をするときは、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて作業機昇降用の油圧ストップバルブを締めてから行なってください。



1012701A

1年ごとに定期点検整備を受け て、機械を最良の状態に!

機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとにヤンマー整備工場にて定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。特に、燃料パイプや、ゴムホース類、電気配線は2年毎に交換するようにして、常に機械を最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。



1012702B

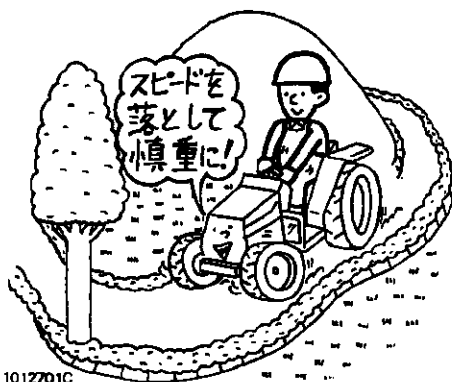
路上を走行するときは左右の ブレーキペダルの連結を確認!

道路や農道を走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを連結し、安全運転にこころがけてください。



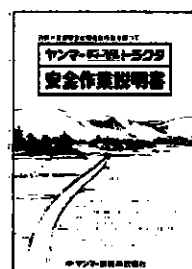
狭い農道や傾斜地は、 スピードを落して慎重に

溝のある農道や、両側が傾斜している農道、路肩に草が生茂っている所や、雨ふりの中、または直後は、路肩に十分注意して、スピードを落して走行してください。



1012701C

この他にも、本文中にも安全で快適な作業を行なっていただくためにぜひ守っていただきたい、安全マーク \oplus と注意マーク【注意】の項目を記載しております。よくお読みいただき、充分理解して必ず守ってください。更に、納屋の壁や、目立つ所に貼れる安全ポイントを抜粋した「トラクタ安全作業ポスター」および「安全作業説明書」を本機に添付してありますので、合わせてよくお読みいただき、安全運転にこころがけてください。



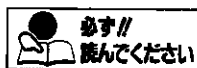
使用マークについて



安全に作業をしていただくため、ぜひ「これだけは守っていただきたいこと」を説明しています。

【注意】

本機の作業性能を最大限に発揮させるための説明をしています。



機械をよく理解して、安全に作業していただくために、「必ず読んでいただきたい」項目です。



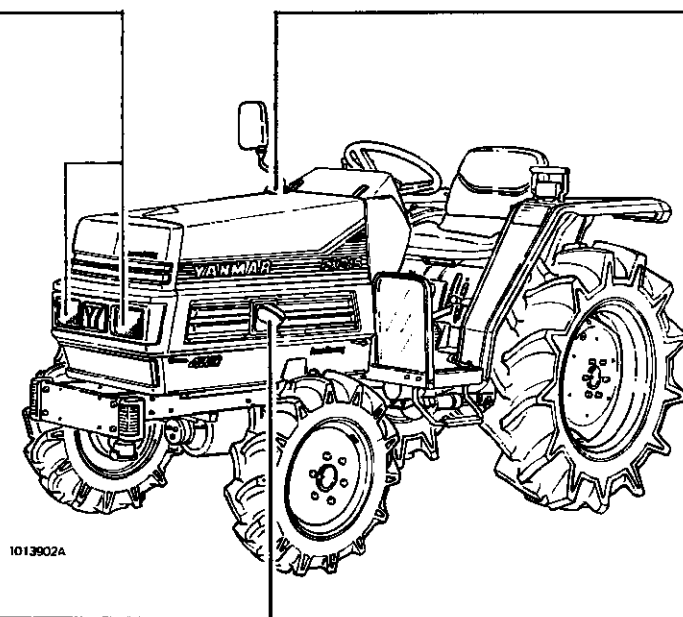
「本機のどの方向から見ているか、「見ている方向」をあらわしています。

各部のなまえ



この取扱書の説明図は、本機FX215Dを基準にしています。

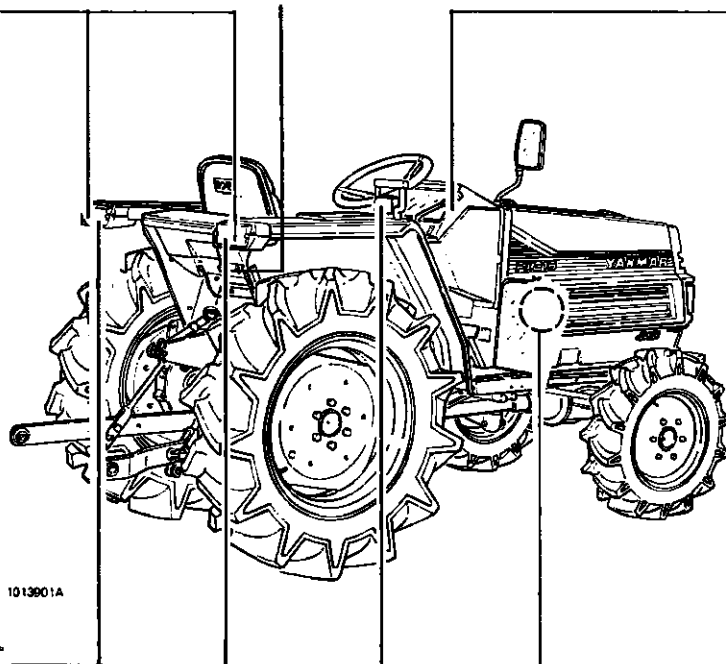
ヘッドランプ ————— 燃料給油口



マフラ

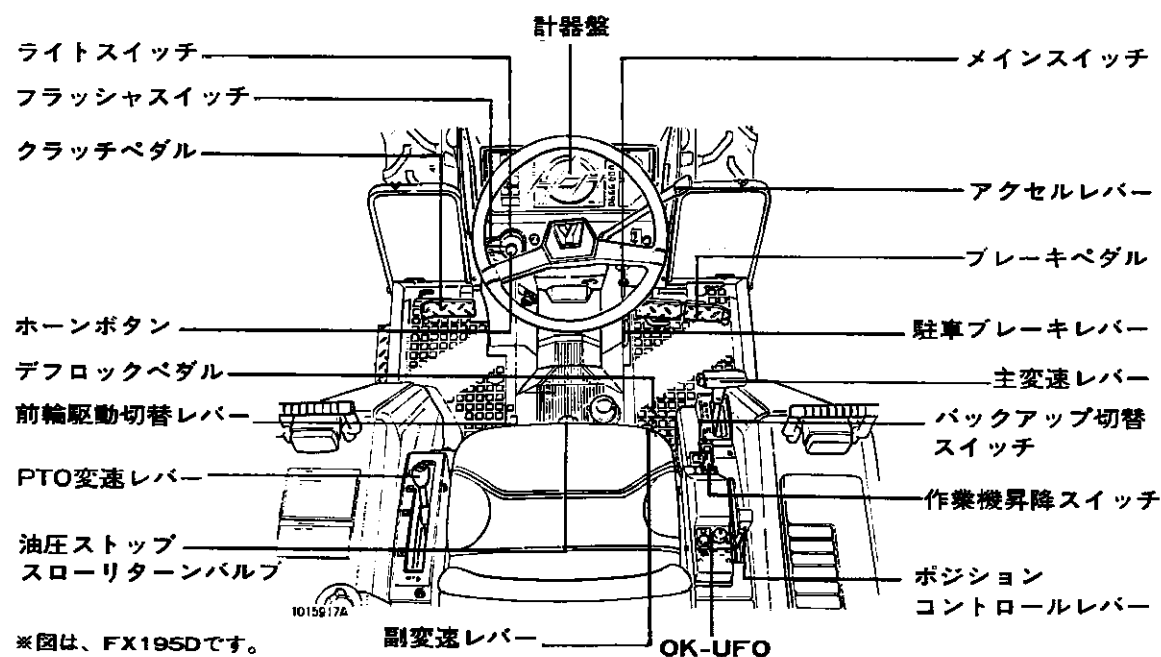
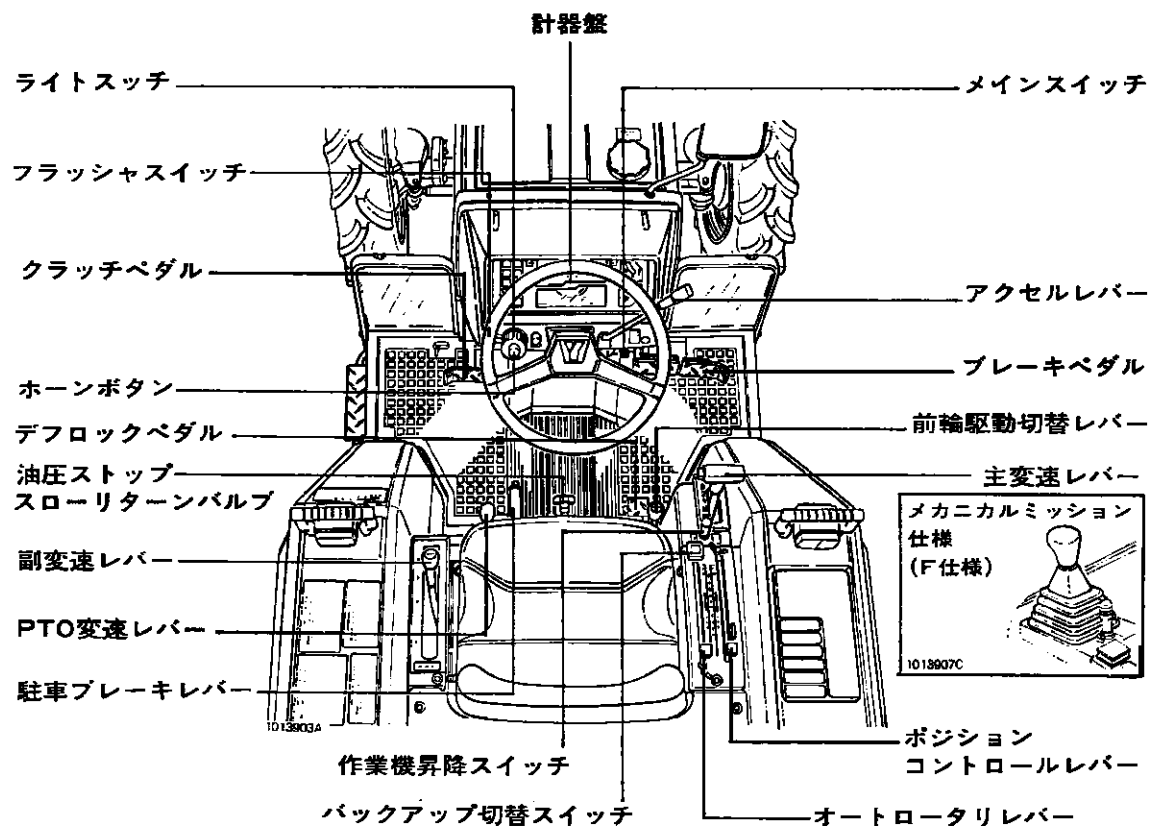
ナンバープレート
取付位置

テールランプ ————— アクセルレバー

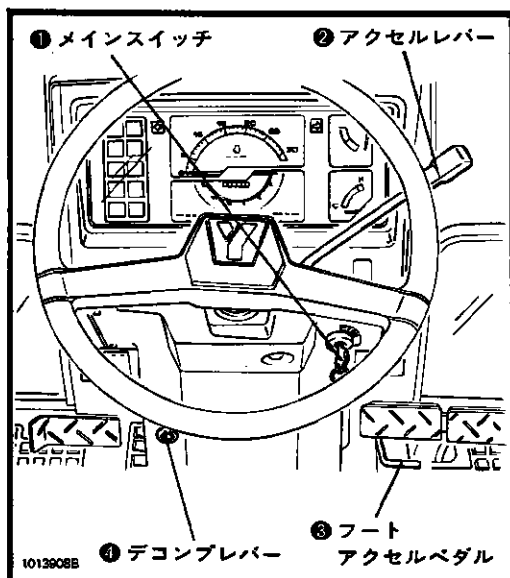


フラッシュランプ

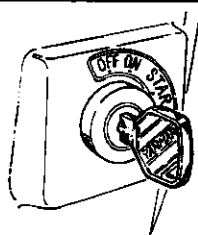
燃料コシ器



エンジンコントロール関係



① メインスイッチ



エンジンの始動に使用します。

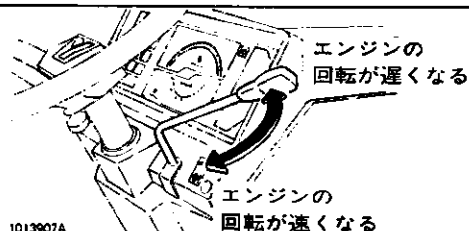
「OFF」 エンジンが停止し、電流が流れません。(キーを抜き取れます)

「ON」 各電装品スイッチに電流が流れます。

エンジンが停止している場合、エンジン油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯します。また、外気温度によりサーモスタートパイロットランプも点灯します。

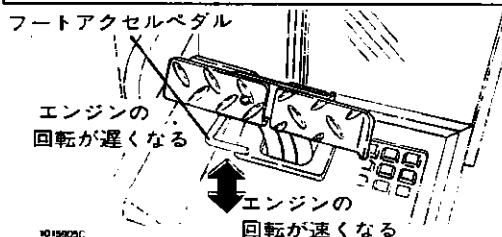
「START」 セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動しますとキーから手を離してください。キーは自動的に「ON」の位置に戻り、連続運転に入ります。

② アクセルレバー



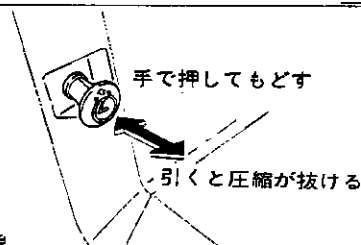
エンジン回転を早くしたり、遅くしたりするのに使用します。一定回転で作業する場合に使用します。

③ フートアクセルペダル



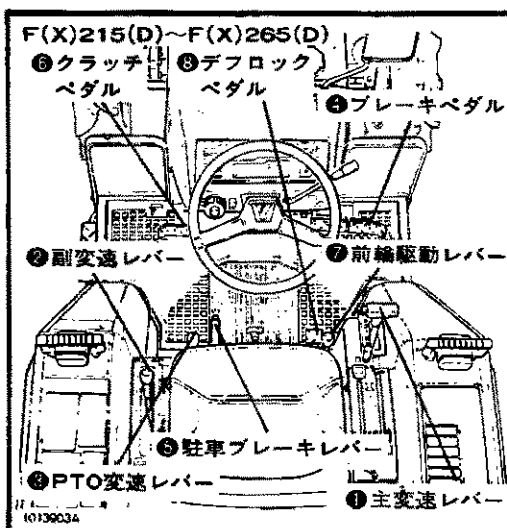
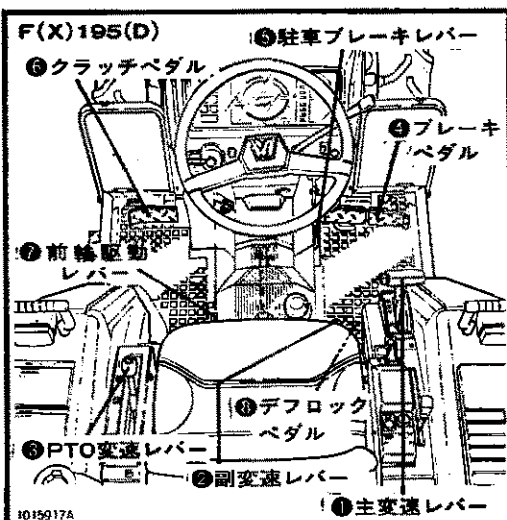
エンジン回転を早くしたり、遅くしたりするのに使用します。主に路上走行時に使用します。

④ デコンプレバー

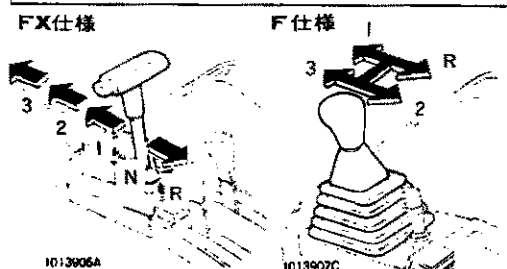


エンジンの圧縮を抜く(始動時)のに使用します。始動後は手で押しもどしてください。エンジン停止には使用しないでください。

走行・PTO関係



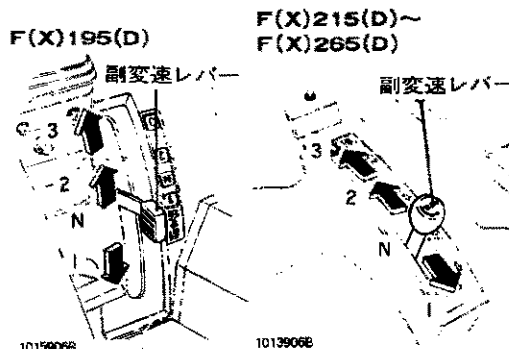
①主変速レバー



走行速度前進3段・後進1段に変速ができます。クラッチペダルをいっぱい踏込んで変速してください。

パワーシフト(FX)は、クラッチペダルを踏まずに変速ができます。

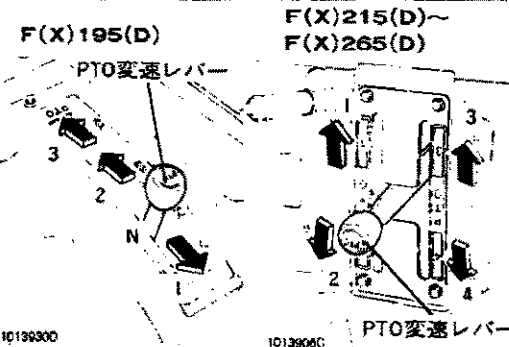
②副変速レバー



副変速レバーは3段階に変速でき、主変速との組合わせで、前進9段・後進3段の変速ができます。

クラッチペダルをいっぱい踏込んで変速してください。

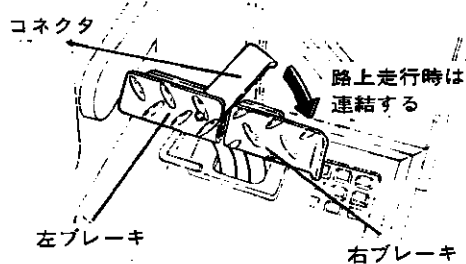
③PTO変速レバー



PTO軸(動力取り出し軸)の回転数をF(X)195は3段階、F(X)215以上は4段階に変速できます。

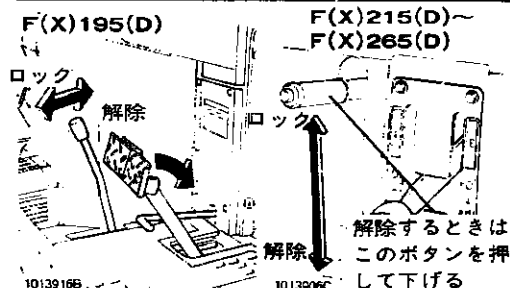
クラッチペダルをいっぱい踏込んで変速してください。

④ ブレーキペダル



左右それぞれ独立し、ほ場内で小回りする場合、片側ずつの後輪にブレーキをかけることができます。路上走行時は必ずコネクタでペダルを連結して走行します。

⑤ 駐車ブレーキレバー

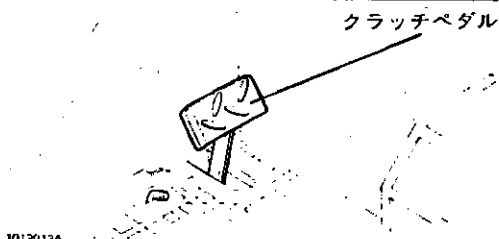


F(X)195(D)はブレーキペダルをいっばいに踏込んで、駐車ブレーキレバーを手前に引いてください。解除するときは、レバーを前方に押すと解除されます。

F(X)215(D)~F(X)265(D)は、レバーを上引き上げると駐車ブレーキが働き、解除するときはレバー先端のボタンを押して、レバーを下げます。

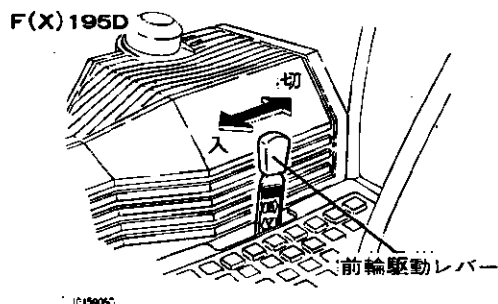
※左右のブレーキペダルは、コネクタで連結しておいてください。

⑥ クラッチペダル

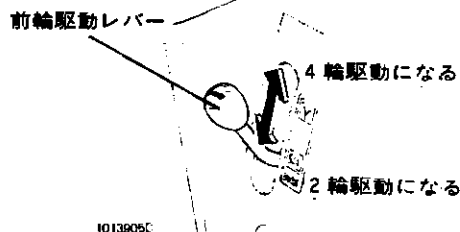


エンジンの動力を断続するのに使用します。

⑦ 前輪駆動レバー(D仕様)



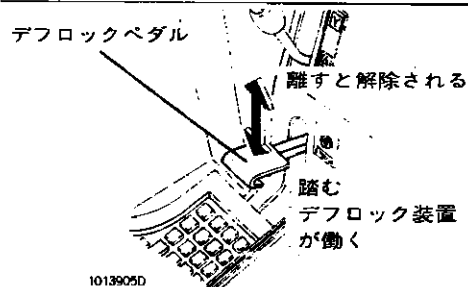
F(X)215D~F(X)265D



2 輪駆動と 4 輪駆動の切換えをするときに使用します。

クラッチペダルを踏込んで操作してください。

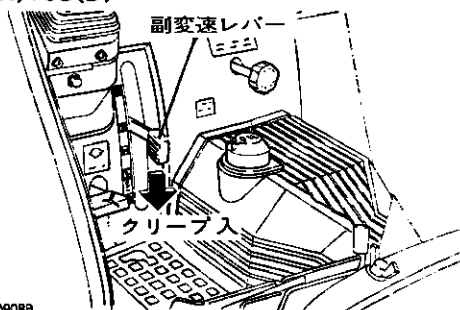
⑧ デフロックペダル



後輪の片輪が空転した場合、両車輪を一体に駆動させる装置で、スリップ防止に役立ちます。

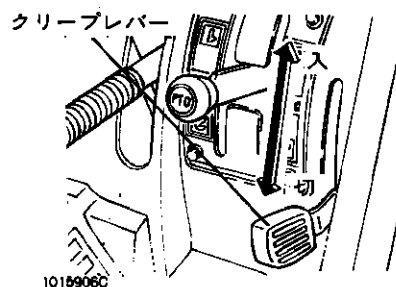
⑨ クリープレバー(オプション)

F(X)195(D)



1015908B

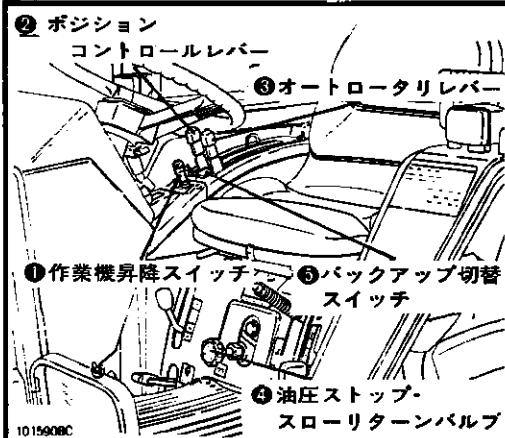
F(X)215(D)～F(X)265(D)



1015906C

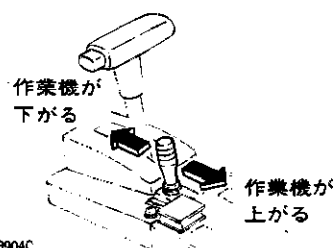
超低速(クリープ速度)の入・切に使用します。

油圧関係



1015909C

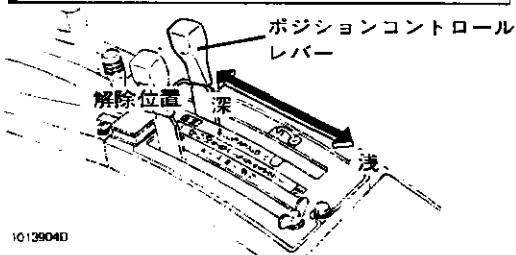
① 作業機昇降スイッチ



1013904C

作業機を上げ、下げするのに使用します。ポジションコントロールレバーで作業機位置を設定しますと、作業機昇降スイッチで作業機を上げ、下げしても耕深はポジションコントロールレバーまたは、オートロータリレバーで設定した位置になります。

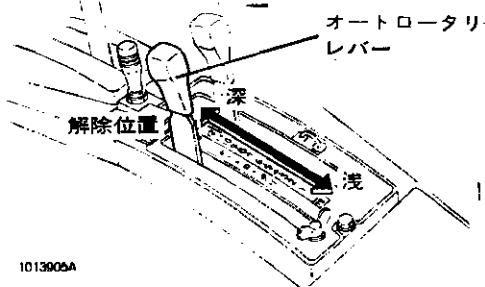
② ポジションコントロールレバー



1013904D

作業機を任意の位置に設定し、一定に保ちます。リフトアップランプが点灯していると、ポジションコントロールレバーでは作業機は下がりません。

③オートロータリレバー



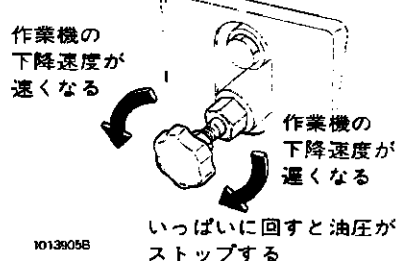
オートロータリの耕深調節を行います。

目盛位置	作業内容
1 ~ 4	代かき、浅耕
4 ~ 8	一般耕うん
9 ~ 10	深耕

【注意】

- 目盛位置10以上ではオートロータリは作動しません。
 - 目盛の数字は、深さをあわせるための目安です。
- 同じ目盛でもほ場条件により、深さが変わります。

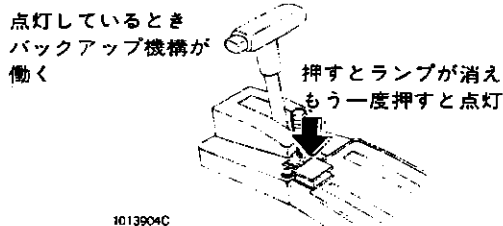
④油圧ストップ・スローリターンバルブ



作業機の下降速度を調節するのに使います(スローリターン機能)。

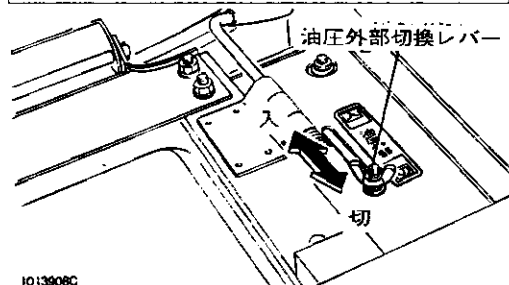
また、右へいっぱい回すと作業機昇降装置への油圧がストップします。

⑤バックアップ切替スイッチ



ランプが点灯しているとき、主変速レバーを「R」(後進)の位置に入れると自動的に作業機が上がります。このとき、バックサザーが鳴ります。バックアップスイッチを押すとランプが消え、バックアップ機構は動きません。

⑥油圧外部切換えレバー

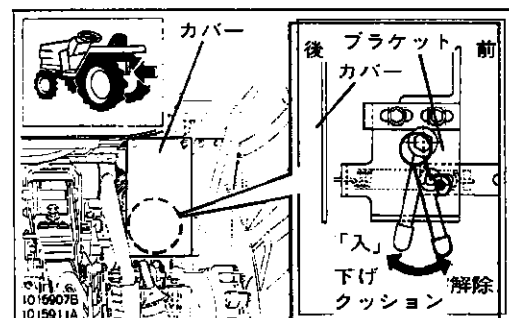


ローダー等の油圧外部取出口を使用する作業機を取付けるときに使用します。

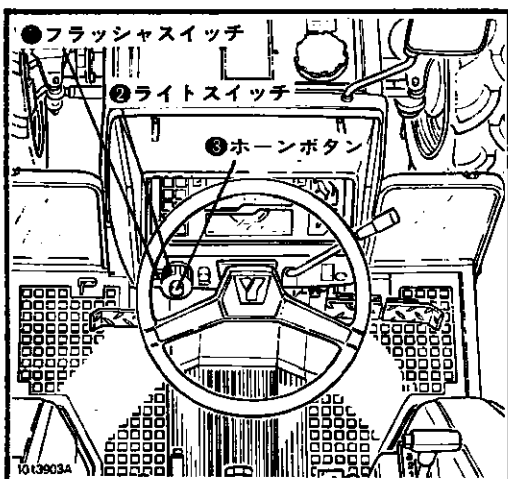
外部取り出し口は38ページを参照してください。

⑦下げクッション解除レバー

プラウ、スキ作業などで、下げクッションを働かせないときに使用します。

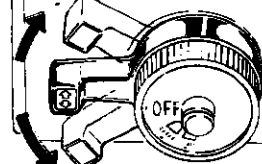


電装関係



①フラッシュスイッチ

右側が点灯

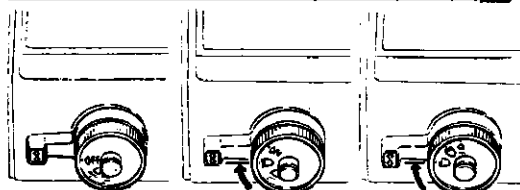


1013904A

左側が点灯

メインスイッチを「ON」位置にしてフラッシュスイッチを上へ上げれば右側、おろせば左側のフラッシュランプが点灯します。点灯しないときは、62ページを参照してください。

②ライトスイッチ



1013904B

消灯

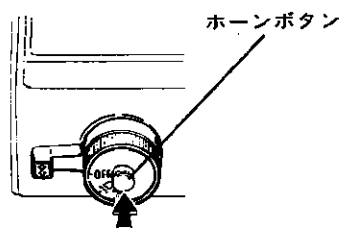
上向照射

下向照射

メインスイッチ「ON」でライトスイッチを右側に1段廻すと上向照射、2段廻すと下向照射になります。

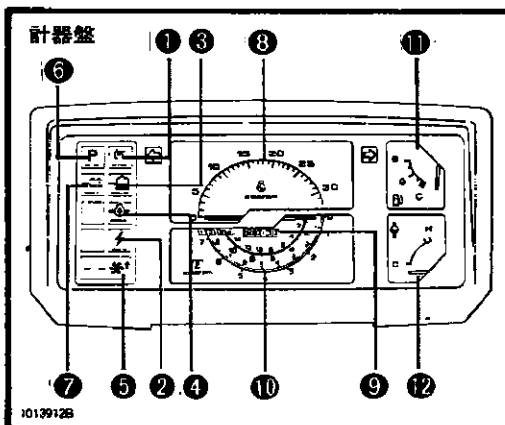
点灯しないときは、62ページを参照してください。

③ホーンボタン



1013904B

メインスイッチを「ON」位置にしてホーンボタンを押せば、ホーンが鳴ります。鳴らないときは、62ページを参照してください。



④サーモスタートパイロットランプ



1013912D

外気温5℃付近よりメインスイッチを「ON」の位置にすると点灯してヒーターに通電したことを示します。ランプが消えてから（自動的に消える）「START」位置に回し、エンジンを始動します。

サーモスタートランプ点灯時間は、冷却水温によりヒーターの通電時間が変わります。

〔参考〕 冷却水温5℃以上……

1秒以下

冷却水温5℃以下……

3～15秒

②チャージパイロットランプ



10139120

メインスイッチ「ON」の位置で、ランプが点灯しており、始動後エンジン回転が上がり充電し始めるとランプが消えます。ただし、エンジン回転が1000rpm以下では充電しません。充電するときは、1500rpm以上にしてください。

③ラジエータ水量パイロットランプ



10139120

サブタンクの冷却水量が下限 (LOW) 以下になるとランプが点灯しますので、冷却水を上限 (FULL) まで補給してください。補給は54ページを参照してください。

④エンジン油圧パイロットランプ



10139120

メインスイッチを「ON」にすると点灯し、エンジンを始動するとランプは消えます。エンジン回転中に、油圧ランプが点灯するときは、潤滑油回路に異常が発生したからです。すぐエンジンを停止して不具合箇所の原因を調べてください。

⑤リフトアップランプ



10139120

バックアップ機構や、作業機昇降スイッチで作業機が上がっているときにランプが点灯します。作業機を下げるとランプは消えます。

⑥駐車ブレーキパイロットランプ

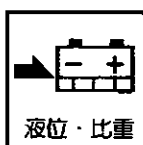
(F215(D)・FX215(D)・F235(D)
FX235(D)・F255(D)・FX255(D)
F265(D)・FX265(D))



10139120

駐車ブレーキレバーを引き上げるとランプが点灯します。

⑦バッテリー液量・比重パイロットランプ



メインスイッチを「ON」にしてもランプは点灯しません。もしランプが点灯したときは、まず、バッテリー液を点検し、不足の場合は補水してください。バッテリー液量が規定量ある場合は充電が不足していますので充電してください。

⑧エンジン回転計



10139120

エンジン回転数を指針で示します。

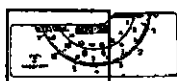
⑨積算時間計



1013230A

トラクタの使用時間を数字で示します。右端の白枠内の数字を6倍すると「分」単位の時間となります。

⑩ PTO回転計



PTO 1速・2速・3速・4速
の回転数を指針で示します。

(F(X)195は3速までです。)



PTO 4速の回転数を示す。

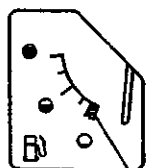
PTO 3速の回転数を示す。

PTO 2速の回転数を示す。

PTO 1速の回転数を示す。

1013912B

⑪ 燃料計

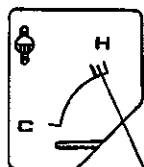


燃料の残量を指針で知らせ
ます。針が斜線区域を示し
た場合は早めに燃料を補給
してください。

1013912B

斜線区域

⑫ 水温計

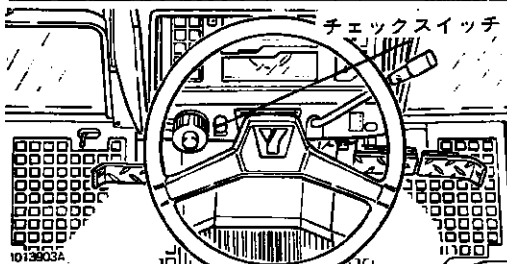


運転中の冷却水温を指針で
示します。針が赤色区域位
置を示した場合は、作業を
中断して点検してください。

1013912B

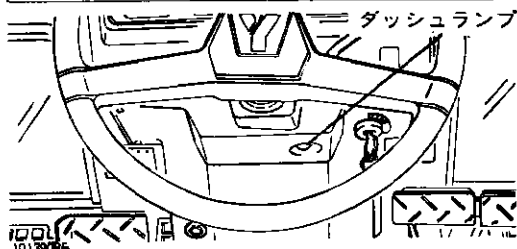
赤色区域

⑬ チェックスイッチ



OK チェッカーの各ランプの切れ、回路の
断線をチェックします。メインスイッチを
「ON」位置にしてスイッチを押すと、サーモ
スタットパイロットランプと、駐車ブレー
キパイロットランプ(F(X)215～F(X)265
に装備)以外の全てのランプが点灯します。
点灯しないときはランプ切れか回路の断線
です。販売店で修理してください。

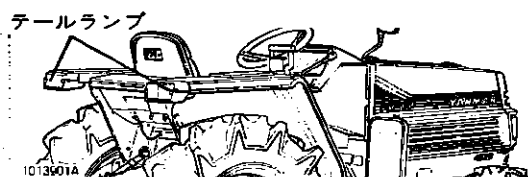
⑭ ダッシュランプ



夜間作業時に足元を明るくします。ヘッド
ランプと連動して点灯します。

⑮ テールランプ

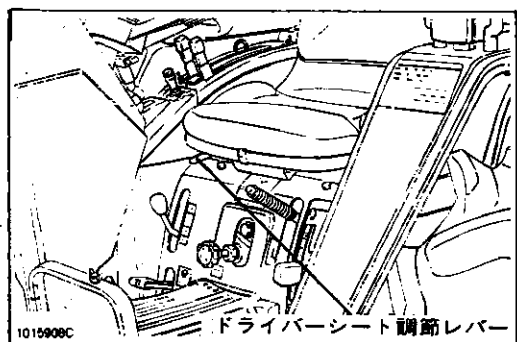
ヘッドランプと連動して点灯します。



その他

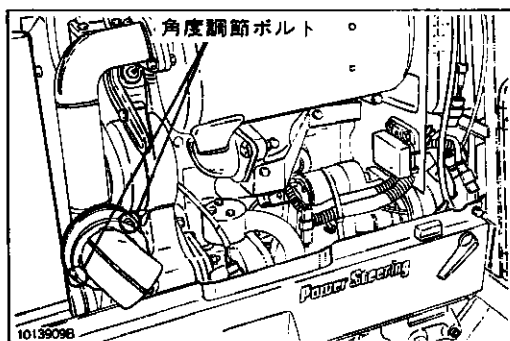
ドライバーシート調節レバー

ドライバーシートを運転者の体格に合わせ
て5段階に調節するのに使用します。



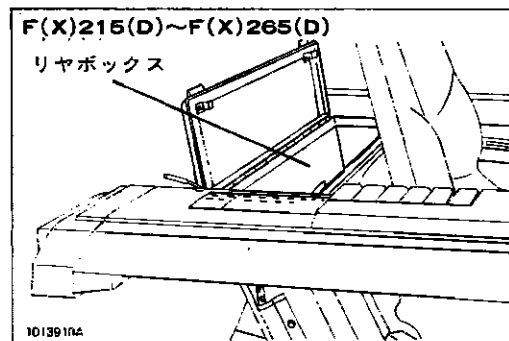
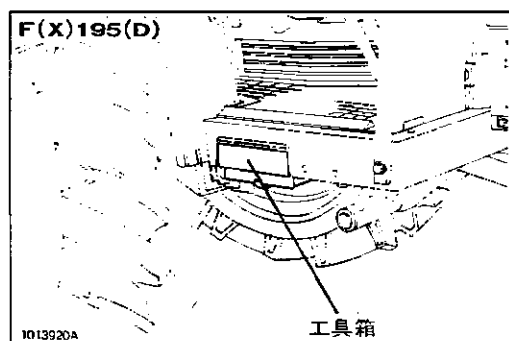
マフラ角度調節ボルト

角度調節ボルトをゆるめて、マフラの噴出口を120°回すことができます。作業条件に合わせて噴出口を調節してください。



リヤボックス

工具箱と小物類が入れられます。



1. お使いになる前の 点検

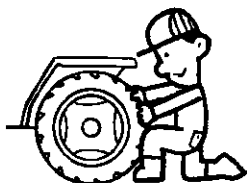
安全で快適な作業を行なうには、トラクタを使用する前に必ず仕業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行なって異常がないかチェックしてください。

点検は次の順序で行なってください。

①前日の異常箇所

②トラクタのまわりを廻ってみて

- 各部の変形・損傷・汚れ
- タイヤの空気圧、摩耗度合、損傷…63ページ

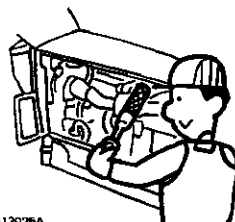


1012702C

- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみ

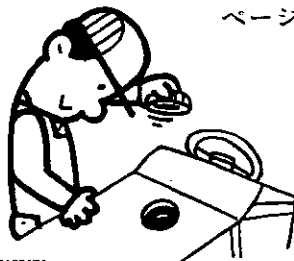
③ボンネットを開けてみて

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ…49ページ



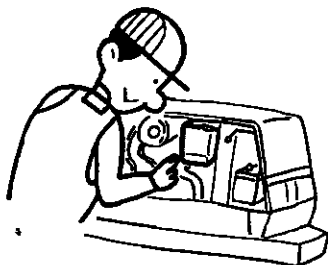
1013925A

- 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷…55・57ページ



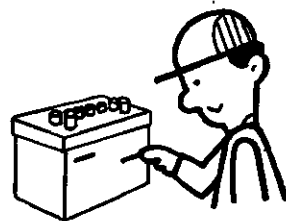
1013217A

- 冷却水の量と水もれ、ホースの損傷…54・57ページ



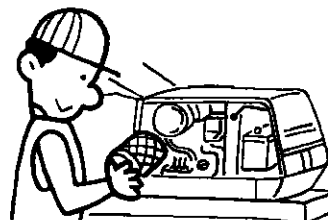
1013924C

- バッテリー液の量…56ページ



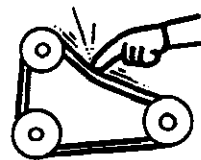
1012702D

- エアクリーナの汚れ…56ページ



1013924A

- 冷却ファンベルトの張り
と損傷…61ページ



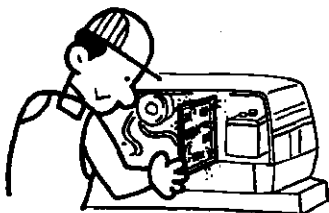
1012703B



下記の事項を必ず守ってください。

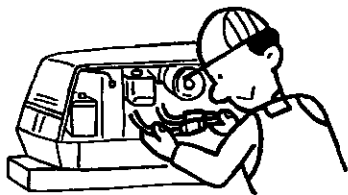
- 点検・整備を行なうときは、必ずエンジンを停止させてから行なってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。
- 作業機の下へもぐったり、足を踏込んだりしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

- ラジエタグリルやエンジンルーム内のほこりやゴミ…56ページ



1013924B

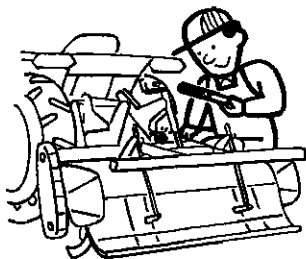
- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ…57ページ



1015904D

④ロータリ側へ回ってみて

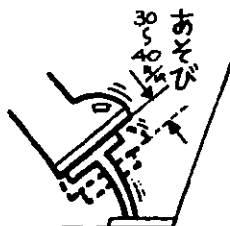
- ドライブシャフトのロックピンのPTO軸への挿入状態
- 各部のRピンの差し込み状態
- 爪取付ボルトのゆるみ
- ロータリギヤボックスのオイル量
- ロータケースのオイル量



1015904B

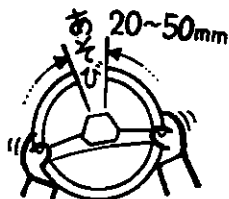
⑤運転席に座ってみて

- ブレーキの作動具合と遊び量…59ページ



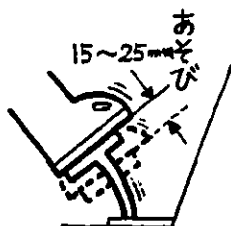
1012704B

- ハンドルの遊び量…61ページ



1013217C

- クラッチペダルの作動具合と遊び量…60ページ



1012704B

⑥エンジンを始動してみて

- エンジン始動後の異音



1012705D

- 排気ガスの色…63ページ



1013218D

- ランプ・メータ類の作動…16・17・18ページ

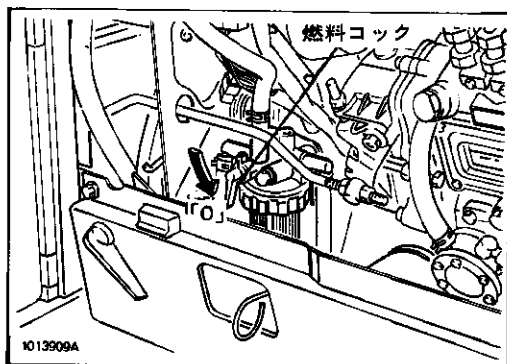


1013218B

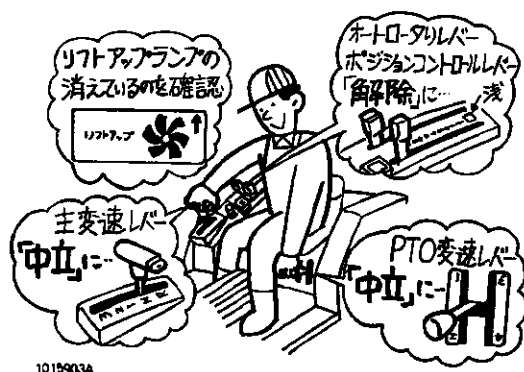
2. エンジンの停止・始動のしかた

始動のしかた

- ①燃料コックを「O」の位置にします。(開の状態)



- ②主変速レバーを「中立」、PTO変速レバーを「中立」位置にします。
③ポジションコントロールレバー、オートロータリレバーを「解除」の位置にし、メインスイッチを「ON」位置にして、計器パネルのリフトアップランプが消えていることを確認してください。



【注意】

- ポジションコントロールレバー、オートロータリレバーが「解除」位置でない場合、また、リフトアップランプが点灯しているときにエンジンを始動すると、作業機が急に上がることがあります。

※リフトアップランプが点灯している時は、油圧昇降スイッチを下降側に操作してください。ランプは消灯します。

- ④アクセルレバーを「最高回転」位置にします。
⑤サーモスタートランプが消灯してからクラッチペダルをいっばいに踏込んで、メインスイッチを「START」(スタート)位置にします。
⑥エンジンが始動したら、すみやかにメインスイッチから手を離してください。

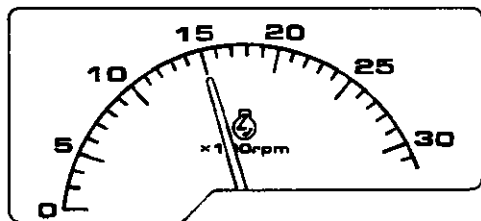


※エンジンが暖まっているときは、サーモスタートランプは瞬時に消えます。
※バッテリーの充電量が不足ぎみの場合や寒冷時にセルモータの回転が上がらない時はデコンプレバーを引き、エンジンに勢いが付いたら、デコンプレバーを元の位置に戻して、エンジンを始動してください。

※安全スイッチの働きによりクラッチペダルを踏込まないとセルモータが回りません。

- ⑦エンジンを1500回転ぐらいに下げ、約5分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

エンジン回転計



10139120

【注意】

- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。
(10秒以内に始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから、⑤の操作を繰返してください。)
- エンジン回転中は、絶対にメインスイッチを「START」(スタート)位置にしないでください。



下記の事項を必ず守ってください。

- エンジンを始動する前に、仕業点検を行なってください。
- エンジン始動時は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。
- 必ず運転席に座ってエンジンを始動してください。
- エンジン暖機運転は、閉めきった室内で行なわないでください。
- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。

停止のしかた

- ①アクセルレバーを「低速回転」位置にして、メインスイッチを「OFF」位置にするとエンジンが停止します。



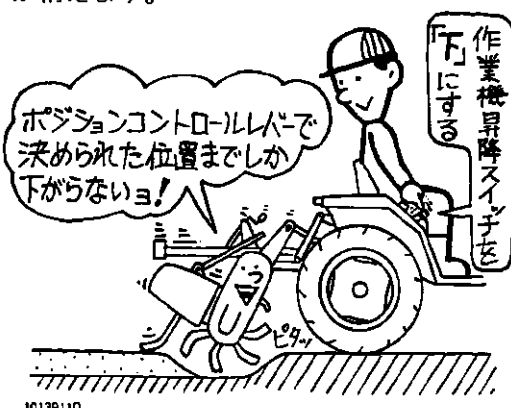
10139124

【注意】

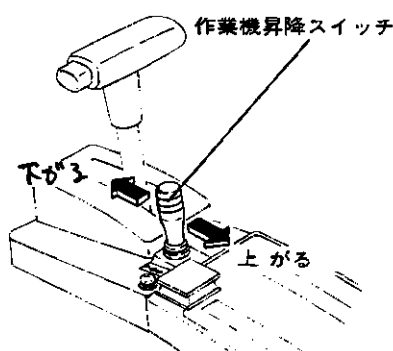
エンジンを停止するときは、絶対デコンプレッサーで停止させないでください。

3. 作業機を上下させるには

作業機を上下させるには、作業機昇降スイッチを使用します。(ほ場外ではポジションコントロールレバーにて上下してください。) 作業機昇降スイッチを「上」位置に操作すると作業機はあがり、リフトアップランプが点灯します。「下」位置に操作すると作業機はポジションコントロールレバーで決められた位置まで下がり、リフトアップランプが消えます。



10139110



1013904C

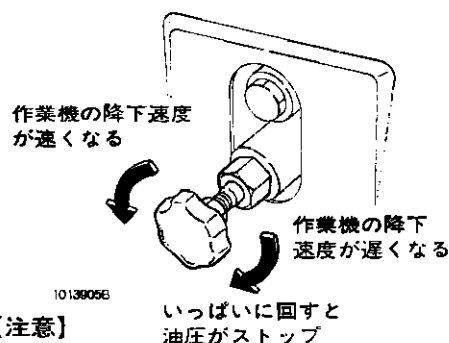
【注意】

ポジションコントロールレバーが最浅位置(上げ)にあるときは、作業機昇降スイッチを操作しても作業機は下がりません。このとき作業機があがっていてもリフトアップランプは点灯していません。ポジションコントロールレバーを「解除」(下げ)方向に操作し、作業機を下げてください。

4. 作業機の降下速度の調節のしかた

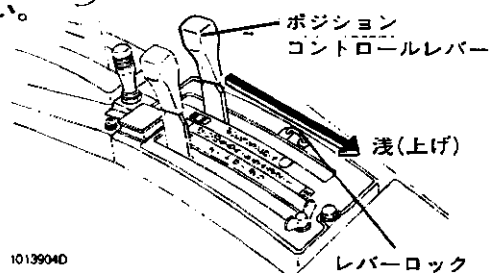
作業機の降下速度を調節する場合は、油圧ストップ・スローリターンバルブを「左」方向に回すと作業機は速く降り、逆に「右」方向に回すと作業機の降下速度は遅くなります。

右方向にいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は下がりません。



【注意】

●路上走行するときは、油圧ストップバルブは開いたままで、ポジションコントロールレバーを「浅」(上げ)位置にして、レバーロックをセットして走行してください。



1013904D

●油圧をストップさせたまま、作業機昇降レバーを操作しないでください。



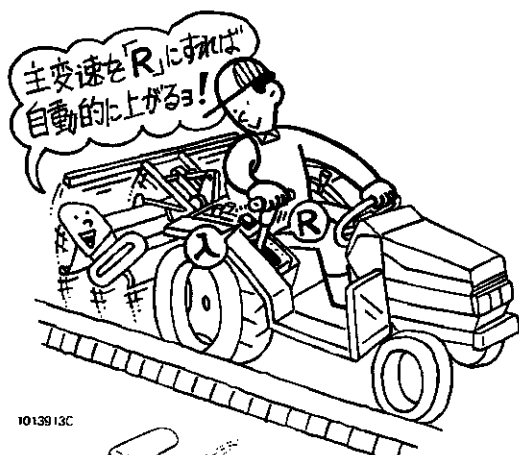
下記の事項を必ず守ってください。

作業機の下へ入るときは、危険防止のため油圧ストップスローリターンバルブをいっぱいに締込んで油圧をストップし、レバーロックをしてください。

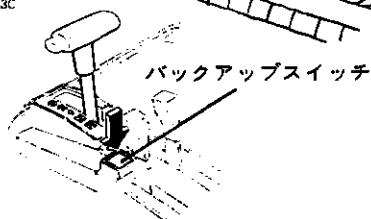
5. バックアップ装置の使いかた

バックアップ装置を使用しますと、枕地や回り耕などでバックするときに能率良く作業ができます。

バックアップスイッチのランプが点灯しているとき、主変速レバーを「R」に入れると作業機が自動的にあがりブザーが鳴ります。作業機を降ろすときは、作業機昇降スイッチを「下げ」位置にします。



1013913C



1013906A

バックアップ装置を使用しないときは、バックアップスイッチを押してランプを消してください。

次のようなときは、バックアップ装置は使用しないでください。

- トラックへの積み込み、積み降し。
- 畦越え、ほ場への出入り。
- トレラ作業など3点リンクを使用しない作業機を装着したとき。
- 果樹園、ハウス内など支柱や木に当たるとき。
- 一般道路走行時。

6. 発進・停止・駐車のかた

発進のかた

- ①ブレーキペダルがコネクターで、左右連結されていることを確認します。
- ②アクセルレバーでエンジン回転を約1500回転ぐらいにします。
- ③ポジションコントロールレバーを「上げ」方向に操作して、作業機を最高位置に上げます。
- ④クラッチペダルを踏込んで、副変速レバー・主変速レバーを希望の位置に確実に入れます。速度は29ページを参照してください。

※FX仕様は、主変速レバーの変速をする場合は、クラッチ操作をしなくても変速できます。



1013914A

- ⑤クラッチペダルをゆっくり離しますと、トラクタが動きはじめます。

【注意】

- 走行中・作業中は、絶対にクラッチペダルの上に足を乗せないようにしてください。
- Fシリーズは走行中に変速はできません。必ず止まって変速してください。
- FXシリーズはノークラッチですので、クラッチを踏まずに主変速レバーで操作できます。副変速は停止して変速してください。

停止・駐車のしかた

- ①アクセルレバーを低速側に戻して、スピードを落とします。クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んで停止し、主変速レバーを「中立」位置にします。
- ②F195(D)・FX195(D)は、左右のブレーキがコネクタで連結されていることを確認し、ブレーキを踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを引いて、ブレーキをロックします。
F215(D)・FX215(D)・F235(D)・FX235(D)・F255(D)・FX255(D)・F265(D)・FX265(D)は、駐車ブレーキレバーを上方に引いて駐車ブレーキを掛けます。
- ③作業機を取付けている場合は、作業機昇降スイッチを「下げ」に操作し、ポジションコントロールレバー、オートコントロールレバーを「解除」(下げ)方向に操作して作業機を降ろしてください。



10139/13D

停車・駐車についての注意事項

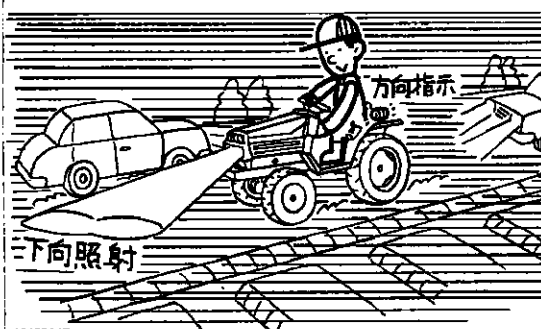


下記の事項を必ず守ってください。

- トラクタを停止または駐車し、トラクタから離れる場合は、必ず「駐車ブレーキ」を確実にロックしてください。
- このトラクタは、常時かみ合式のミッション機構を採用していますので、副変速「低」又は、クリープ変速(超低速)「入」の場合は、主変速が「中立」でもトラクタが動くことがあります。
特に、
 - ①ミッションオイルの温度が低いとき。
 - ②エンジン回転が高いとき。
 に起りやすくなりますが、この現象は異常ではありません。
- 駐車・停車の場合は、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。

7. 道路走行のしかた

- PTO変速レバーを「中立」位置にして、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。
- 走行スピードはアクセルレバー（フットアクセルペダル）で調節してください。
- 進路変更するときは、フラッシュスイッチによって進行方向を他の車に知らせなければなりません。
- バックミラーで後続車に注意し、追越しの妨害にならないようにしてください。
- 夜間走行時、対向車とすれ違うときは、ライトスイッチを下方照射とし、対向車の妨害にならないようにしてください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は、路肩に十分注意して、スピードを落して走行してください。



10132148

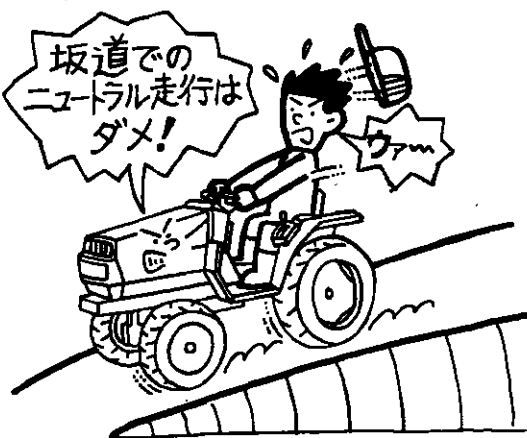


下記の事項を必ず守ってください。

- 道路走行するときは、関係法規を守り、安全のためヘルメットを着用してください。
- 運転者の他に人を乗せないようにしてください。
- ロータリなど作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反しますので作業機を取外して走行してください。

8. 坂道での運転のしかた

坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行してください。急な下り坂ではエンジnbrakeを活用してください。坂の途中ではクラッチペダルを踏まないでください。トラクタがすべり落ちて大変危険です。また、上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落してゆっくりと発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキでロックし、主変速レバーを「中立」位置にして停車してください。トラクタを離れる場合は、エンジンを停止して、車輪に歯止めをしてください。



10132140

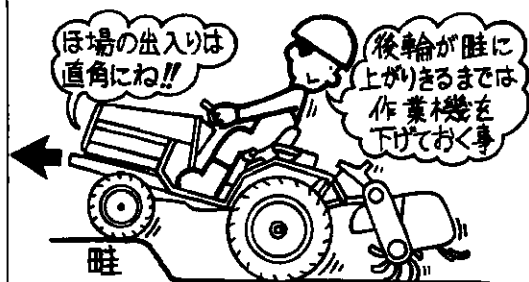


下記の事項を必ず守ってください。

- 坂道では主変速・副変速を中立にしたり、クラッチを切ったりして走行しないでください。
- 坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、車輪に歯止めをしてください。

9. ほ場への出入りのしかた

ほ場への出入りは、ほ場に対して、直角に出入りしてください。登り始めは、作業機を低くして重心を下げ、トラクタの前・後輪があぜにあがると同時に作業機を上げてください。



1013211C

【注意】

- 急傾斜ではバックで上がってください。
- ブレーキペダルは必ず連結してください。
- バックアップスイッチは、解除の状態（ランプが消えている）にしてください。

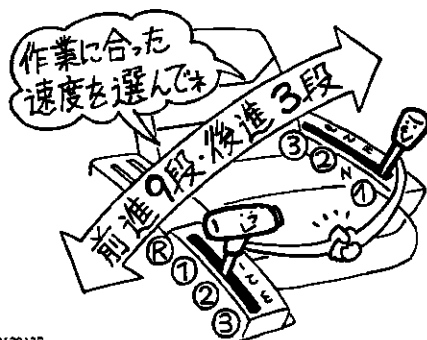


下記の事項を必ず守ってください。

急傾斜のほ場へ出入りや溝越え時は、十分強度のあるあゆみ板を使用してください。

10. 作業に適した速度の選びかた

主変速レバーと副変速レバーの組合せにより、前進9段・後進3段の速度が選べます。下表を参考にして、作業に合った速度を選んでください。



1013913B

変速段数	主変速	副変速	作 業
1	1	1	ロータリ耕うん
2	2		
3	3		
4	1	2	代かき ブラウ
5	2		
6	3		
7	1	3	ブラウ トレーラ 走行
8	2		
9	3		
R1	R	1	
R2	R	2	
R3	R	3	

11. ほ場での旋回のしかた

旋回するときは、エンジンの回転を落とし、ゆっくりなめらかに旋回してください。
ほ場での旋回は、左右ブレーキペダルを連結させているコネクタを外し、ハンドルを切ると同時に旋回しようとする側のブレーキペダルを踏込むと、小回りができます。作業機は上げて旋回してください。



10132134



下記の事項を必ず守ってください。

デフロックを入れたままで旋回しないでください。

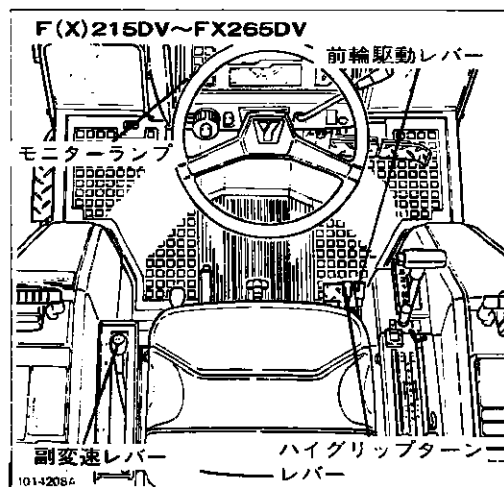
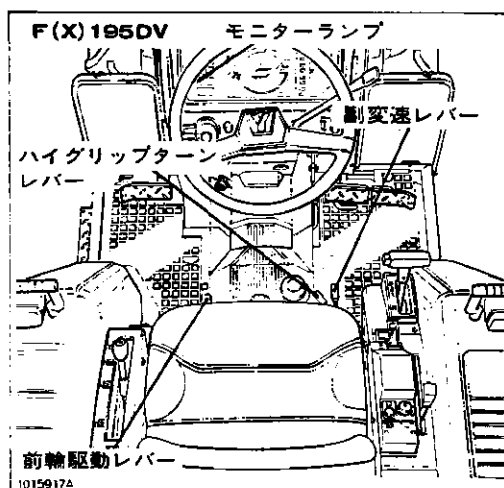
旋回の前に必ず解除してください。

12. ほ場での旋回のしかた

前輪倍速ハイグリップターン仕様について(V仕様のみ)

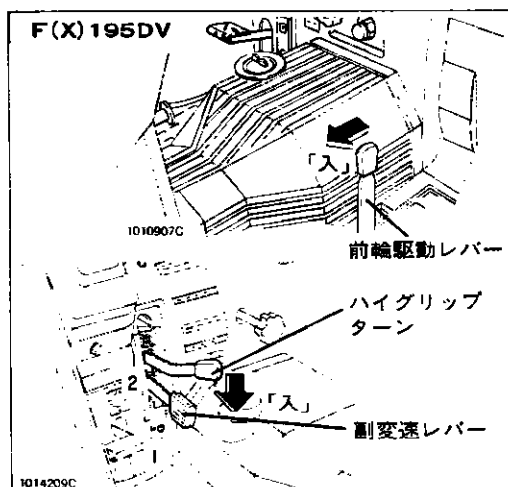
前輪倍速ハイグリップターンを使うと、スムーズに小まわりができ、「旋回跡が荒れない」、「旋回径が小さい」、「旋回時間が短い」などの特長を生かせます。

各部のなまえ

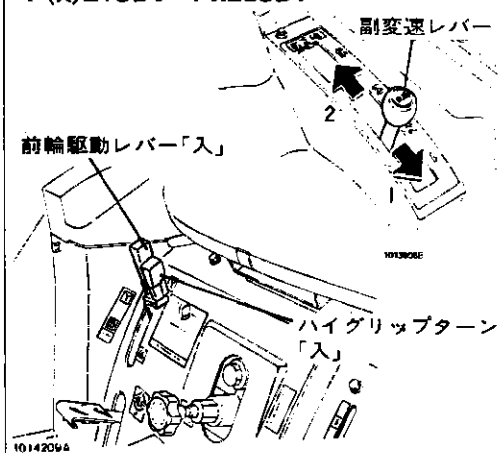


前輪倍速ハイグリップターンの使い方

副変速レバーが「1」・「2」速で、前輪駆動レバーが「入」のときにハイグリップターンレバーを「入」にすると、モニターランプが点灯し、ハイグリップターンがはたらきます。



F(X)215DV～FX265DV



【注意】

安全を確保するために、次のような機構が組込まれています。

1. ハイグリップターンレバーが「入」の状態
で、副変速レバーを「3速」に入れるとハイ
グリップターンレバーは「切」に動き、
ハイグリップターンが作動しなくなりま
す。
2. 副変速レバーが「3速」の状態、ハイグ
リップターンレバーを「切」から「入」に切
替えると、副変速レバーが「1速」または、
「2速」に切替わります。
3. 前輪タイヤを切った状態では、ハイグ
リップターンレバーの「入」・「切」ができな
いことがあります。前輪タイヤを直進状
態にしてから行なってください。



下記の事項を必ず守ってください。

1. ハイグリップターン「入」の状態で
 - 路上走行や傾斜地では、使用しないで
ください。
 - フロントローダや前輪に重荷重がかか
る作業には使用しないでください。
2. ほ場から出る前に必ずハイグリップター
ンを「切」にしてください。
3. ハイグリップターンを「入」・「切」または、
副変速レバーを高速側にする時は、前輪
タイヤを直進状態にしてから行なってく
ださい。

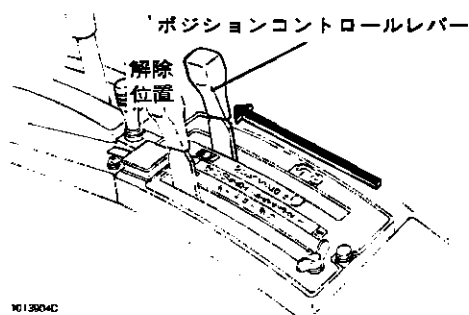
13. ロータリ耕での耕深設定のしかた

オートロータリの場合

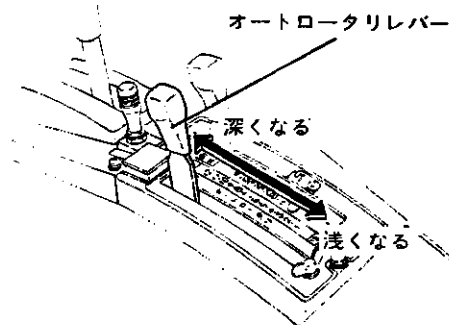
OK-UFO仕様は、「OK-UFO仕様について」(41ページ)を参照してください。

オートロータリは、凸凹の多いほ場でも耕深が一定になる機能です。一般耕うん、代かきなどに効果を発揮します。次の要領で耕深を設定してください。

- ①ポジションコントロールレバーを「解除」位置(最下げ)にしてください。



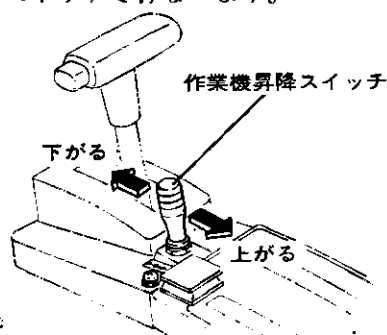
- ②オートロータリレバーで、下表を参考にして耕深を設定してください。



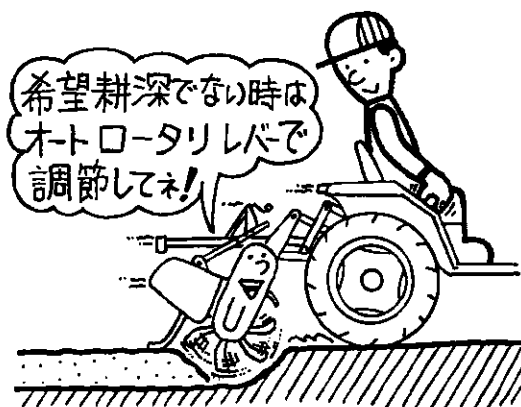
目盛位置	作業内容
1～4	代かき、浅耕
4～8	一般耕うん
9～10	深耕

【注意】

- 目盛10以上では、オートロータリは作動しません。
- 目盛の数字は、深さをあわせるための目安です。同じ目盛でもほ場条件や、回動位置により深さが変わります。
- ③作業機昇降スイッチで作業機を降ろし、耕うんを始めます。作業機の上下は作業機昇降スイッチで行ないます。



- ④耕うんを始めて、実際の耕深を見ながら希望の耕深でないときは、オートロータリレバーで耕深を調節してください。

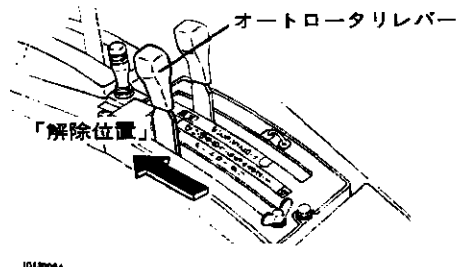


【注意】

- 代かき作業のときは、作業後必ずグリスアップを行ない、汚れたグリスを押し出してください。

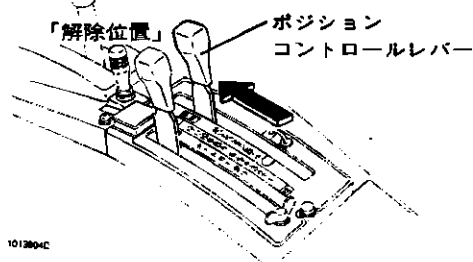
尾輪(オプション)使用の場合

- ①オートロータリレバーを「解除」(最下げ)位置にします。



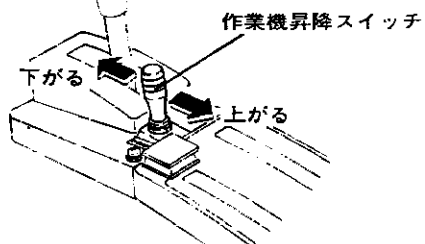
101260A

- ②ポジションコントロールレバーを「解除」(最下げ)位置にします。



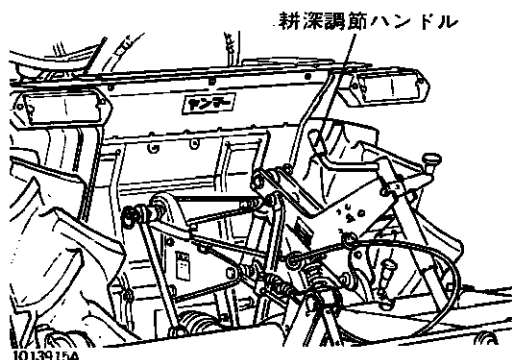
101260C

- ③ロータリの上下は、作業機昇降スイッチで行ないます。



1013904C

- ④耕深調節は、耕深調節ハンドルで行ないます。



1013915A

14. ロータリ以外の作業機を使う場合の耕深設定のしかた

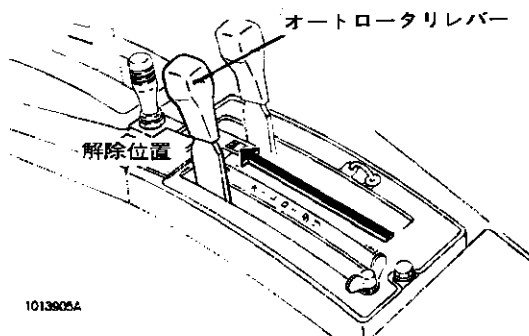
ポジションコントロールの使いかた

OK-UFO仕様は、「OK-UFO仕様について」(41ページ)を参照してください。

作業機の高さを任意の位置に保持する機能です。ロータリ以外の一般作業機での作業に使用します。

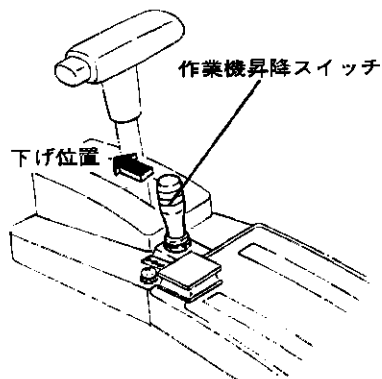
作業位置の決定は、次の要領で行なってください。

- ①オートロータリレバーを「解除」(最下げ)位置にします。



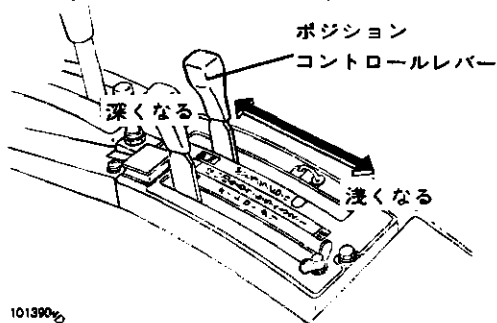
1013905A

- ②作業機昇降スイッチを「下」方向に操作して作業機を降ろします。



1013904C

- ③ポジションコントロールレバーで、希望する作業位置に設定します。

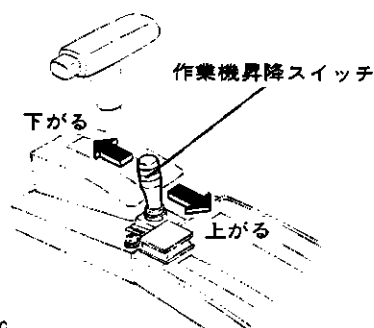


1013903

【注意】

作業機昇降スイッチが「上」位置にあるときは、ポジションレバーを操作しても作業機は下がりません。

- ④作業機の上下は、作業機昇降スイッチで行ないます。



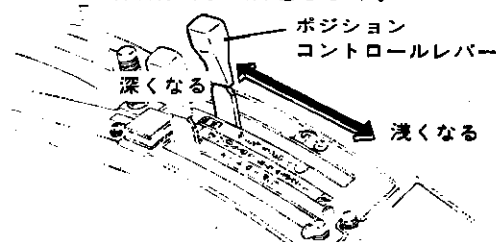
1013904C

15. オートロータリとポジションコントロールを併用して使用する場合の耕深設定のしかた

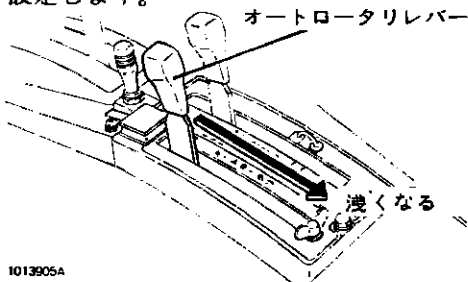
ミックスコントロールの使い方

ミックスコントロールとは、オートロータリとポジションコントロールを併用して使用するもので、下げ側のみを規制する機能です。湿田耕うん、凸凹の多い代かき作業などに効果的です。作業位置の設定は次の要領で行なってください。

- ①作業機昇降スイッチを「下げ」位置にします。
- ②ポジションコントロールの設定要領で、希望する作業位置に設定します。

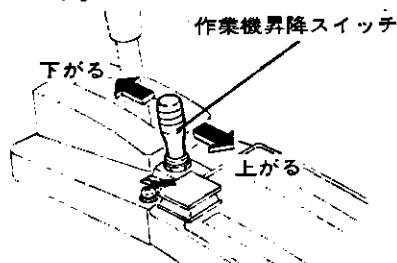


- ③オートロータリレバーを徐々に「浅」の方向に動かし、ロータリが作動する位置に設定します。



1013905A

- ④ロータリの上下は、作業機昇降スイッチで行ないます。



1013904C

耕深設定表

耕深設定 方法 作業機	オート	ミックス	ポジション
ロータリ	○	○	○
その他	×	×	○
用途	一般的ほ場	凸凹軟弱のある特殊ほ場、一般的ほ場	手動操作による任意の耕深を得たいほ場

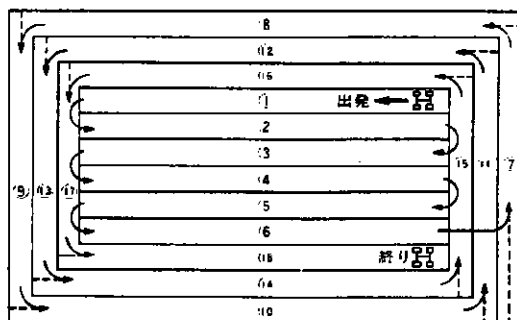
16.ロータリ耕うんのしかた

- ①前輪タイヤ、後輪タイヤの輪距は、標準状態にしてください。
- ②作業条件により、車速は1～2速で爪回転を1～3段にして耕うんを始めます。
- ③耕うん方法は数種類ありますが、ほ場の条件によって適切な耕法を選んでください。一般的には、ロータリ耕うんは隣接耕が標準です。
- ④いずれの耕法による場合でも、トラクタの旋回できるだけの枕地と同じ幅を、ほ場の両側に残して内側から作業を始めます。(目安として耕作地の周囲を約2.6m残します)
- ⑤耕うん時は、前・後輪タイヤがすでに耕うんしたところに落ちないように、気をつけながら運転します。
- ⑥サイドドライブロータリは、右サイドフレーム側があげぎわによるようにして、耕うんすると残耕が少なくなります。

〈隣接耕うんの順序〉

- 一般的なロータリ耕うん方法です。
- 図のような順序をとるのは、いちど耕うんした所を後輪タイヤで踏まないための、最善の方法です。
- したがって出発点は、トラクタが最後に外へ出る場所によって決まります。

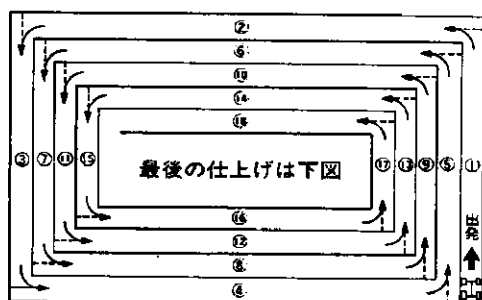
← 進行方向 ←----- いったんバック



1013222C

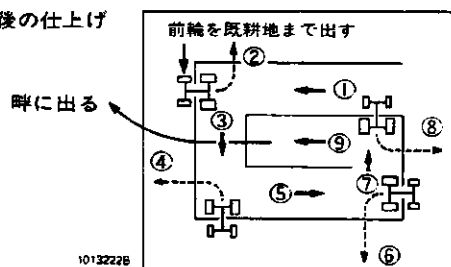
＜回り耕うんの順序＞

- 弱湿田または湿田地で、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。
- 耕うん順序は外周部から仕上げていきます。
- トラクタが最後に出る場所は、畔に近い所から出てください。



1013221A

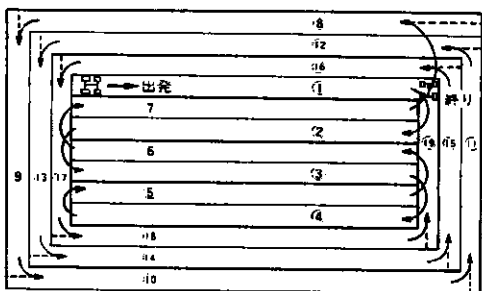
最後の仕上げ



1013222B

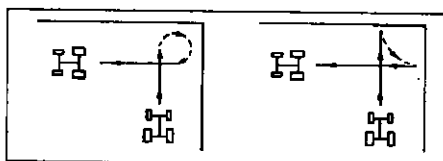
＜一畦置き耕うんの手順＞

一畦置き耕うんは、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。



1013222D

＜トラクタの方向転換＞



1013223A

17. デフロックの使いかた

デフロックペダルを踏むと、差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。

湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用すると効果があります。

上手に使用すると非常に役立ちますが、使用法を誤ると事故や故障の原因となりますので注意してください。

デフロックペダル



1013911C

【注意】

- デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行なってください。
- 抜けにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
- クリープ(超低速)での使用は、絶対さけてください。

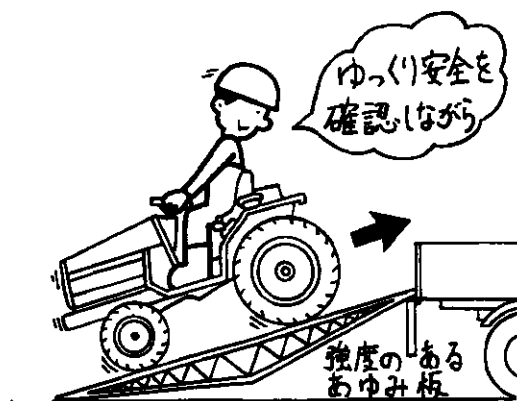


下記の事項を必ず守ってください。

デフロックを入れたままで旋回しないでください。

18.トラックへの積み込み・積降ろしのしかた

- ①十分な強度と長さのあゆみ板を使用します。
- ②ブレーキペダルは必ず連結してください。
- ③バックアップ解除スイッチは「切」の位置にしてください。
- ④副変速レバーを「I」、主変速レバーを「R」位置でエンジン回転を低速にして積込んでください。
- ⑤途中でエンジンがストップした場合は、一旦下まで降りてエンジンを再スタートしてください。



19.後輪車輪幅(輪距)の調節のしかた

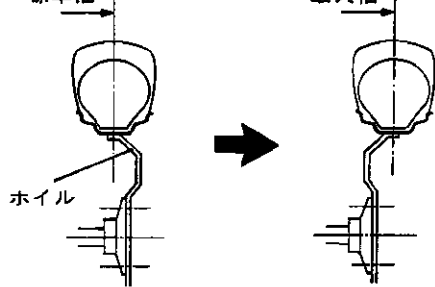
作業の種類・作物の条間に合わせ、トラクタの車輪幅を調節してください。また、傾斜地作業やけん引作業には、車輪幅を広げて使用してください。

- ①駐車ブレーキをかけ前輪に歯止めをした後、ジャッキを使って車体を上げ、後輪を浮かせてください。
- ②調節はタイヤ左右を入れ換えておこないます。

F195(D)・FX195(D)・F215(D)・FX215(D)
FX215(D)・F235(D)・FX235(D)

標準幅

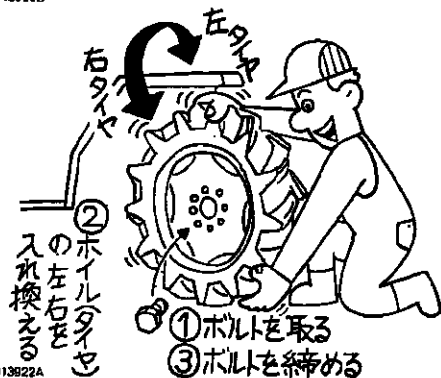
最大幅



10136208

標準

タイヤ左右の入れ換え



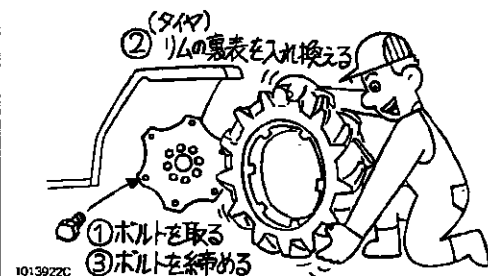
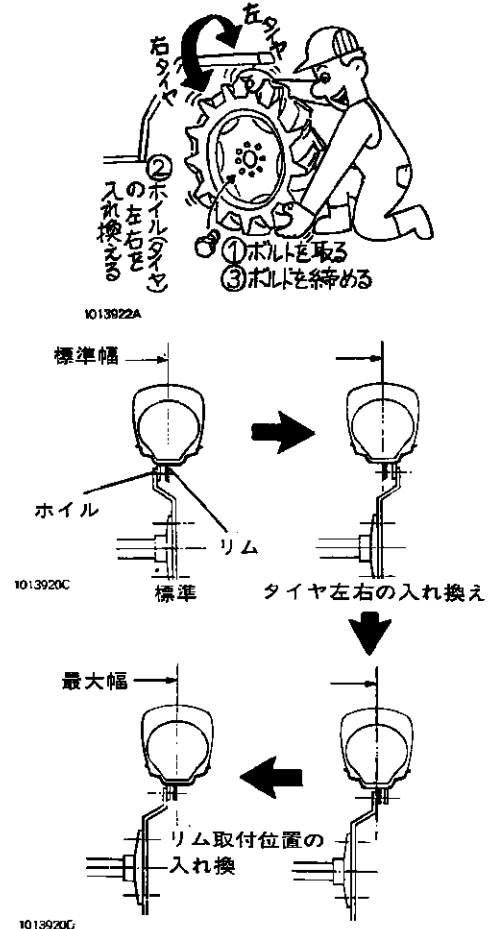
1013622A

車輪幅(mm)

	標準幅	最大幅
F195(D)・FX195(D)	940	1060
F215(D)・FX195(D)	970	1090
F235(D)・FX235(D)	970	1090

③F255(D)・FX255(D)・F265(D)・FX265(D)はホイールの入替え、およびリムとホイールの組替えで行ないます。

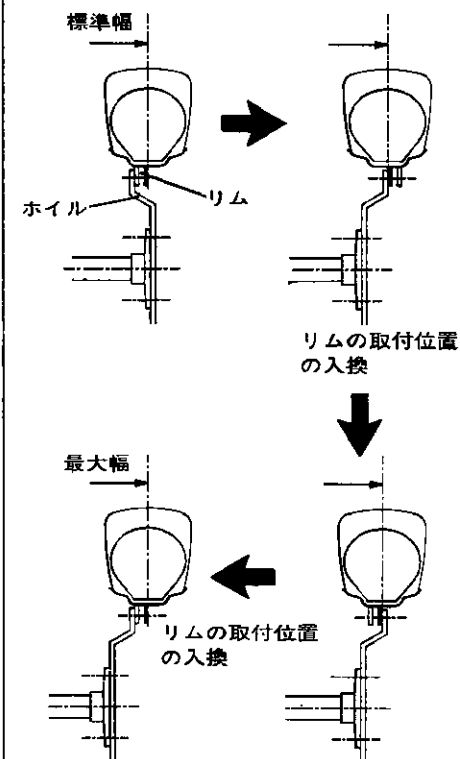
F255(D)・FX255(D)



車輪幅(mm)

	標準幅	最大幅
F255(D)・FX255(D)	1020～1320(4段)	

F(X)265(D)



車輪幅(mm)

	標準幅	最大幅
F265(D)・FX265(D)	1075～1375(4段)	

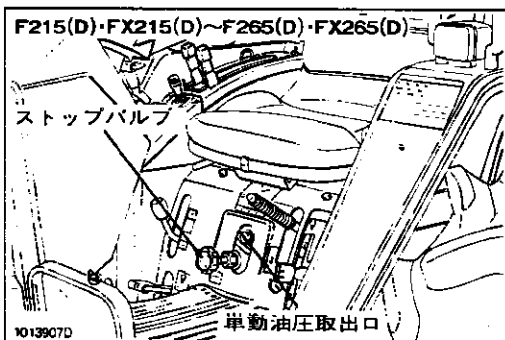
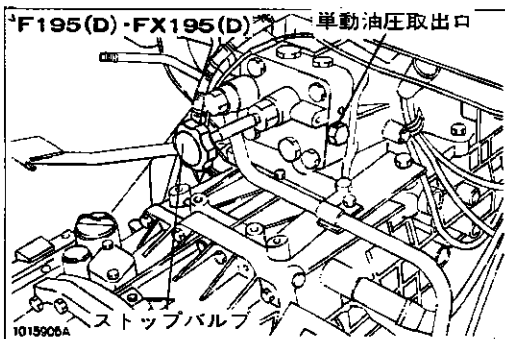
20. 油圧外部の取出しかた

単動シリンダ…ダンプトレーラなど

ダンプトレーラなど単動シリンダの場合、シリンダヘッド油圧取出口のプラグを外し、作業機側のホースを取付けます。

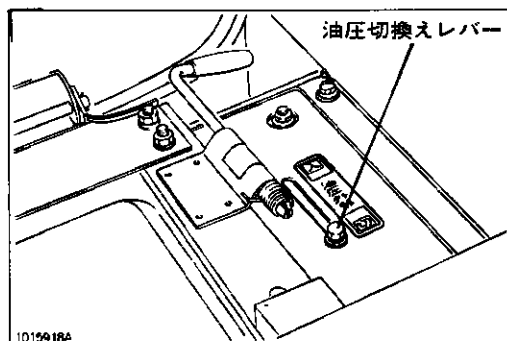
〈操作要領〉

- ①ポジションコントロールレバーを「解除」位置にします。
- ②油圧ストップ・スローリターンバルブを「閉」方向にいっぱい締めます。
- ③ポジションコントロールレバーを操作して、作業機を動かします。



複動油圧取出口…タフネスローダ、ミニローダなど

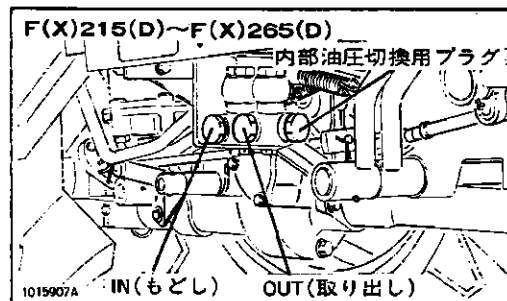
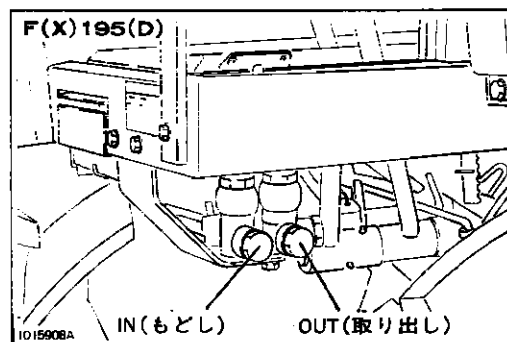
- ①座席シート下の外部油圧切換えレバーを、「入」の位置にセットしてください。



- ②トラクタの右ステップ下部前側にある外部油圧取出口を、作業機のバルブと配管してください。

内側—OUT(取り出し)

外側—IN(もどし)



※OK-UFO仕様は油圧切換えレバーはありません。

※油圧作業機の詳しい取付けかたは、各作業機の取扱説明書を参照してください。

21. 作業機の取扱いについての 注意事項



下記の事項を必ず守ってください。

- 作業機の着脱は、平坦な場所で、安全な方法で確実に行ってください。とくに夜間の作業機の着脱は、適切な照明を用いるなど、安全に留意して行ってください。
- トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。
- 重い作業機を連結または装着した場合には、トラクタにバランスウエイトを付けて、バランスの良い状態を保ってください。
- 作業機を調整する場合は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、PTO変速レバーが「中立」位置にあることを確認したうえで行ってください。
- けん引作業をするときは、必ずけん引ヒッチを使用し、他の所で引張らないようにしてください。
- PTO軸を使用しないときは、必ずPTO軸カバーを取付けておいてください。
- けん引作業、傾斜地での作業などは、輪距を広くして使用してください。
- 低速回転用作業機を高速回転ですると危険です。作業機指定のPTO回転速度を守ってください。
- トレーラをけん引する場合、トレーラ側のブレーキを連動し、坂の途中での変速はさけてください。
- 作業機を装着すると、かなりの長さになりますので、旋回時は近くの作業員や障害物に注意してください。

22. パワーステアリングについて (P仕様・オプション)

【注意】

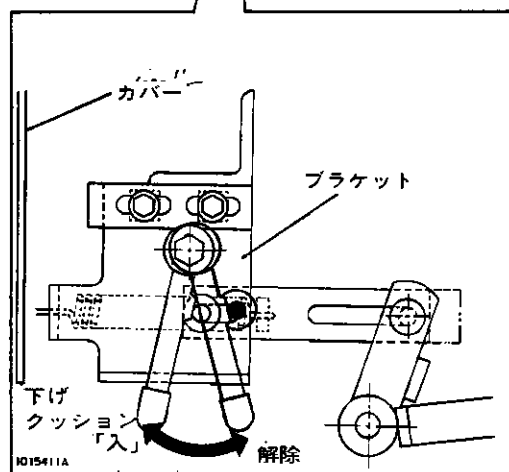
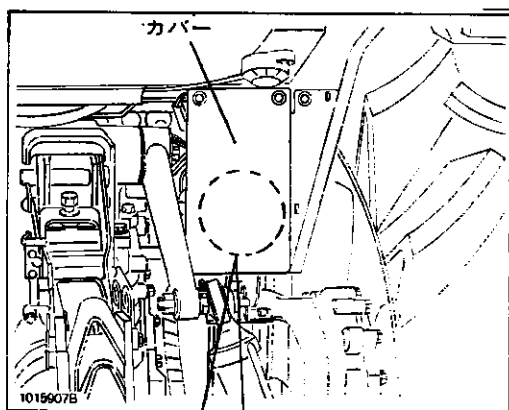
- パワーステアリングは、エンジン運転中のみ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは、多少ハンドルが重くなります。
- ハンドルをいっぱい切るとリリーフ弁が働き、信号音が出ます。短時間であればかまいませんが、この音が鳴ったまま運転しないでください。
- 走行しないでハンドルを切る（スエ切り）ことは、タイヤやリムなどの損傷を早めますので、必要なとき以外はしないでください。
- エンジン運転中は、ハンドル操作が大変軽くなっていますので、道路走行など慎重に行ってください。

23. 下げクッション機構

(UFO仕様以外)

このトラクタには、作業機を下降させるとき、接地直前のスピードが遅くなる下げクッション機構が装備されています。

フラウ、スキ作業などで下げクッションを働かせないときは、トラクタ右後部のカバーを取り外してダンパ解除レバーを解除位置にして使用してください。



OK-UFO仕様について (U仕様のみ)

1. 各部のなまえとはたらき

通常作業に必要なもの

バックアップボタン

ランプ消灯時、ボタンを押すと、ランプが点灯し、バックアップ機構が働きます。

主変速レバーを「R(後進)」位置に入れると、自動的に作業機が上ります。ランプ点灯時、ボタンを押すと、ランプが消灯し、バックアップ機構が解除されます。

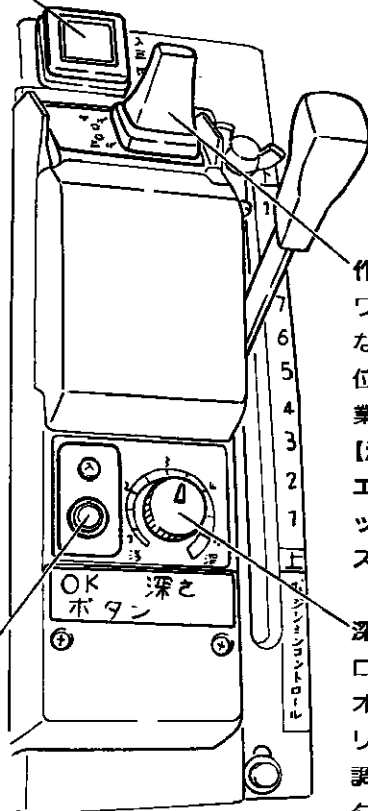
【注意】

次のような作業では、バックアップ機構は解除してください。

- トラクタへの積み込み・積降し作業
- 畦こえ・ほ場への出入り作業
- 果樹園・ハウス内作業で支柱や木に当たる場合
- トレーラなど作業機を上下しない作業

OKボタン

ボタンを押すと、ランプが点灯し、深さ・傾き・カバー回動位置を自動設定し、同時に下げクッション機能も働きます。このとき、パネルの表示ランプ「深さ」「傾き」が点灯します。



1018527A

作業機昇降スイッチ

ワンタッチで作業機の上げ下げが行なえます。ポジションレバーで下げ位置を設定すると、設定位置まで作業機が下降して停止します。

【注意】

エンジンを停止しても、メインスイッチが「ON」の場合は、作業機昇降スイッチで下降します。

深さダイヤル

ロータリの耕うん深さを調節します。オートロータリ使用時には、ロータリカバーの回動位置も設定耕深と同調させて自動的に設定されます。ダイヤルで設定した耕深は、パネルの表示ランプに表示されます。

① リフトランプ

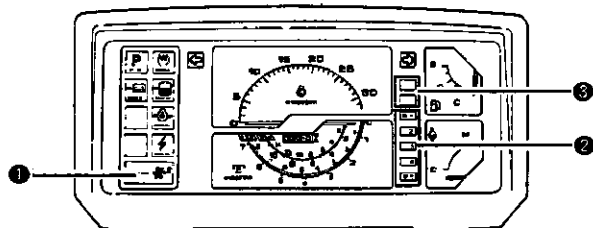
リフトランプが点灯している場合は、自動が働きませんので、昇降スイッチを「下げ」側に操作して、ランプを消灯してください。

② 耕深表示ランプ

深さダイヤルで設定した耕深をランプで表示します。

③ 深さ・傾き表示ランプ

ランプが点灯しているときは、自動が働いています。



1015919A

特定の作業に使うもの

作業条件を設定する必要がある場合は、カバーを開けて、調節してください。

カバー回転位置設定スイッチ

スイッチを操作してロータリカバーの回転位置を任意に設定できます。「深さ」自動の場合には、設定操作中に、カバーが深さダイヤル同調位置を通過する場合は、同調位置で一旦停止します。

カバー位置を回転させても、耕深は深さダイヤルで設定した位置を保持します。

●ロータリ脱着時

パネルの表示ランプ「深さ」「傾き」が点灯している場合は、OKボタンを押して表示ランプを消灯状態にして、ロータリカバーを「脱着」位置にしてください。

作業切換ボタン

ボタンを押すと、「深さ」のみ自動・「傾き」のみ自動・「深さ+傾き」自動に順次切り替わります。どのレンジに入っているかは、パネルの表示ランプに表示されます。

傾き設定スイッチ

作業機の傾きを任意に設定できます。

●「傾き」自動で使用する場合

パネルの表示ランプ「傾き」が点灯しているとき、設定スイッチを操作して、作業機を任意の角度に設定すれば、トラクタの傾きにかかわらず、作業機を地面と一定の角度に保つことができます。

設定操作中に、作業機が地面に対して水平位置を通過する場合は、水平位置で一旦停止します。

作業機の傾き微調整スクリュー

作業機の水平を調整するのに使用します。

水平な場所で、作業機を地面から、5～10cm位浮かした状態で「傾き」自動にして、調整スクリューを⊖ドライバーで回し、作業機が水平になるように調整してください。

下げクッションボタン

「深さ」自動の場合、下げクッションの「作動」・「解除」を選択することができます。ボタン横のランプが点灯しているときは、下げクッションが働いています。

深さダイヤルの設定位置に同調してクッションのきき始めの高さを自動調節します。

上げ位置ダイヤル

作業機昇降スイッチまたは、バックアップで作業機を上げたときの作業機の最上げ位置を設定します。

【注意】

ポジションレバーを「最上げ」位置にしたときは、ダイヤル設定位置にかかわらず作業機は、最上げになります。

●「傾き」手で使用する場合

パネルの表示ランプ「傾き」が消灯しているとき、設定スイッチを操作して、作業機を任意の角度に設定すれば、トラクタに対して一定の角度に保つことができます。

設定操作中に、作業機がトラクタに対して平行位置を通過する場合は、平行位置で一旦停止します。

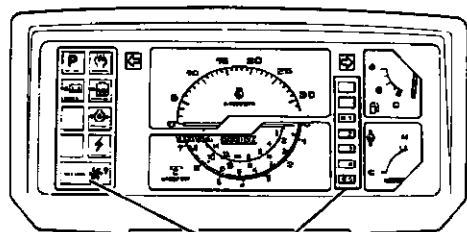
10165278

2. 基本的な使いかた

路上走行のとき

路上走行するときは、作業機が自然に下降したり、傾いたりしないように、次の処置を行なってください。

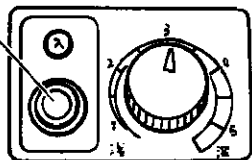
パネルの表示ランプが点灯している場合は、OK ボタンを押して、表示ランプ「深さ」・「傾き」を消灯状態(手動)にしてください。



1015919A

表示ランプ

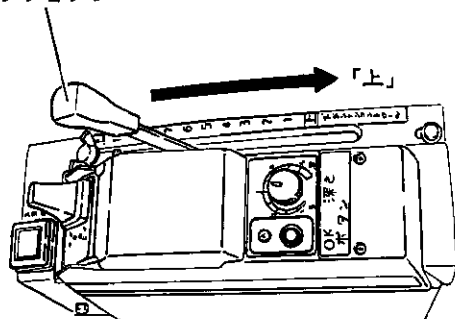
OKボタン



1016527B

ポジションレバーを最上げ「上」位置にして作業機を上げてください。

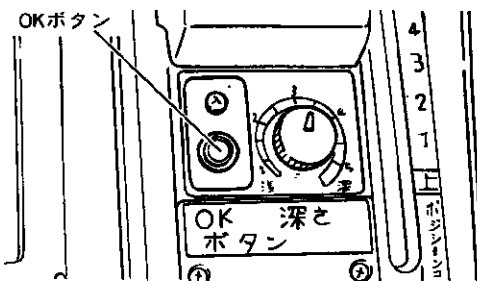
ポジションレバー



1016527A

ロータリ作業

パネルの表示ランプが消灯しているときは、OK ボタンを押して、「深さ」「傾き」のランプを点灯させてください。

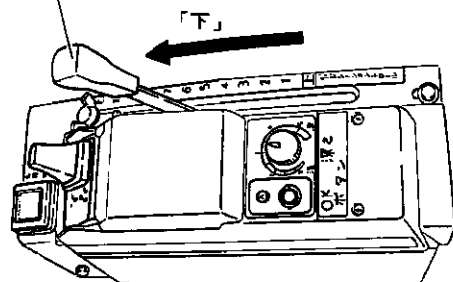


1016527A

深さダイヤルで耕深を設定した後、作業機昇降スイッチでロータリを下ろしてください。

※ポジションレバーは、最下げ「下」の位置にしておいてください。

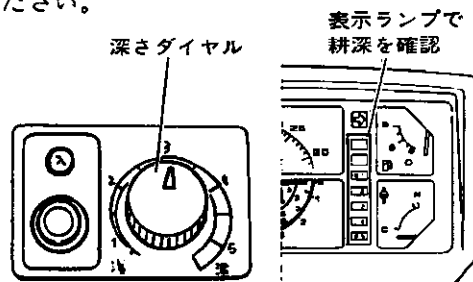
ポジションレバー



1016527A

作業機昇降スイッチ

実際の耕深を見ながら、希望の耕深でないときは、深さダイヤルで耕深を調節してください。



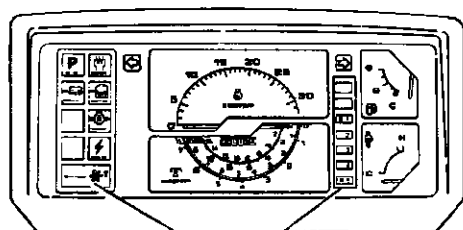
1016527B

1015919A

目盛位置	作業内容
浅 ~ 3	代かき・浅耕
3 ~ 5	一般耕うん
4 ~ 深	深 耕

3. センサ異常時の表示について

センサに異常が発生した場合は、パネルの表示ランプが点滅します。この場合は、正常作業が行なえなくなりますので、ヤママーの販売店までご連絡ください。



1015019A

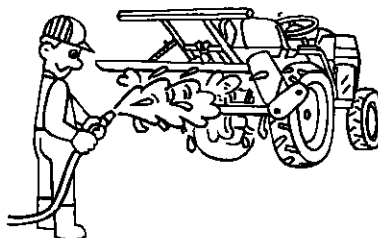
表示ランプ

ヒューズについて

ハーネスのショートなどにより、UFO関係のヒューズが切れた場合は、コントロールボックス下部のサイドカバーを取外し、ヒューズホルダ部のヒューズを交換してください。

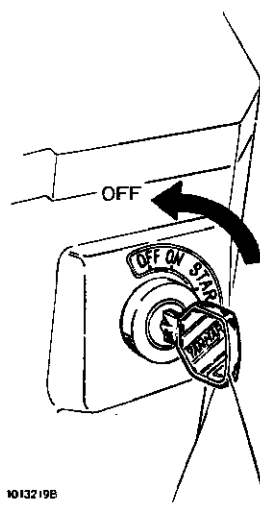
4. 使用後の手入れ

使用後洗車する場合(特に高速洗車)は、コントロールボックス・電磁バルブ・センサ類への直接洗車はさけてください。



1013921B

長期間保管の場合は、必ずキースイッチを「OFF」にしておいてください。

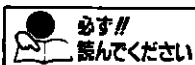


1013219B

キースイッチ

作業後の手入れについて

正しい手入れを行なってください。



1. 作業後の手入れ

その日の内にトラクタを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各グリス注入部(グリスニップル)には、グリスアップを行なってください。

【注意】

電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。



下記の事項を必ず守ってください。

シートをかける場合は、エンジン停止後約10分間放置して、エンジンが冷えたことを確認してからかけてください。

2. 長期間使用しない場合の手入れ

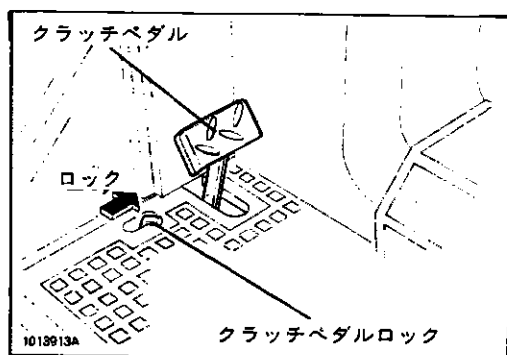
トラクタを長期間使用しない場合は、次の要領で整備し、格納してください。

- ①乾燥した風通しの良い所で、ウェイト等は取外し、ロータリも取外するか、降した状態にして、下には板を敷いてください。



- ②外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。
- ③燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴がで、サビの原因になります。燃料コックは「C」(閉の状態)にしてください。
- ④バッテリーを完全充電し、なるべく本機から取外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、本機に取付けたまま保管するときは、必ずアース側(一側)を外してください。
- ⑤冷却水を抜き取ってください。
- ⑥エアクリーナ・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。

- ⑦クラッチは、クラッチの錆付きを防止するため、クラッチを踏込んだ状態でクラッチペダルロックをかけてください。

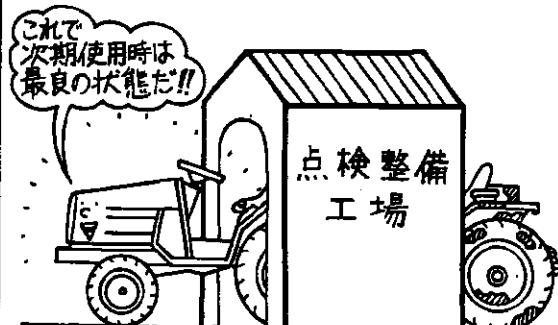


- ⑧タイヤには、前・後輪とも、正規の空気圧にしてください。
- ⑨バックアップ切替スイッチを「切」の位置にしてください。

【注意】

バッテリーは、使わなくても自然放電します。
1ヵ月に1度は充電器で完全充電してください。

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。



手入れと点検・調整 — 定期的に正しい点検をしてください。

定期点検や整備は、農閑期に行ない農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行なえます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年毎にヤンマー整備工場で定期点検・整備を

受け、各部の保安を確保してください。特に燃料パイプや、ラジエータホースなどのゴムホース類や電気配線は2年毎に交換するようにして、常に機械を最良の状態安心して作業が行なえるようにしてください。

1. 定期点検一覧表

アワメータ表示時間 実施項目	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	550時間目	600時間目	参照ページ
エンジン潤滑油交換	○	○		○		○		○		○		○	49
ミッションオイル点検(交換)	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	50
フロントアクスルオイルの点検(交換)	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	51
パワーステアリングオイル点検・交換	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	
エンジンオイルエレメント交換	交換					交換						交換	52
ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)交換	○					○						○	53
エアクリナエレメント点検(交換)	○	○	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	56
防塵網のゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	56
冷却ファン・ラジエータのゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	61
冷却水の点検(交換)	作業時毎に点検(1年毎に交換)												54
ラジエータ内部の掃除	冷却水交換時												54
ミッションオイルコシ器洗浄(交換)	○					○						交換	
燃料コシ器の洗浄およびエレメントの交換		○		○		交換		○		○		交換	53
バッテリー液量点検	作業時毎に点検												56
バッテリー液比重点検および補充電		○		○		○		○		○		○	56
燃料パイプおよび結合部の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	57
ラジエータホースの点検・交換	2年毎に交換												57
燃料パイプ・電気配線の交換	2年毎に交換												57
電気配線の点検 ^{※1}	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	57
各部グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	58
ステアリング各部締付点検		○		○		○		○		○		○	
重要ボルトナットの点検(増締)	○	○		○		○		○		○		○	
冷却ファンベルトの点検	○	○		○		○		○		○		○	61
エンジンのブリーザパイプの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
エンジンクランクケースの洗浄						○						○	
吸排気弁間隙の点検												○	
燃料噴射弁の点検												○	
発電機、始動電動機の点検	○	○				○				○			
油圧装置の点検	○	○				○				○			

※1 50時間毎に点検を基本としますが、使用時間が満たない場合は1年毎に行なってください。

※2 交換の必要なものは、使用時間に達してなくても2年毎に交換してください。



下記の事項を必ず守ってください。

- 点検・整備をするときは、エンジンを確実に停止させ、車輪に歯止めをしてください。
- 点検・整備などで取外したカバーなどは、必ず取付けてください。

手入れと点検調整 — 定期的に正しい点検をしてください。

2. オイル・グリス・不凍液一覧表

種 類	販売メーカー	共 同 石 油	日 本 石 油	コ ス モ 石 油
燃 料		ヤンマー重油または ディーゼル軽油(JIS 2 号)	ヤンマー重油または ディーゼル軽油(JIS 2 号)	ヤンマー重油または ディーゼル軽油(JIS 2 号)
エンジンオイル (新SAE、QC級) (JIS K2216 2 種) (DG または DM)		ヤンマースーパーオイル ヤンマースーパーオイル デラックス	ヤンマースーパーオイル ヤンマースーパーオイル デラックス	ヤンマースーパーオイル ヤンマースーパーオイル デラックス
グ リ ス (マルチパーパスタイプ)		共石リゾニックス グリースNo.2	2 号エピノック グリース	リマックスまたは リマックスEP
不 凍 液 (JIS K2234 2 種) (パーマネントタイプ)		ヤンマースーパー フリーズ	ヤンマースーパー フリーズ	ヤンマースーパー フリーズ
ミッションオイル 油圧兼用パワステオイル		TF-500トランスミッション フルード	TF-500トランスミッション フルード	TF-500トランスミッション フルード

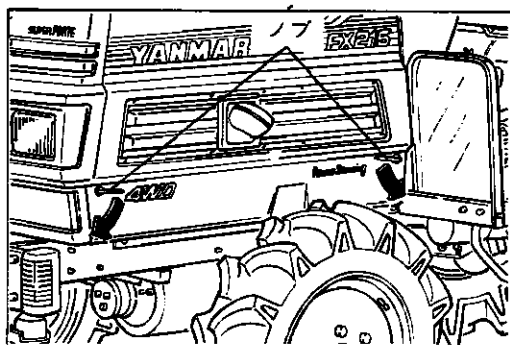
注) 気温 -10℃ 以下の時、燃料は特 3 号軽油を使用してください。

3. 給油・給水一覧表

		F195(D)	FX195(D)	F215(D)・FX215(D)・F235(D)・FX235(D) F255(D)・FX255(D)・F265(D)・FX265(D)	種 類
燃 料		25 ℓ		25 ℓ	ヤンマー重油・ディーゼル軽油
冷 却 水	ラジエータ	4.5 ℓ		4.5 ℓ	清水・ヤンマー不凍液
	サブタンク	0.75 ℓ		0.75 ℓ	清水・ヤンマー不凍液
エンジンオイル		4.0 ℓ		4.0 ℓ	ヤンマースーパーオイル
ミッションオイル		15.5 ℓ	14.5 ℓ	24 ℓ	TF-500トランスミッション
フロントアクスルオイル (4 輪駆動)		3.2 ℓ		—	TF-500トランスミッション
		—		6 ℓ	ギヤオイル #90
パワステオイル		—		2.4 ℓ	TF-500トランスミッション

4. エンジンサイドカバーの開閉のしかた

- ① エンジンサイドカバー左右のノブを下の方に回し、エンジンサイドカバーを持ち上げると取外せます。取付けは取外しと逆に行なってください。

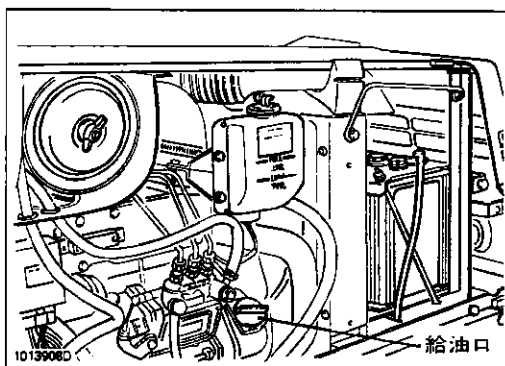
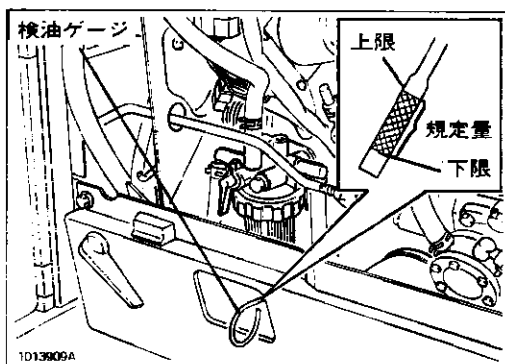


5. 各部オイルの点検・交換のしかた

エンジンオイル

点検

エンジン部右側横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいで差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。



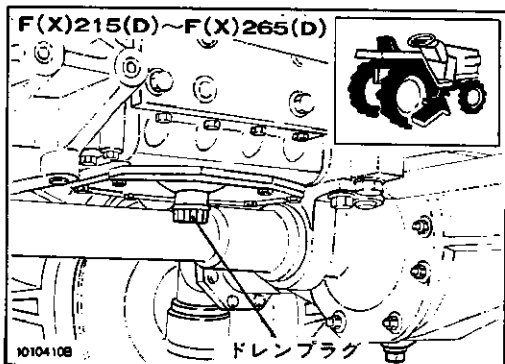
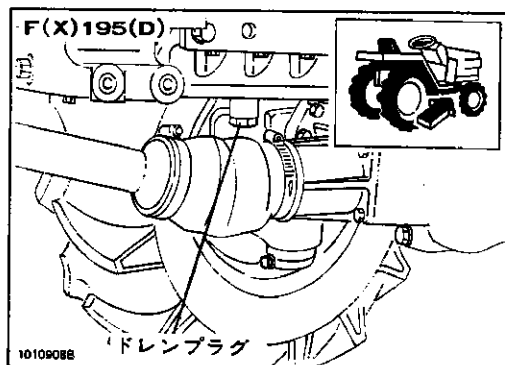
【注意】

- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

交換

エンジン下部のドレンプラグから排油してください。給油はエンジンの給油口からしてください。

エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわけることが大切です。



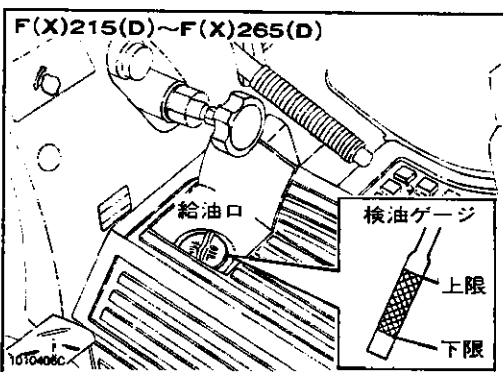
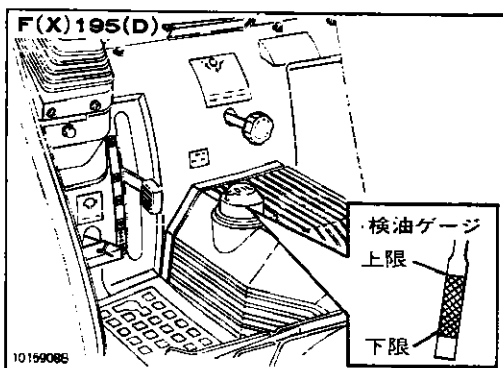
【注意】

- 排油のときは、オイルが少しあたたかいときに行なってください。

ミッションオイル

点検

運転席下の検油ゲージを抜き、ゲージの先端をきれいにふいてねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの規定量まで入れてください。



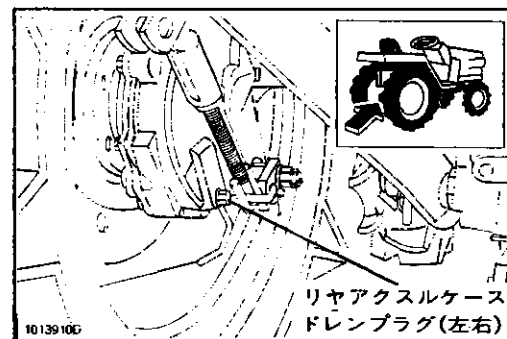
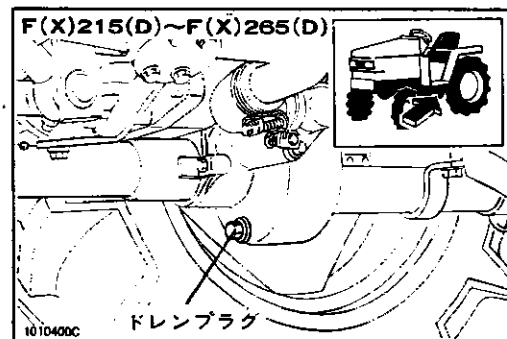
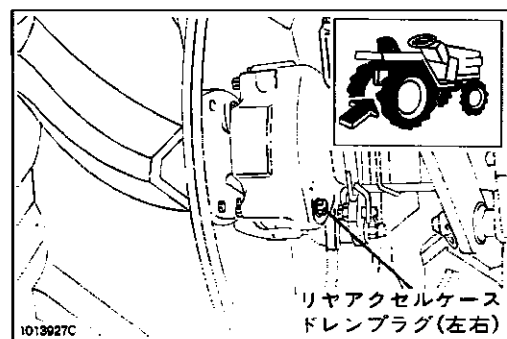
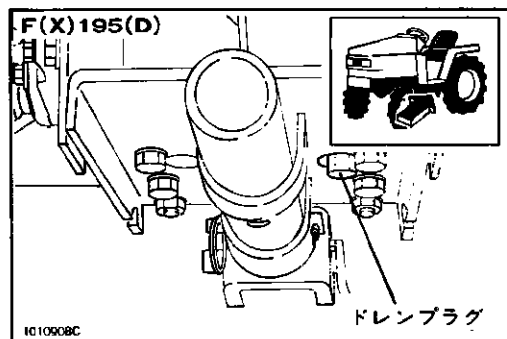
交換

ミッションケース左下(4輪駆動取出部)と、リアアクスルケース下部のドレンプラグ左右から排油してください。

オイルを抜くときは、ミッションが冷えない内に抜くときれいに抜けます。給油は運転席下部の給油口からしてください。

※ミッションオイルは必ずヤンマー純正TF 500トランスミッションフルードを使用してください。

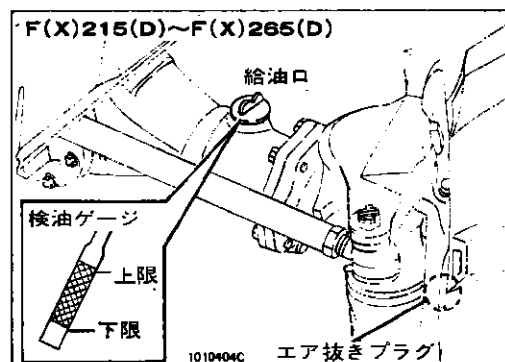
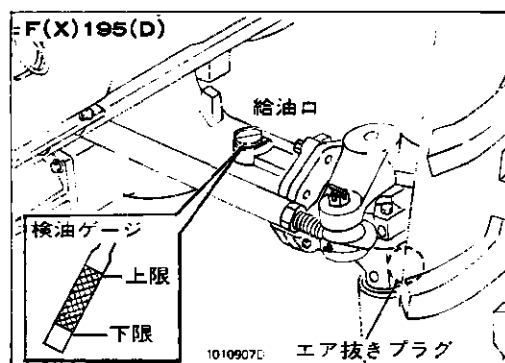
※ミッションオイルは、油圧オイルと併用しています。



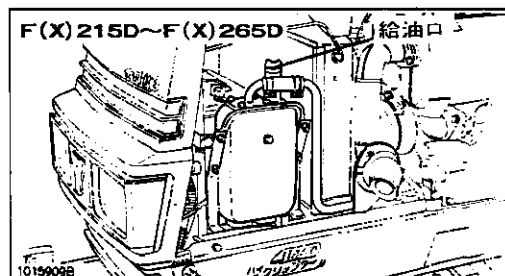
フロントアクスルオイル (4輪駆動車のみ)

点検

エア抜きプラグを外してください。(タイヤ裏側) フロントアクスル右側上部の給油口のふたをはずしてゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの規定量まで入れてください。



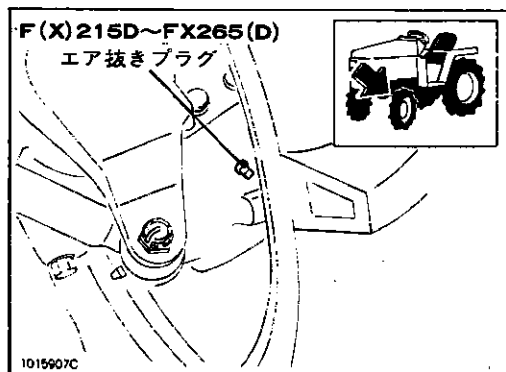
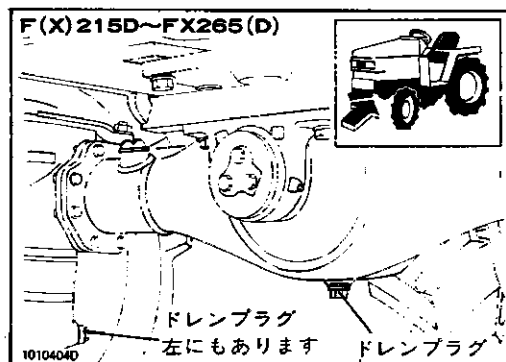
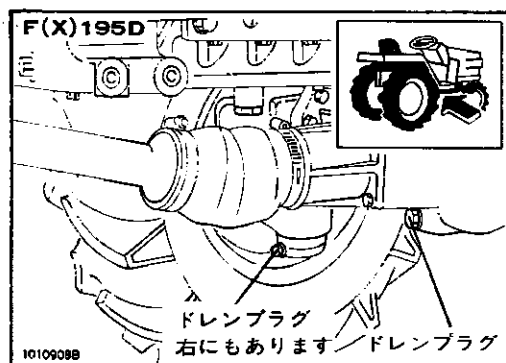
パワステオイル(オプション)



交換

フロントアクスル下部の左右ドレンプラグとセンタードレンプラグの3箇所から排油してください。

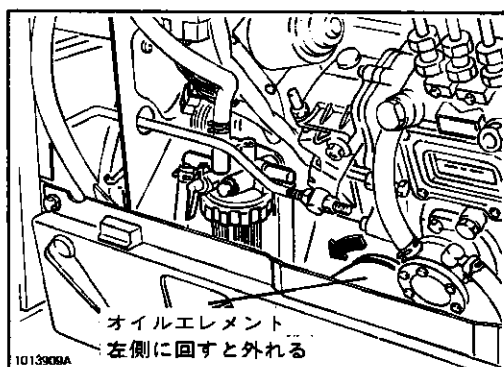
給油はエア抜きプラグを外し、フロントアクスル右側上部から行なってください。



6. 各部エレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメント

300時間または、エンジンオイルを2~3回交換ごとにエレメントを取替えてください。



交換

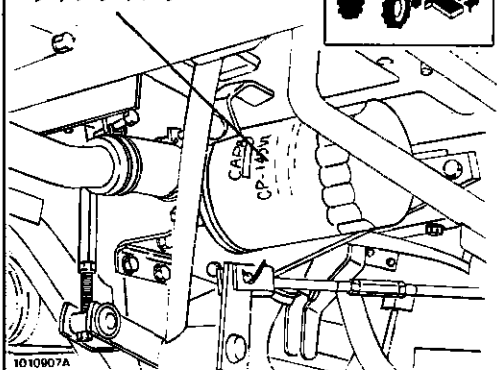
- ①エンジンオイルを抜き取った後、カートリッジをフィルタレンチで左側に回して外します。
- ②新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、フィルタレンチで確実に取付けてください。
- ③エンジンオイルを交換後、エンジンを始動して油圧パイロットランプが消えるまで回してください。
- ④油圧パイロットランプが消えたら、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば、補給します。

ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)

ラインフィルタは、カートリッジタイプになっています。300時間毎に交換してください。

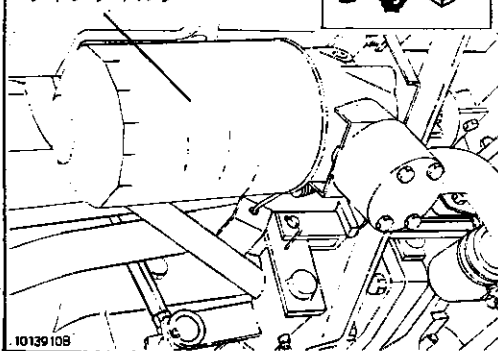
F(X)195(D)

ラインフィルタ



F(X)215(D)~F(X)265(D)

ラインフィルタ

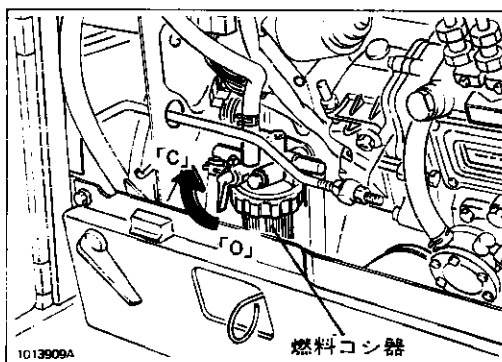


交換

- ① ミッションオイルを抜き取った後、ラインフィルタのカートリッジを左側に回して外します。
- ② 新しいラインフィルタの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、確実に取付けてください。
- ③ ミッションオイル交換後、エンジンをアイドリングにして、検油ゲージでオイルの量を点検し、不足している場合は補給してください。

燃料コシ器エレメントの清掃・交換

- ① 燃料コックを「C」(閉の状態)位置にします。
- ② コシ器を外し、コシ器内の水・ゴミを取除きます。
- ③ コシ器の洗浄が終わったら元通りに取付け、燃料コックを「O」(開の状態)位置にし、燃料エア抜きを行いません。(燃料のエア抜きのしかた55ページを参照してください。)



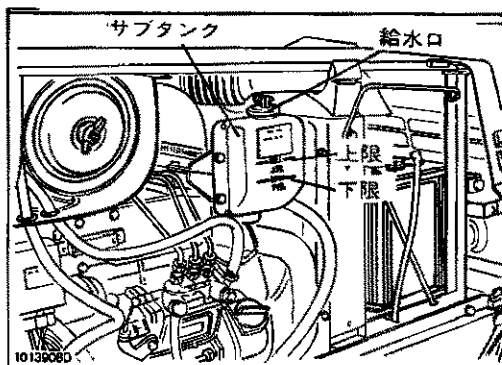
- ④ コシ器内のエレメントは、300時間毎に交換してください。

7. 冷却水の点検・交換のしかた

点検

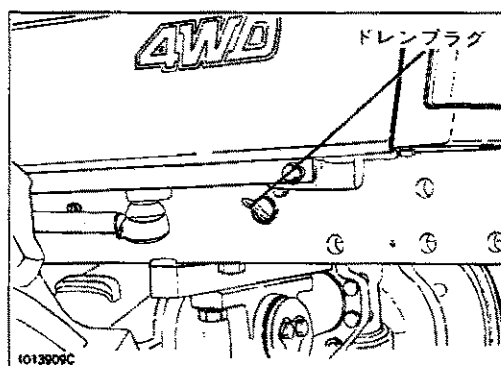
エンジンサイドカバー(右側)を開け、サブタンク内の水が「上限」から「下限」の範囲にあるか調べてください。

不足しているときは、サブタンクの給水口より清水を補給してください。



交換

- ① ラジエータキャップとドレンプラグを外し、ラジエータ内の水を全て抜きます。



- ② 水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ部を洗います。

※ラジエータ洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はいつもきれいになります。

- ③ ドレンプラグを取付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれるまで入れます。

- ④ ラジエータキャップをし、エンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。
<不凍液の取扱いについて>

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。出荷時にはヤンマースーパーフリーズ(オールシーズン)を使用しています。なお、不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯等においては下表を参照の上、安全な濃度で使用してください。

なお、工場出荷時の不凍液混合比率は、外気温 -15°C としております。

不凍液混合比率表

外気温(℃)	-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率						
水 (%)	82	73	66	61	55	49
不凍液 (%)	18	27	34	39	45	51

【注意】

- 新しい冷却水と交換するときは、必ず防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。
- 混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱書の指示にしたがってください。
- 冷却水が自然に不足した場合には、清水だけを入れてください。(セミパーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。)
- 不凍液の有効期限は1年です。毎年新しい不凍液と交換してください。

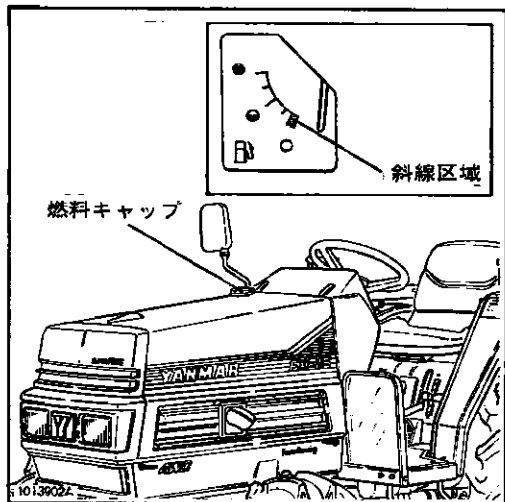


下記の事項を必ず守ってください。

ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。エンジン停止後、充分冷えてから開けてください。

8. 燃料の点検・給油のしかた

メインスイッチを「ON」位置にして、燃料計が斜線区域を指示したら、燃料キャップをはずして給油口より補給してください。



【注意】

給油するときは、こし網を使用してください。



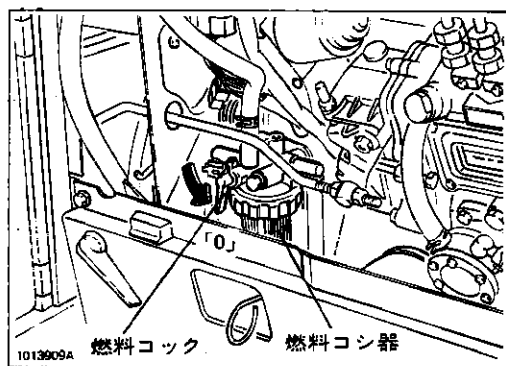
下記の事項を必ず守ってください。

- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭きとってください。

9. 燃料の空気(エア)抜きのしかた

燃料切れを起し、エンジンが停止したとき、または、点検整備で燃料コシ器エレメント、燃料配管を外したときは、次の手順で燃料の空気(エア)抜きをしてください。

- ① 燃料タンクに燃料を補給します。
- ② 燃料コックを「O」(開の状態)の位置にします。



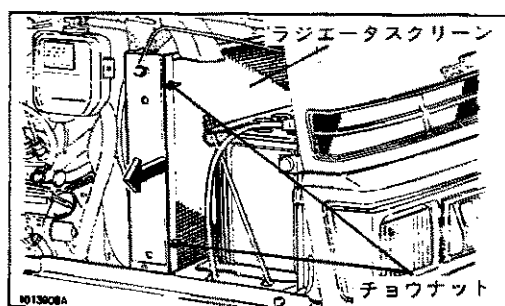
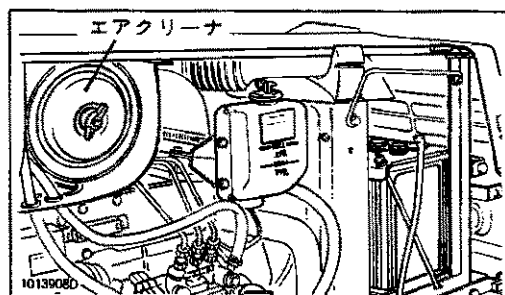
- ③ アクセルレバーを最高回転位置にし、デコンプレバーを引きながらメインスイッチを「START」位置にしてセルモータを約10秒間回します。

以上で空気(エア)抜きは完了です。



10. ラジエータスクリーンとエアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。ホコリの多い所で作業するときは、50時間毎に掃除・400時間ごとに交換してください。普通の所でも100時間毎に掃除・1000時間毎に交換してください。規定時間になってなくても、1年間でエレメントを交換してください。

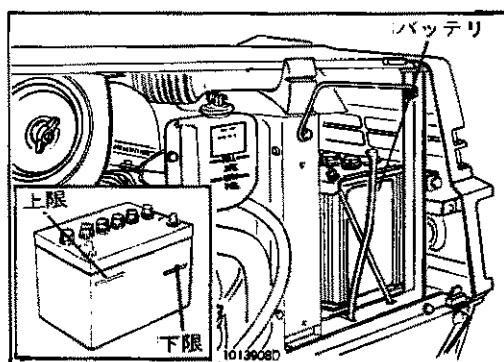


〈エアクリーナエレメントの掃除のしかた〉
蓋を取外し、中のエレメントを抜き取り、エレメントの内側から、空気を吹き付けるか、振動を与えて塵を落します。フィンに傷を付けないよう気をつけてください。

〈ラジエータスクリーンの掃除のしかた〉
ラジエータスクリーンのチョウナットを外し、横に引き出してください。
ワラズやホコリを取り除いてください。
始業前、始業後に掃除してください。

11. バッテリーの点検のしかた

バッテリーの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸留水を上限のラインまで補給してください。



【注意】

- バッテリー各槽に、液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、トラクタの金属部を腐蝕させます。
- 急速充電は、できるだけ避けてください。
- バッテリーを充電するときは、バッテリーを本機より取外して上部6個の蓋をはずして充電してください。

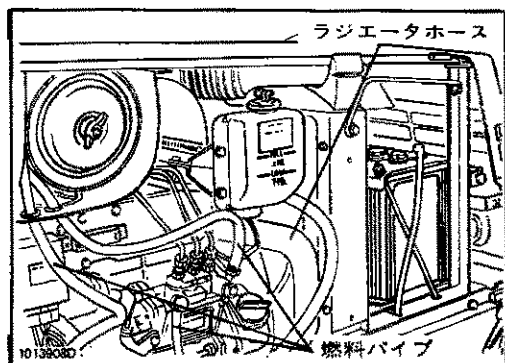


下記の事項を必ず守ってください。

- バッテリーの点検時、液槽キャップを開けたときは、火気厳禁です。
- バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- バッテリーの取付は⊕側から、取外しは⊖側からはずしてください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱書の指定した容量のバッテリーを使用してください。

12. パイプ類の点検について

燃料パイプ、ラジエーターホースなど傷んで燃料もれ、水もれがないか、また、締付バンドがゆるんでないかも調べてください。傷んでなくとも2年毎に交換してください。



【注意】

燃料パイプを交換したときは、空気(エア)抜きをしてください。



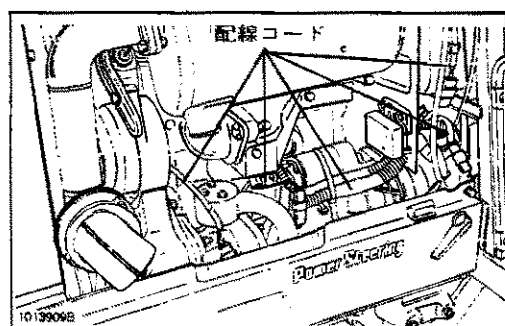
下記の事項を必ず守ってください。

燃料パイプの老化や、傷による燃料もれがあると火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。

13. 電気配線の点検について

エンジンサイドカバーを外し、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接触部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で修理してください。

傷んでなくても使用時間50時間毎、または1年毎で定期点検を受けてください。



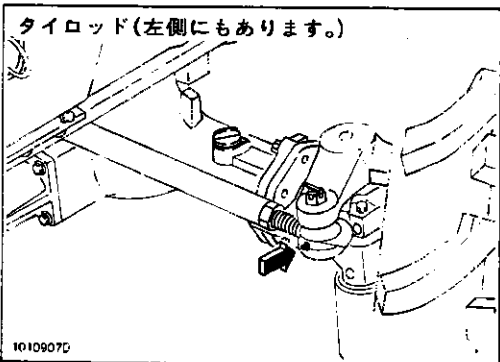
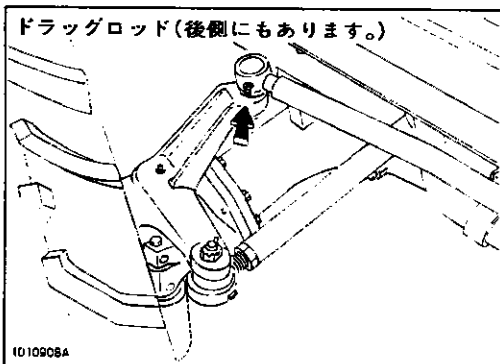
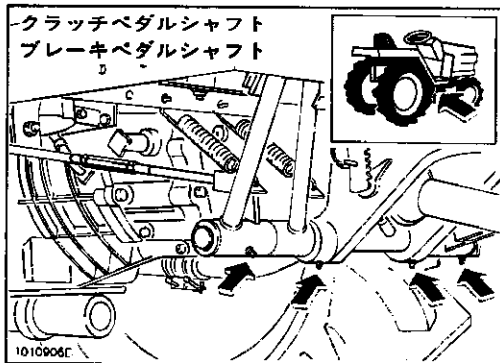
下記の事項を必ず守ってください。

バッテリーや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前、作業後にきれいに取除いてください。

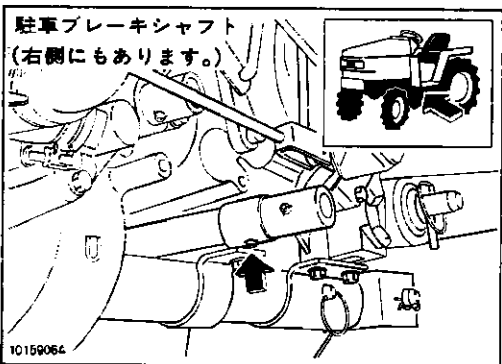
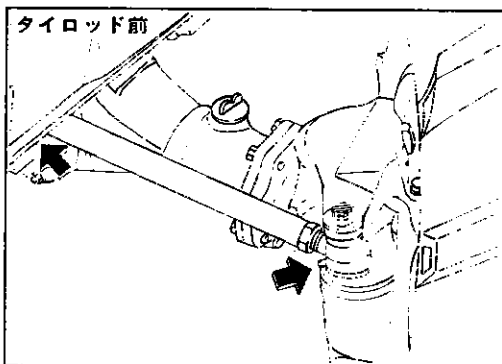
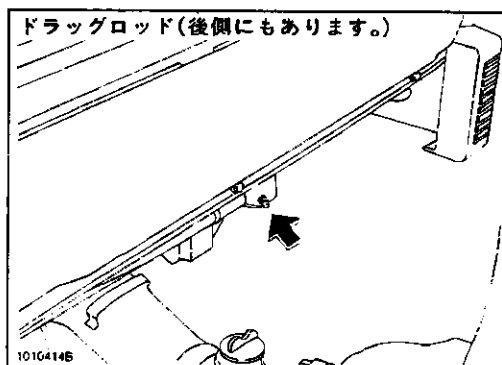
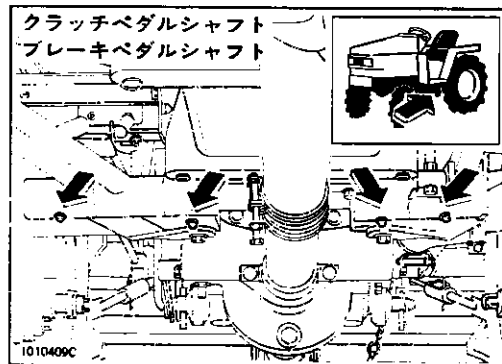
14. グリスアップ(注入)について

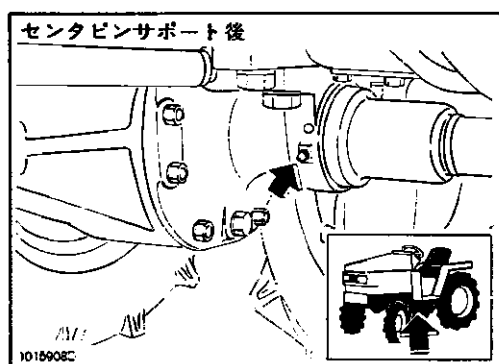
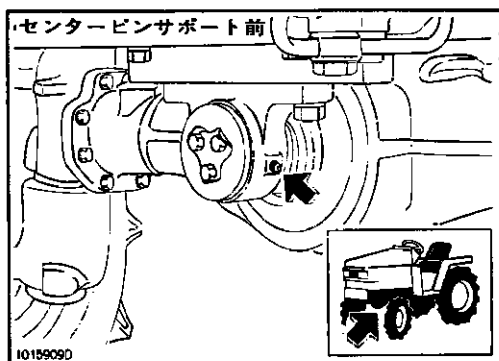
グリスアップは、50時間毎に行っていただきますが、作業に入る前に、各箇所のグリスの点検を行ない、必要ならばグリスアップしてください。また、代かき作業等で泥水に入った後は、作業終了後必ずグリスアップしてください。

F(X)195(D)



F(X)215(D)~F(X)265(D)

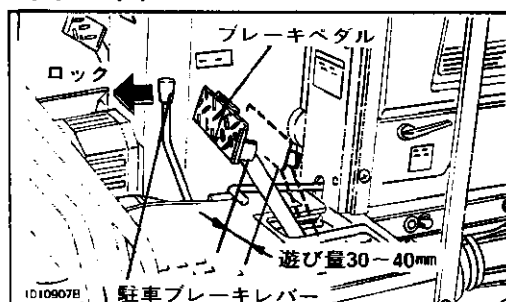




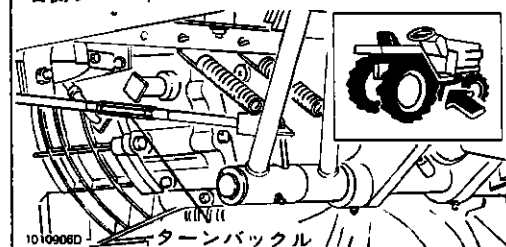
15. ブレーキの点検・調整について

ブレーキペダルを踏み込んで、規定の遊び量(30~40mm)と左右が同時に効くかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、左右の遊び量が30~40mmになるように、ブレーキペダル後方にあるターンバックルで調節してください。調節後はナットを確実に締付けてください。また、ブレーキペダルをいっぱい踏み込んだとき、駐車ブレーキロックが確実に作動することを確認してください。

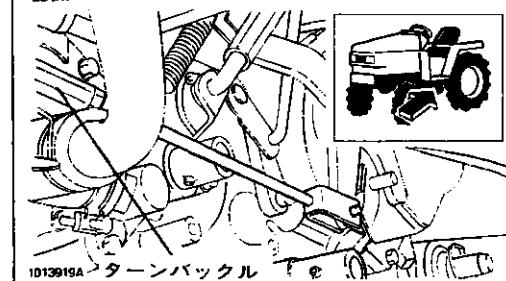
F(X)195(D)



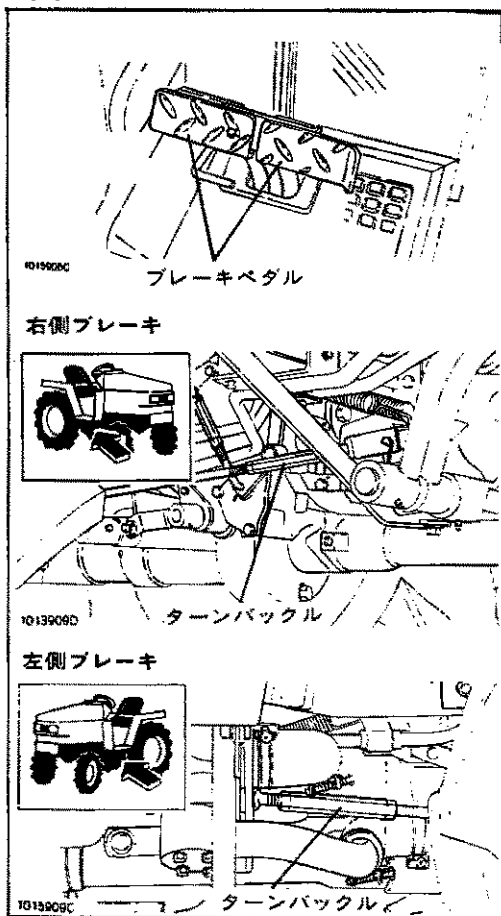
右側ブレーキ



左側ブレーキ



F(X)215(D)~F(X)265(D)



【注意】

左右のブレーキペダルの遊び量が5mm以上異なると、ブレーキの片ぎきが生じ危険です。常に、左右の遊び量が同一であるようにしてください。

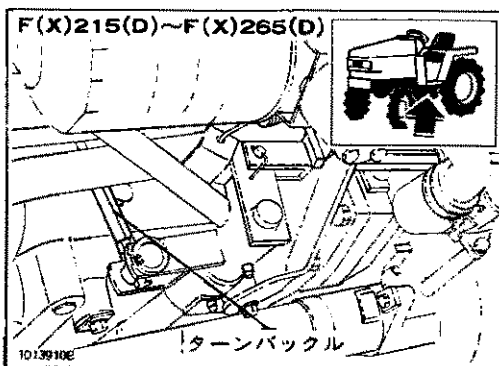
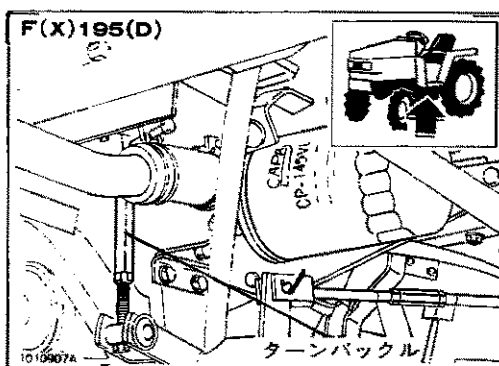
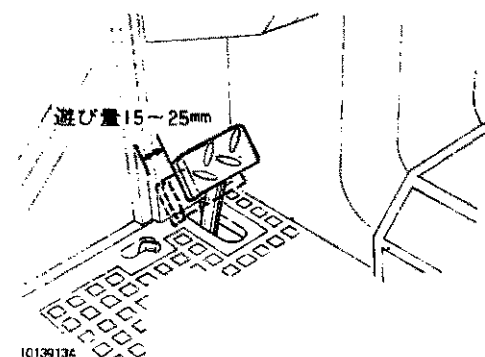


下記の事項を必ず守ってください。

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきなどがあると転落、転倒事故の原因となります。必ず作業前に点検してください。

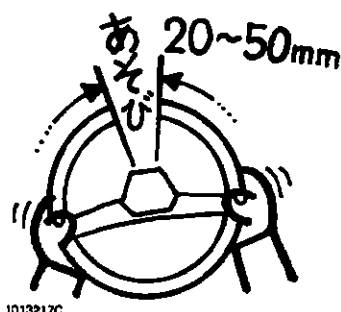
16. クラッチの点検・調整について

クラッチペダルを踏み込んで、規定の遊び量(15~25mm)があるかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、遊び量が15~25mmになるように、ターンバックルで調整してください。調整後はナットを確実に締付けてください。



17. ハンドルの点検・調整について

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が20～50mmの範囲にあるか調べてください。遊び量が適正でないとハンドルが重くなったり、直進性が悪くなります。遊び量が適正でないときは、お買い上げいただいた販売店、農協で整備してください。

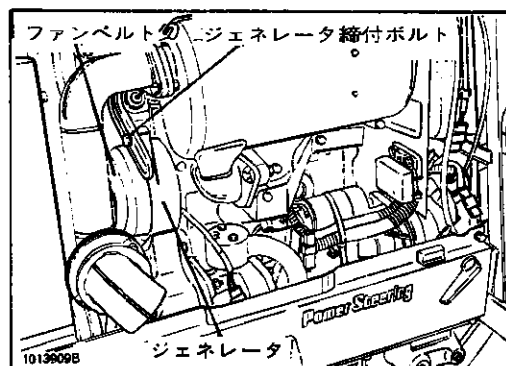


下記の事項を必ず守ってください。

ハンドルに著しいガタや遊びがあると、走行中、作業中に思わぬ事故の原因となります。必ず作業前に点検してください。

18. ファンベルトの点検・調整について

エンジンサイドカバーを外し、ファンベルトの中間を指で押え、ベルトのたわみが10～15mmあるか、ベルトが損傷していないか調べてください。たわみが適正でないときは、ジェネレータ締付ボルトをゆるめ、ジェネレータを移動させて張りを調節します。また、ジェネレータをいっばいに動かしてもベルトがスリップするようでしたら、新しいベルトと交換してください。なお、新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。

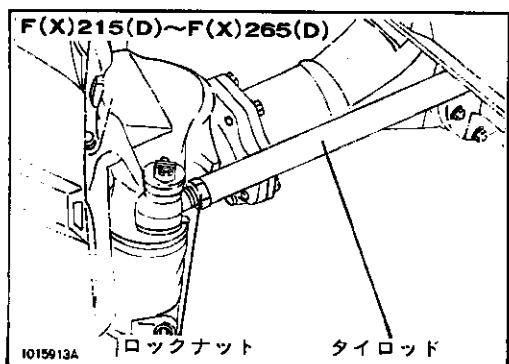
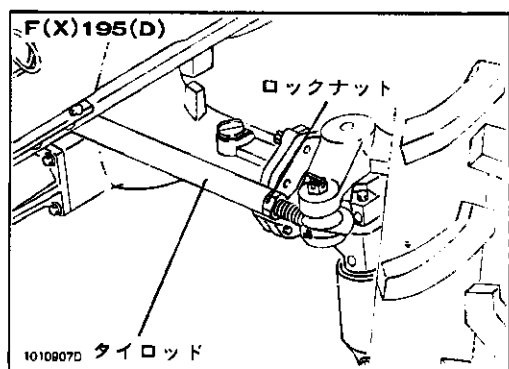
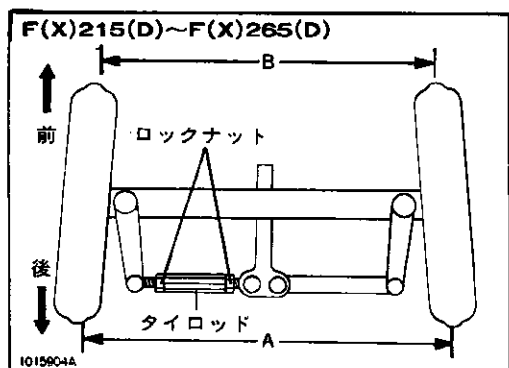


【注意】

エンジンが充分冷えた状態で行なってください。

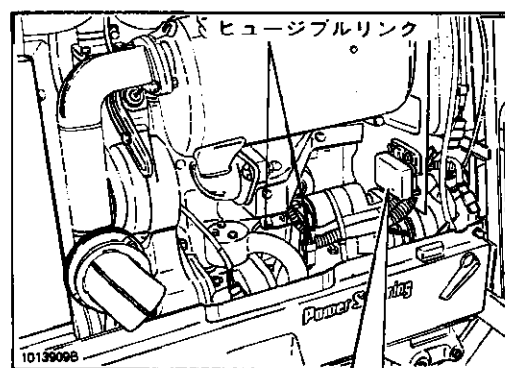
19. トーインの点検・調整について

トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり異常に振れることがあります。調整は前輪のA寸法とB寸法を測定し、A-Bが4～8mmであるか調べてください。規定寸法でない場合は、タイロッドエンドのロックナットをゆるめ、ターンバックルで調節します。トーインが4～8mmになったらロックナットを締付けてください。



20. ヒューズ・ヒューズブルリンクの点検・交換について

ヒューズボックスの蓋を外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。また、エンジンを停止して、メインヒューズ(ヒューズブルリンク)を点検してください。ヒューズブルリンクはヒューズの一種で万一、配線回路(常時通電している回路)へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したら外被(ビニール)が変色しますので、お買い上げいただいた販売店、または農協で点検を受けてください。



バックブザー用
ヒューズは、座席シートカバーの下で、配線にヒューズがあります。

ヒューズボックス	
5A	パイロットランプ
10A	レギュレータ
10A	燃料計、水温計
10A	フラッシュランプ
10A	ホーン
10A	ワークランプ
10A	UFO電源
10A	グローリレー
15A	ヘッドランプ
15A	エンジン回転計
15A	計器盤

ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で点検を受けてください。



下記の事項を必ず守ってください。

ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のものを使用し、他のものは使用しないでください。

21. タイヤの点検について

前・後輪の空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがないか確認してください。

前・後輪に標準以上の荷重がかかるときは、空気圧を下表の最大圧内に調整してください。

タイヤ空気圧

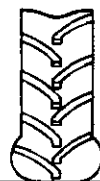
		空気圧 (kg/cm ²)
標準	前輪	2.0
	後輪	1.0
最大	前輪	3.0
	後輪	1.6



過多



標準



不足

22. 排気ガスの色について

エンジン始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。

黒色…燃料が濃すぎるための不完全燃焼。

白色…エンジンオイルが燃焼しています。

ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

黒色、白色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、販売店で整備してください。

不調診断

※もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。

1. エンジン関係

状 況	点検箇所	処 置
キースイッチを回してもスタータが回らない。	クラッチペダルを踏み込んでいますか。	クラッチペダルを完全に踏み込んでから、メインスイッチを「START」に回してください。
	バッテリー液は規定量入ってますか。または放電してはいませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電してください。
	バッテリー端子部のゆるみ外れ、腐蝕していませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。
	メインヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
	スイッチが故障していませんか。	サービス工場での修理、または交換してください。
	セルモータが故障していませんか。	サービス工場での修理、または交換してください。
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油し、エア抜きをしてください。
	燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行ってください。
	デコンプを引っぱると回るが元にもどすと回らないとき。	バッテリーの充電不足ですので充電してください。
	燃料コックが「C」位置になっていませんか。	燃料コックを「O」位置にしてください。
エンジンが不規則に回転する。	燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きをしてください。
	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。
	噴射ノズルが詰まっていますか。	修理、または交換してください。
	燃料フィルタが目詰りしていませんか。	洗浄、または交換してください。

状 況	点検箇所	処 置
エンジンが過熱する (オーバーヒート)	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。
	ファンベルトはゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。
	ラジエータフィンが目詰りしていませんか。	清掃してください。
	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。
エンジンの力が出ない	エアクリーナが目詰りしていませんか。	エアクリーナを点検してください。
	ノズルが焼付きついていませんか。	サービス工場での修理をしてください。
	圧縮力が不足していませんか。	
	バルブクリアランスの調整は適正ですか。	
	噴射時期が悪くありませんか。	
運転中にラジエータ水量ランプが点灯した	サブタンクの冷却水量が少なくなっていますか。	冷却水の補給をしてください。
運転中にエンジン油圧ランプが点灯した	エンジンオイル量が少なくなっていますか。	オイルを規定量まで補給してください。
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適性粘度のオイルと交換してください。
	プレッシャスイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	オイルポンプが故障していませんか。	サービス工場での修理をしてください。
サーモスタートランプが点灯しない	ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
運転中にチャージランプが点灯した	レギュレーターが故障していませんか。	サービス工場での修理をしてください。
	レギュレーター（カーレントリミッタ）が故障していませんか。	レギュレーター（カーレントリミッタ）の交換をしてください。
	ファンベルトのゆるみ、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。

2. クラッチ・ブレーキ関係

状 況	点検箇所	処 置
クラッチがすべる、または切れない	ペダルの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキのききが悪い、または片ぎきする	ブレーキの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキペダルの戻りが悪い、またはブレーキが鳴く	ブレーキ戻しスプリングが破損していませんか。	スプリングを交換してください。
	各摺動部のグリスが切れていませんか。	錆を落としてグリスアップしてください。

3. 油圧関係

状 況	点検箇所	処 置
作業機が上がらない	油圧ストップ、スローリターンバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、スローリターンバルブを「開」にしてください。
	ミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みがありませんか。	フィルタケースや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換してください。
	オイルフィルタが目詰りしていませんか。	清掃または交換してください。
	油圧ポンプが故障してはいませんか。	サービス工場で修理してください。
	コントロールバルブがゴミをかでいませんか。またはOリングは破損してはいませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
主変速レバーを「R」にしても、作業機が上がらない。 (作業機昇降レバーを) 上げにしても、作業機が上がらない。	バックスイッチの接触は、悪くありませんか。	バックスイッチを確認してください。
	バックアップモータ回路のヒューズが切れていませんか。	新しいヒューズと交換してください。(62ページ)
	モータワイヤリンクは正常に動いていますか。	スムーズに作動するように、調整する。

状 況	点検箇所	処 置
作業機が下らない	油圧ストップ、スローリターンバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、スローリターンバルブを「開」にしてください。
	コントロールバルブがゴミをかんではいませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
作業機昇降レバーを「下」にしても、作業機が下らない。	ポジションコントロールレバーが「最浅位置」になっていませんか。	ポジションコントロールレバーを解除方向に移動させてください。

4. 電装関係

状 況	点検箇所	処 置
ヘッドランプが点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ソケットから配線が外れていませんか。	点検セットしてください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
フラッシャーランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	フラッシャーユニットが故障していませんか。	フラッシャーユニットを交換してください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
ランプ類が点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	配線の接続が悪くありませんか。	点検し確実に接続してください。
	スイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	アースの状態が悪くありませんか。	アース線を確実に車体に締めつけてください。
	バッテリーが放電していませんか。	充電してください。
ホーンが鳴らない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ホーンスイッチの接触が悪くありませんか。	ホーンスイッチを確認してください。

5. ロータリ関係

状 況	点検箇所	処 置
エンジンをかけるとロータリが上がり、リリース音が出る	リヤカバーが「上」げの状態になっていませんか。	リヤカバーを下げてください。
作業機昇降レバーを、「下」にしても作業機が下らない	ポジションコントロールレバーが最浅位置になっていませんか。	ポジションコンコントロールレバーを、解除方向に移動させてください。

仕様

F195D

項 目			形 式		備 考	
			F195	F195D		
重 量	車 両 重 量 (kg)		800	860	3 P 付	
	荷 重 (kg)	前 輪	395	450		
		後 輪	405	410		
	附 荷 重 量 (kg)	後 輪	25 × 4		アタッチメント	
		本 体	20 × 2		アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/rpm)			19/2500			
形 状			ホイールトラクタ			
車 種			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度	前 進	1速	1.16(0.32)		
			2速	1.53(0.42)		
			3速	2.17(0.60)		
			4速	2.75(0.76)		
			5速	3.64(1.00)		
			6速	5.13(1.42)		
		後 進	7速	7.14(1.98)		
			8速	9.43(2.62)		
			9速	14.27(3.97)		
	km/h (m/sec)	低 速 仕 様	1	0.20(0.06)		
			2	0.27(0.07)		
			3	0.38(0.10)		
			R	0.27(0.07)		
		高 速 仕 様	1	0.41(0.11)		
			2	0.54(0.15)		
			3	0.76(0.21)		
			R	0.53(0.14)		
	機 体 寸 法	全 長 (mm)		2790		ロアリンクまで
		全幅(標準性能)(mm)		1180		
全 高 (mm)		1465		バックミラーまで		
軸 距 (mm)		1490				
輪 距		前 輪 (mm)	840	870		
		後 輪 (mm)	940・1060			
最低地上高 (mm)		330 (ミッション低部)	280 (フロントアクスル)			

*この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項 目			形 式		備 考
			F195	F195D	
機 関	銘柄型式		3TNB80-RN		
	種 類		ディーゼル		
	冷却方式		水冷ラジエタ		
	シリンダ数		3		
	内径×行程 (mm)		80×88		
	総排気量 (cc)		1327		
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ		
		噴射弁形式	ホール		
	燃 料		ヤンマー重油またはディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)		25		
動力伝動部	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式		
		潤滑油量 (ℓ)	4.0		
	冷却水量 (ℓ)		4.5		サブタンクを含まず
	電気系統	充電発電機 (V-W)	12-200		
		始動発電機 (V-KW)	12-1.6		
		蓄電池 (V-Ah)	12-75		
	主クラッチ		乾式単板		ダイヤフラムクラッチ
	変速機潤滑油量 (ℓ)		15.5	15.5	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)		
	終減速機形式		ハスバ歯車		
走行装置	車輪	前 輪	4.00-12	6-12	
		後 輪	8.3-24		ハイラグ
	かじ取装置		ボールスクリュース式		
	足ブレーキ		機械式湿式ディスクブレーキ		
運転装置	駐車ブレーキ		ペタルロック式		
	計器類及び照明装置		アウメータ、水温計、フラッシュバイロッドランプ、チャージバイロッドランプ、オイルバイロッドランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、水量バイロッドランプ、バッテリー液量、比重バイロッドランプ、サーモバイロッドランプ、ダッシュランプ、リフトアップランプ、駐車ランプ		
	回 転 方 向		右回り		
	軸 寸 法 (mm)		35(JIS軸)		
作業性能	軸回転速度 (rpm)		571、785、1209		
	その他駆動部		なし		
	けん引装置形式		ピン固定式		
	差動装置の標準規格		3点リンク JIS O形		
油圧制御方式	標準ロータリ群幅 (mm)		RSB:1302、RCB:1302		
	油圧制御方式		ポジションコントロール付		

FX195D

項 目			形 式		備 考	
			FX195	FX195D		
重 量	車 両 重 量 (kg)		810	870	3P付	
	荷重(kg)	前輪	395	414		
		後輪	415	456		
	量	附荷重量 (kg)	後輪	25×4		アタッチメント
本体			20×2		アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/rpm)			19/2500			
形 状			ホイールトラクタ			
車 種			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進	1速	1.16(0.32)		
			2速	1.53(0.42)		
			3速	2.17(0.60)		
			4速	2.75(0.76)		
			5速	3.64(1.00)		
			6速	5.13(1.42)		
			7速	7.14(1.98)		
			8速	9.43(2.62)		
			9速	14.27(3.97)		最高速度
	ク リ ー プ (オ プ シ ョ ン)	後 進	1速	1.50(0.41)		
			2速	3.57(0.98)		
			3速	9.26(2.56)		
		低 速 仕 様	1	0.20(0.06)		
			2	0.27(0.07)		
			3	0.38(0.10)		
			R	0.27(0.07)		
高 速 仕 様			1	0.41(0.11)		
	2	0.54(0.15)				
	3	0.76(0.21)				
		R	0.53(0.14)			
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2790		ロアリンクまで	
	全幅(標準性能)(mm)		1180			
	全 高 (mm)		1465		バックミラーまで	
	軸 距 (mm)		1490			
	軸 距	前 輪 (mm)	840	870		
		後 輪 (mm)	940・1060			
	最 低 地 上 高 (mm)		330 (ミッション低部)	280 (フロントアックス)		

*この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項 目			形 式		備 考
			FX195	FX195D	
機 関	銘 柄 型 式		3TN680-RN		
	種 類		ディーゼル		
	冷 却 方 式		水冷ラジエタ		
	シ リ ン グ 数		3		
	内 径 × 行 程 (mm)		80×88		
	総 排 気 量 (cc)		1327		
	燃 料 系 統	噴射ポンプ	ボッシュ		
		噴射弁形式	ホール		
		燃 料	ヤンマー重油またはディーゼルの軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)		25		
機 体 寸 法	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式		
		潤滑油量 (ℓ)	4.0		
	冷 却 水 量 (ℓ)		4.5		サブタンクを必要とする
	電 気 系 統	充電発電機(V-W)	12-200		
		始動発電機(V-KW)	12-1.6		
		蓄電池(V-Ah)	12-75		
	主クラッチ		乾式単板		タイヤフランククラッチ
	変速機潤滑油量 (ℓ)		14.5	14.5	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)		
	終減速機形式		ハスバ歯車		
走 行 装 置	車 輪	前 輪	4.00-12	6.00-12	
		後 輪	8.3-24		ハイラグ
	かじ取装置		ボールスクリュウ式		
	足ブレーキ		機械式湿式ディスクブレーキ		
運 転 装 置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、カーン、方向指示灯、水量パイロットランプ、バッテリー液量、比重パイロットランプ、サーモパイロットランプ、ダッシュランプ、リフトアップランプ、駐車ランプ		
	回 転 方 向		右回り		
	軸 寸 法 (mm)		35(JIS軸)		
	軸 回 転 速 度 (rpm)		571, 785, 1209		
作 業 装 置	その他駆動部		なし		
	けん引装置形式		ピン固定式		
	牽引装置の標準規格		3点リンク JIS O形		
	牽引ロータリ規格 (mm)		RSB:1302, RCB:1302		
油 圧 系	油圧制御方式		ポジションコントロール付		

F215D)

項 目			形 式		備 考	
			F215	F215D		
重 量	車 両 重 量 (kg)		920	1005	3 P 付	
	荷 重 (kg)	前 輪	435	510		
		後 輪	485	495		
	附 荷 重 量 (kg)	後 輪	25 × 4		アタッチメント	
		本 体	20 × 2		アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/rpm)			21/2500			
形 状			ホイールトラクタ			
車 種			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進	1速	0.82(0.23)		
			2速	1.13(0.31)		
			3速	1.53(0.42)		
			4速	2.24(0.62)		
			5速	3.08(0.85)		
			6速	4.15(1.15)		
		後 進	7速	7.31(2.03)		
			8速	10.03(2.78)		
			9速	14.62(4.06)	最高速度	
		ク リ ー プ (オ フ シ ョ ン)	前 進	1速	1.14(0.31)	
				2速	3.10(0.86)	
				3速	10.11(2.81)	
			後 進	1速	0.13(0.03)	
				2速	0.18(0.05)	
				3速	0.25(0.07)	
				4速	0.36(0.10)	
				5速	0.50(0.14)	
				6速	0.68(0.19)	
	後 進	7速	1.17(0.32)			
		8速	1.65(0.46)			
		9速	2.23(0.62)			
		後 進	1速	0.18(0.05)		
			2速	0.51(0.14)		
			3速	1.67(0.46)		
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2840		ロアリンクまで	
	全幅(標準性能)(mm)		1240			
	全 高 (mm)		1445		バックミラーまで	
	軸 距 (mm)		1510	1525		
	軸 距	前 輪 (mm)	910	1020		
		後 輪 (mm)	970、1090			
	最 低 地 上 高 (mm)		296 (ミッション低部)	280 (フロントアクスル)		

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項 目		形 式		備 考
		F215	F215D	
機 関	銘 柄 型 式	3TNB82-RN		
	種 類	ディーゼル		
	冷 却 方 式	水冷ラジエタ		
	シリンダ数	3		
	内 径 × 行 程 (mm)	82×88		
	総 排 気 量 (cc)	1394		
	燃 料 系 統	噴射ポンプ	ポッシュ	
		噴射弁形式	ホール	
		燃 料	ヤンマー重油またはディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)	25		
間	潤滑系	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	4.0	
	冷 却 水 量 (ℓ)	4.5		サブタンクを含まず
	電 気 系 統	充電発電機 (V-W)	12-200	
		始動発電機 (V-KW)	12-1.6	
		蓄 電 池 (V-Ah)	12-75	
	主クラッチ	乾式単板		ダイヤフラムクラッチ
	変速機潤滑油量 (ℓ)	24	24	
	差動装置形式	傘歯車式(デフロック付)		
	終減速機形式	ハスバ歯車		
走 行 装 置	車輪	前 輪	4.00-12	6-14
		後 輪	9.5-22	ハイラグ
	かじ取装置	ボールスクリュース式		
	足ブレーキ	機械式湿式ディスクブレーキ		
	駐車ブレーキ	ベタルロック式		
運 転 装 置	計器類及び照明装置	アウメータ、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、水量パイロットランプ、バッテリー液量、比重パイロットランプ、サーモパイロットランプ、ダッシュランプ、リアアップランプ、駐車ランプ		
	回 転 方 向	左回り		
	軸 寸 法 (mm)	35(JIS軸)		
	軸 回 転 速 度 (rpm)	574、698、958、1293		
作 用 機 構	その他駆動部	なし		
	けん引装置形式	ピン固定式		
	装置装置の種類規格	3点リンク JIS 1形		
	標準ロータリ耕転 (mm)	RSB:1402、RCB:1502		
油 圧 制 御 方 式	油圧制御方式	ポジションコントロール付		

FX215D

項 目			形 式		備 考	
			FX215	FX215D		
重 量	車 両 重 量 (kg)		930	1015	3P付	
	荷重(kg)	前輪	440	515		
		後輪	490	500		
	附荷重量(kg)	後輪	25×4		アタッチメント	
		本体	20×2		アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/rpm)			21/2500			
形 状			ホイールトラクタ			
重 種			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進	1速	0.80(0.22)		
			2速	1.13(0.31)		
			3速	1.53(0.42)		
			4速	2.18(0.60)		
			5速	3.08(0.85)		
			6速	4.15(1.15)		
		進 行	7速	7.10(1.97)		
			8速	10.03(2.78)		
			9速	14.62(4.06)	最高速度	
		後 進	1速	1.14(0.31)		
			2速	3.10(0.86)		
			3速	10.11(2.81)		
		ク リ ー プ (オ プ シ ョ ン)	前 進	1速	0.13(0.03)	
				2速	0.18(0.05)	
				3速	0.25(0.07)	
				4速	0.37(0.10)	
				5速	0.50(0.14)	
				6速	0.68(0.19)	
	進 行		7速	1.20(0.33)		
			8速	1.65(0.46)		
			9速	2.23(0.62)		
	後 進	1速	0.18(0.05)			
		2速	0.51(0.14)			
		3速	1.67(0.46)			
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2840		ロアリンクまで	
	全幅(標準性能)(mm)		1240			
	全 高 (mm)		1445		バックミラーまで	
	軸 距 (mm)		1510	1525		
	輪 距	前輪(mm)	910	1020		
		後輪(mm)	970、1090			
	最 低 地 上 高 (mm)		296 (ミッション低部)	280 (フロントアクスル)		

*この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項 目			形 式		備 考
			FX215	FX215D	
機 機	銘 柄 型 式		3TNB82-RN		
	種 類		ディーゼル		
	冷 却 方 式		水冷ラジエタ		
	シ リ ン グ 数		3		
	内 径 × 行 程 (mm)		82×88		
	総 排 気 量 (cc)		1394		
	燃 料 系 統	噴射ポンプ	ボッシュ		
		噴射弁形式	ホール		
	燃 料		ヤンマー重油またはディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)		25		
関 機	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式		
		潤滑油量 (ℓ)	4.0		
	冷 却 水 量 (ℓ)		4.5		サブタンクを含まず
	電 気 系 統	充電発電機 (V-W)	12-200		
		始動発電機 (V-KW)	12-1.6		
		蓄 電 池 (V-Ah)	12-75		
	主クラッチ		乾式単板		ダイヤフラムクラッチ
	変速機潤滑油量 (ℓ)		24	24	
	変速装置形式		傘歯車式(デフロック付)		
	終減速機形式		ハスバ歯車		
走 行 装 置	車 輪	前 輪	4.00-12	6-14	
		後 輪	9.5-22		ハイラグ
	か じ 取 装 置		ボールスクリュース式		
	足 ブ レ ー キ		機械式湿式ディスクブレーキ		
運 転 装 置	駐 車 ブ レ ー キ		ベタルロック式		
	計器類及び照明装置		アクメータ、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、水量パイロットランプ、バッテリー液量、比重パイロットランプ、サーモパイロットランプ、ダッシュランプ、リフトアップランプ、駐車ランプ		
	回 転 方 向		左回り		
	軸 寸 法 (mm)		35(JIS軸)		
作 業 装 置	軸 回 転 速 度 (rpm)		574、698、958、1293		
	その他駆動部		なし		
	けん引装置形式		ピン固定式		
	装置装置の種類規格		3P JIS I形		
機 体 寸 法	標準ロータリ軸径 (mm)		RSB:1402、RCB:1502		
	油圧制御方式		ポジションコントロール付		

F235D

項 目			形 式		備 考	
			F235	F235D		
重 量	車 両 重 量 (kg)		940	1020	3 P 付	
	荷 重 (kg)	前 輪	445	515		
		後 輪	495	505		
	附 荷 重 量 (kg)	後 輪	25 × 4		アタッチメント	
		本 体	20 × 2		アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/rpm)			23/2500			
形 状			ホイールトラクタ			
車 種			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進	1速	0.80(0.22)		
			2速	1.11(0.30)		
			3速	1.49(0.41)		
			4速	2.19(0.61)		
			5速	3.01(0.83)		
			6速	4.06(1.13)		
		進	7速	7.15(1.98)	最高速度	
			8速	9.82(2.72)		
			9速	14.31(3.97)		
		後 進	1速	1.11(0.31)		
			2速	3.03(0.84)		
			3速	9.89(2.74)		
		ク リ ッ プ (オ プ シ ョ ン)	前 進	1速	0.13(0.03)	
				2速	0.18(0.05)	
				3速	0.24(0.06)	
				4速	0.36(0.10)	
				5速	0.49(0.13)	
				6速	0.67(0.18)	
	進		7速	1.18(0.32)		
			8速	1.62(0.45)		
			9速	2.18(0.60)		
	後 進	1速	0.18(0.05)			
		2速	0.50(0.13)			
		3速	1.63(0.45)			
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2840		ロアリンクまで	
	全 幅 (標準性能)(mm)		1240			
	全 高 (mm)		1475		バックミラーまで	
	軸 距 (mm)		1510	1525		
	輪 距	前 輪 (mm)	990	1020		
		後 輪 (mm)	970、1090			
	最 低 地 上 高 (mm)		322 (ミッション低部)	295 (フロントアスル)		

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項 目			形 式		備 考
			F235	F235D	
機 関	銘 柄 型 式		3TNB84-RB		
	種 類		ディーゼル		
	冷 却 方 式		水冷ラジエタ		
	シ リ ン ダ 数		3		
	内 径 × 行 程 (mm)		84×88		
	総 排 気 量 (cc)		1463		
	燃 料 系 統	噴射ポンプ	ボッシュ		
		噴射弁形式	ホール		
		燃 料	ヤンマー重油またはディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)		25		
機 関	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式		
		潤滑油量 (ℓ)	4.0		
	冷 却 水 量 (ℓ)		4.5		サブタンクを含まず
	電 気 系 統	充電発電機 (VW)	12-200		
		始動発電機 (V-KW)	12-1.6		
		蓄 電 池 (V-Ah)	12-75		
	主 ク ラ ャ ッ チ		乾式単板		ダイヤフラムクラッチ
	変速機潤滑油量 (ℓ)		24	24	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)		
	終減速機形式		ハスバ歯車		
走 行 装 置	車 輪	前 輪	4.00-15	7-14	
		後 輪	9.5-24		ハイラグ
	か じ 取 装 置		ボールスクリュウ式		
	足 ブ レ ー キ		機械式湿式ディスクブレーキ		
	駐 車 ブ レ ー キ		ペダルロック式		
運 転 装 置	計器類及び照明装置		アウメータ、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、水量パイロットランプ、バッテリー液量、比重パイロットランプ、サーモパイロットランプ、ダッシュランプ、リフトアップランプ、駐車ランプ		
	回 転 方 向		右回り		
動 力 取 出 軸	軸 寸 法 (mm)		35(JIS軸)		
	軸 回 転 速 度 (rpm)		574、698、958、1293		
	そ の 他 駆 動 部		なし		
	けん引装置形式		ピン固定式		
作 業 装 置	装置装置の種類規格		3点リンク JIS I形		
	標準ロータリ耕幅 (mm)		RSB:1402、RCB:1502		
	油圧制御方式		ポジションコントロール付		

FX235D)

項 目			形 式		備 考	
			FX235	FX235D		
重 量	車 両 重 量 (kg)		950	1030	3 P 付	
	荷重(kg)	前輪	450	520		
		後輪	500	510		
	附荷重量 (kg)	後輪	25× 4		アタッチメント	
		本体	20× 2		アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/rpm)			23/2500			
形 状			ホイールトラクタ			
車 種			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進	1速	0.78(0.21)		
			2速	1.11(0.30)		
			3速	1.49(0.41)		
			4速	2.13(0.59)		
			5速	3.01(0.83)		
			6速	4.06(1.13)		
			7速	6.95(1.93)		
			8速	9.82(2.72)		
			9速	14.31(3.97)		最高速度
		後 進	1速	1.11(0.31)		
			2速	3.03(0.84)		
			3速	9.89(2.74)		
		ク リ ー プ (オ プ シ ョ ン)	前 進	1速	0.13(0.03)	
				2速	0.18(0.05)	
				3速	0.24(0.06)	
				4速	0.35(0.09)	
				5速	0.49(0.13)	
				6速	0.67(0.18)	
	7速			1.14(0.31)		
	8速			1.62(0.45)		
	9速			2.18(0.60)		
	後 進	1速	0.18(0.06)			
		2速	0.50(0.13)			
		3速	1.63(0.45)			
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2840		ロアリンクまで	
	全幅(標準性能)(mm)		1240			
	全 高 (mm)		1475		バックミラーまで	
	軸 距 (mm)		1510	1525		
	輪 距	前輪(mm)	990	1020		
		後輪(mm)	970、1090			
	最低地上高 (mm)		322 (ミッション低部)	295 (フロントアクスル)		

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項 目		形 式		備 考
		FX235	FX235D	
機 関	銘柄型式	3TNB84-RB		
	種 類	ディーゼル		
	冷 却 方 式	水冷ラジエタ		
	シリンダ数	3		
	内径×行程 (mm)	84×88		
	総排気量 (cc)	1463		
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	ホール	
		燃 料	ヤンマー重油またはディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)	25		
機 体	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	4.0	
	電気系統	冷却水量 (ℓ)	4.5	サブタンクを含まず
		充電発電機 (VW)	12-200	
		始動発電機 (VW)	12-1.6	
		蓄電池 (V-Ah)	12-75	
	動力伝動部	主クラッチ	乾式単板	ダイヤフラムクラッチ
		変速機潤滑油量 (ℓ)	24	24
		差動装置形式	傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		ハスバ歯車	
走 行 装 置	車輪	前 輪	4.00-15	7-14
		後 輪	9.5-24	ハイラグ
	かじ取装置		ボールスクリュウ式	
	足ブレーキ		機械式湿式ディスクブレーキ	
運 転 装 置	駐車ブレーキ		ベタルロック式	
	計器類及び照明装置		アウター、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、水量パイロットランプ、バッテリー液量、比重パイロットランプ、サーモパイロットランプ、ダッシュランプ、リフトアップランプ、駐車ランプ	
	回 転 方 向		右回り	
	輪 寸 法 (mm)		35(JIS軸)	
作 業 装 置	輪 回 転 速 度 (rpm)		574、698、958、1293	
	その他駆動部		なし	
	けん引装置形式		ピン固定式	
	装置装置の種類規格		3点リンク JIS 1形	
作 業 装 置	標準ロータリ耕幅 (mm)		RSB:1402、RCB:1502	
	油圧制御方式		ポジションコントロール付	

F255D

項 目			形 式		備 考	
			F255	F255D		
重 量	車 両 重 量 (kg)		990	1065	3 P 付	
	荷 重 (kg)	前 輪	455	520		
		後 輪	535	545		
	附 荷 重 量 (kg)	後 輪	25×4		アタッチメント	
		本 体	20×2		アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/rpm)			25/2500			
形 状			ホイールトラクタ			
車 種			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進	1速	0.83(0.23)		
			2速	1.15(0.31)		
			3速	1.55(0.43)		
			4速	2.27(0.63)		
			5速	3.12(0.86)		
			6速	4.21(1.17)		
			7速	7.41(2.05)		
			8速	10.16(2.82)		
			9速	14.81(4.11)		
		後 進	1速	1.15(0.32)	最高速度	
			2速	3.14(0.87)		
			3速	10.24(2.84)		
		ク リ ー プ (オ プ ン シ ョ ン)	前 進	1速	0.13(0.03)	
				2速	0.19(0.05)	
				3速	0.25(0.07)	
				4速	0.37(0.10)	
				5速	0.51(0.14)	
				6速	0.69(0.19)	
	7速			1.22(0.34)		
	8速			1.67(0.46)		
	9速			2.26(0.62)		
	後 進	1速	0.19(0.05)			
		2速	0.51(0.14)			
		3速	1.69(0.47)			
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2840		ロアリンクまで	
	全 幅 (標準性能) (mm)		1320			
	全 高 (mm)		1500		バックミラーまで	
	軸 距 (mm)		1510	1525		
	輪 距	前 輪 (mm)	990	1060		
		後 輪 (mm)	1020～1320(4 段)			
	最 低 地 上 高 (mm)		340 {ミッション低部}	320 {フロントアクスル}		

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項 目		形 式		備 考
		F255	F255D	
機 関	銘 柄 型 式	3TNB84-RA		
	種 類	ディーゼル		
	冷 却 方 式	水冷ラジエタ		
	シ リ ン ダ 数	3		
	内 径 × 行 程 (mm)	84×88		
	総 排 気 量 (cc)	1463		
	燃 料 系 統	噴射ポンプ	ポッシュ	
		噴射弁形式	ホール	
		燃 料	ヤンマー重油またはディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)		25	
機 体 寸 法	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	4.0	
	冷 却 水 量 (ℓ)		4.5	サブタンクを含まず
	電 気 系 統	充電発電機 (V-W)	12-200	
		始動発電機 (V-KW)	12-1.6	
		蓄 電 池 (V-Ah)	12-75	
	主クラッチ		乾式単板	ダイヤフラムクラッチ
	変速機潤滑油量 (ℓ)		24	24
	差動装置形式		傘歯車式 (デフロク付)	
	終減速機形式		平歯車	
走 行 装 置	車 輪	前 輪	5.00-15	7-16
		後 輪	11.2-24	ハイラグ
	かじ取装置		ボールスクリー式	
	足ブレーキ		機械式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ベタルロック式	
運 転 装 置	計器類及び照明装置		アウメータ、水温計、フラッシュバイロットランプ、チャージバイロットランプ、オイルバイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、水量バイロットランプ、バッテリー液量、比重バイロットランプ、サーモバイロットランプ、ダッシュランプ、リフトアップランプ、駐車ランプ	
	回 転 方 向		右回り	
	軸 寸 法 (mm)		35 (JIS軸)	
	軸 回 転 速 度 (rpm)		574, 698, 958, 1293	
作 業 装 置	その他駆動部		なし	
	けん引装置形式		ピン固定式	
	牽引装置の種類規格		3点リンク JIS I形	
	牽引ロータリ規格 (mm)		RSB: 1502, RCB: 1502	
油 圧 制 御 方 式	油圧制御方式		ポジションコントロール付	

FX255(D)

項 目			形 式		備 考	
			FX255	FX255D		
重 量	車 両 重 量 (kg)		1000	1075	3 P 付	
	荷 重 (kg)	前 輪	460	525		
		後 輪	540	550		
	附 荷 重 量 (kg)	後 輪	25 × 4		アタッチメント	
		本 体	20 × 2		アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/rpm)			25/2500			
形 状			ホイールトラクタ			
車 種			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進	1速	0.81(0.22)		
			2速	1.15(0.31)		
			3速	1.55(0.43)		
			4速	2.21(0.61)		
			5速	3.12(0.86)		
			6速	4.21(1.17)		
		進 退	7速	7.19(1.99)		
			8速	10.16(2.82)		
			9速	14.81(4.11)	最高速度	
		後 進	1速	1.15(0.32)		
			2速	3.14(0.87)		
			3速	10.24(2.84)		
		ク リ ー プ (オ フ シ ョ ン)	前 進	1速	0.13(0.03)	
				2速	0.19(0.05)	
				3速	0.25(0.07)	
			進 退	4速	0.36(0.10)	
				5速	0.51(0.14)	
				6速	0.69(0.19)	
	後 進	7速	1.18(0.33)			
		8速	1.67(0.46)			
		9速	2.26(0.62)			
		1速	0.19(0.05)			
		2速	0.51(0.14)			
		3速	1.69(0.47)			
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2840		ロアリンクまで	
	全 幅 (標準性能)(mm)		1320			
	全 高 (mm)		1500		バックミラーまで	
	軸 距 (mm)		1510	1525		
	輪 距	前 輪 (mm)	990	1060		
		後 輪 (mm)	1020 - 1320 (4 段)			
	最 低 地 上 高 (mm)		340 (ミッション基部)	320 (7Dフロントアスル)		

*この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項 目		形 式		備 考	
		FX255	FX255D		
機	銘 柄 型 式	3TNB84-RA			
	種 類	ディーゼル			
	冷 却 方 式	水冷ラジエタ			
	シリンダ数	3			
	内 径 × 行 程 (mm)	84×88			
	総 排 気 量 (cc)	1463			
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ		
		噴射弁形式	ホール		
		燃 料	ヤンマー重油またはディーゼ軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)	25			
関	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式		
		潤滑油量(ℓ)	4.0		
	冷 却 水 量 (ℓ)	4.5		サブタンクを含まず	
	電気系統	充電発電機(VW)	12-200		
		始動発電機(VKW)	12-1.6		
		蓄電池(VAh)	12-75		
	動力伝動部	主クラッチ	乾式単板		ダイヤフラムクラッチ
変速機潤滑油量 (ℓ)		24	24		
差動装置形式		傘歯車式(デフロク付)			
終減速機形式		平歯車			
走行装置	車輪	前 輪	5.00-15	7-15	
		後 輪	11.2-24		ハイラグ
	かじ取装置	ボールスクリュー式			
	足ブレーキ	機械式湿式ディスクブレーキ			
駐車ブレーキ	ベタルロック式				
	運転装置	アワーメータ、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、水量パイロットランプ、バッテリー液量、比重パイロットランプ、サーモパイロットランプ、ダッシュランプ、リフトアップランプ、駐車ランプ			
動力取出口	回 転 方 向	右回り			
	軸 寸 法 (mm)	35(JIS軸)			
	軸回転速度 (rpm)	574、698、958、1293			
	その他駆動部	なし			
作業用装置	けん引装置形式	ピン固定式			
	装置設置の種類規格	3点リンク JIS 1形			
	標準ロータリ軸径 (mm)	RSB:1502、RCB:1502			
	油圧制御方式	ポジションコントロール付			

F265D

項 目			形 式		備 考	
			F265	F265D		
重 量	車 両 重 量 (kg)		1020	1095	3 P 付	
	荷 重 (kg)	前 輪	470	535		
		後 輪	550	560		
	附 荷 重 量 (kg)	後 輪	25 × 4		アタッチメント	
		本 体	20 × 2		アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/rpm)			26/2500			
形 状			ホイールトラクタ			
車 種			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進	1速	0.83(0.23)		
			2速	1.14(0.31)		
			3速	1.53(0.42)		
			4速	2.25(0.62)		
			5速	3.09(0.86)		
			6速	4.17(1.16)		
			7速	7.34(2.04)		
			8速	10.08(2.80)		
			9速	14.69(4.08)		
		後 進	1速	1.14(0.31)		
			2速	3.12(0.86)		
			3速	10.16(2.82)		
		ク リ ー プ (オ フ シ ョ ン)	1速	0.13(0.03)		
			2速	0.18(0.05)		
			3速	0.25(0.07)		
			4速	0.37(0.10)		
			5速	0.51(0.14)		
			6速	0.69(0.19)		
	7速		1.21(0.33)			
	8速		1.66(0.46)			
	9速		2.24(0.62)			
	後 進	1速	0.19(0.05)			
		2速	0.51(0.14)			
		3速	1.67(0.46)			
機 体 寸 法			ロアリンクまで			
全 長 (mm)		2865				
全 幅 (標準性能)(mm)		1410				
全 高 (mm)		1520		バックミラーまで		
軸 距 (mm)		1510	1525			
軸 距	前 輪 (mm)	990	1085			
	後 輪 (mm)	1075 - 1375 (4 段)				
最 低 地 上 高 (mm)		360 (ミッション低部)	320 (フロントアスル)			

*この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項 目		形 式		備 考
		F265	F265D	
機 機	銘 柄 型 式	3TNB-84-RN		
	種 類	ディーゼル		
	冷 却 方 式	水冷ラジエタ		
	シ リ ン ダ 数	3		
	内 径 × 行 程 (mm)	84×88		
	総 排 気 量 (cc)	1463		
	燃 料 系 統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	ホール	
	燃 料	ヤンマー重油またはディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)	25		
間 間	潤 滑 系 統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	4.0	
	冷 却 水 量 (ℓ)	4.5		サブタンクを含まず
	電 気 系 統	充電発電機 (VW)	12-200	
		始動発電機 (VW)	12-1.6	
		蓄 電 池 (V-Ah)	12-75	
	主 ク ラ ッ チ	乾式単板		ダイヤフラムクラッチ
	変速機潤滑油量 (ℓ)	24	24	
	差動装置形式	傘歯車式(デフロック付)		
	終減速機形式	平歯車		
走 行 装 置	車 輪	前 輪	5.00-15	7-16
		後 輪	12.4-24	
	か じ 取 装 置	ボールスクリュース式		
	足 ブ レ ー キ	機械式湿式ディスクブレーキ		
	駐車ブレーキ	ベタルロック式		
運 転 装 置	計器類及び照明装置	アウメータ、水温計、フラッシュバイロッドランプ、チャージバイロッドランプ、オイルバイロッドランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、水量バイロッドランプ、バッテリー液量、比重バイロッドランプ、サーモバイロッドランプ、ダッシュランプ、リフトアップランプ、駐車ランプ		
	回 転 方 向	右回り		
動 力 取 出 軸	軸 寸 法 (mm)	35(JIS軸)		
	軸 回 転 速 度 (rpm)	574, 698, 958, 1293		
	そ の 他 駆 動 部	なし		
	けん引装置形式	ピン固定式		
作 業 装 置	装置装置の種類規格	3点リンク JIS I形		
	標準ロータリ耕幅 (mm)	RSB: 1502, RCB: 1502		
	油圧制御方式	ポジションコントロール付		

FX265(D)

項 目			形 式		備 考	
			FX265	FX265D		
重 量	車 両 重 量 (kg)		1030	1105	3 P 付	
	荷重 (kg)	前輪	475	540		
		後輪	555	565		
	附荷重量 (kg)	後輪	25×4		アタッチメント	
		本体	20×2		アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/rpm)			26/2500			
形 状			ホイールトラクタ			
種 類			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進	1速	0.80(0.22)		
			2速	1.14(0.31)		
			3速	1.53(0.42)		
			4速	2.19(0.60)		
			5速	3.09(0.86)		
			6速	4.17(1.16)		
			7速	7.13(1.98)		
			8速	10.08(2.80)		
			9速	14.69(4.08)		
		後 進	1速	1.20(0.33)		
			2速	3.26(0.90)		
			3速	10.16(2.82)		
		ク リ ー ブ (オ プ シ ョ ン)	前 進	1速	0.13(0.03)	
				2速	0.18(0.05)	
				3速	0.25(0.07)	
				4速	0.36(0.10)	
				5速	0.51(0.14)	
				6速	0.69(0.19)	
	7速			1.17(0.32)		
	8速			1.66(0.46)		
	9速			2.24(0.62)		
	後 進	1速	0.19(0.05)			
		2速	0.51(0.14)			
		3速	1.67(0.46)			
	機 体 寸 法	全 長 (mm)		2865		ロアリンクまで
		全幅(標準性能)(mm)		1410		
		全 高 (mm)		1520		バックミラーまで
		軸 距 (mm)		1510	1525	
輪 距		前輪(mm)	990	1085		
		後輪(mm)	1075～1375(4段)			
最低地上高 (mm)		360 (ミッション低部)	320 (フロントアクスル)			

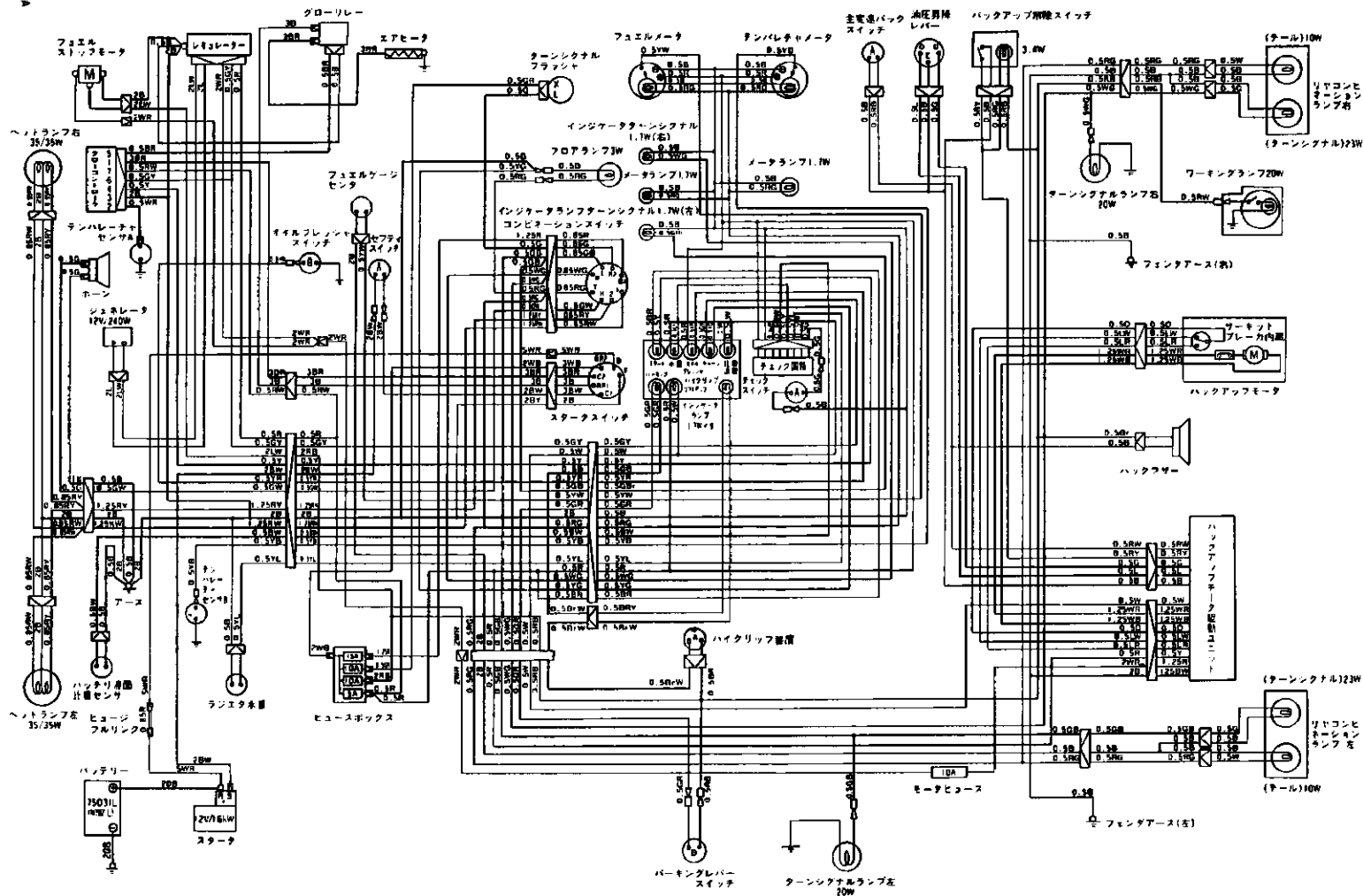
※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項 目		形 式		備 考
		FX265	FX265D	
機 械	銘柄型式	3TN884-RN		
	種 類	ディーゼル		
	冷 却 方 式	水冷ラジエタ		
	シリンダ数	3		
	内径×行程 (mm)	84×88		
	総排気量 (cc)	1463		
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	ホール	
		燃 料	ヤンマー重油またはディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)	25		
関 連	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	4.0	
	電気系統	冷 却 水 量 (ℓ)	4.5	サブタンクを要します
		充電発電機 (V-W)	12-200	
		起動発電機 (V-KW)	12-1.6	
		蓄 電 池 (V-Ah)	12-75	
	動力伝動部	主クラッチ	乾式単板	ダイヤフラムクラッチ
		変速機潤滑油量 (ℓ)	24	24
		差動装置形式	傘歯車式(デフロック付)	
		終減速機形式	平衡車	
走 行 装 置	車 輪	前 輪	5.00-15	7-16
		後 輪	12.4-24	ハイラグ
	かじ取装置	ボールスクリュウ式		
	足 ブレーキ	機械式湿式ディスクブレーキ		
	駐車ブレーキ	ベタルロック式		
運 転 装 置	計器類及び照明装置		アフメータ、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、水量パイロットランプ、バッテリー油量、比重パイロットランプ、サーモパイロットランプ、ダッシュランプ、リフトアップランプ、駐車ランプ	
	回 転 方 向	右回り		
動 力 取 出 軸	軸 寸 法 (mm)	35(JIS軸)		
	軸回転速度 (rpm)	574、698、958、1293		
	その他駆動部	なし		
	けん引装置形式	ピン固定式		
作 業 装 置	装置の規格規格	3点リンク JIS 1形		
	標準ロータリ耕幅 (mm)	RSB:1502、RCB:1502		
	油圧制御方式	ポジションコントロール付		

標準付属品

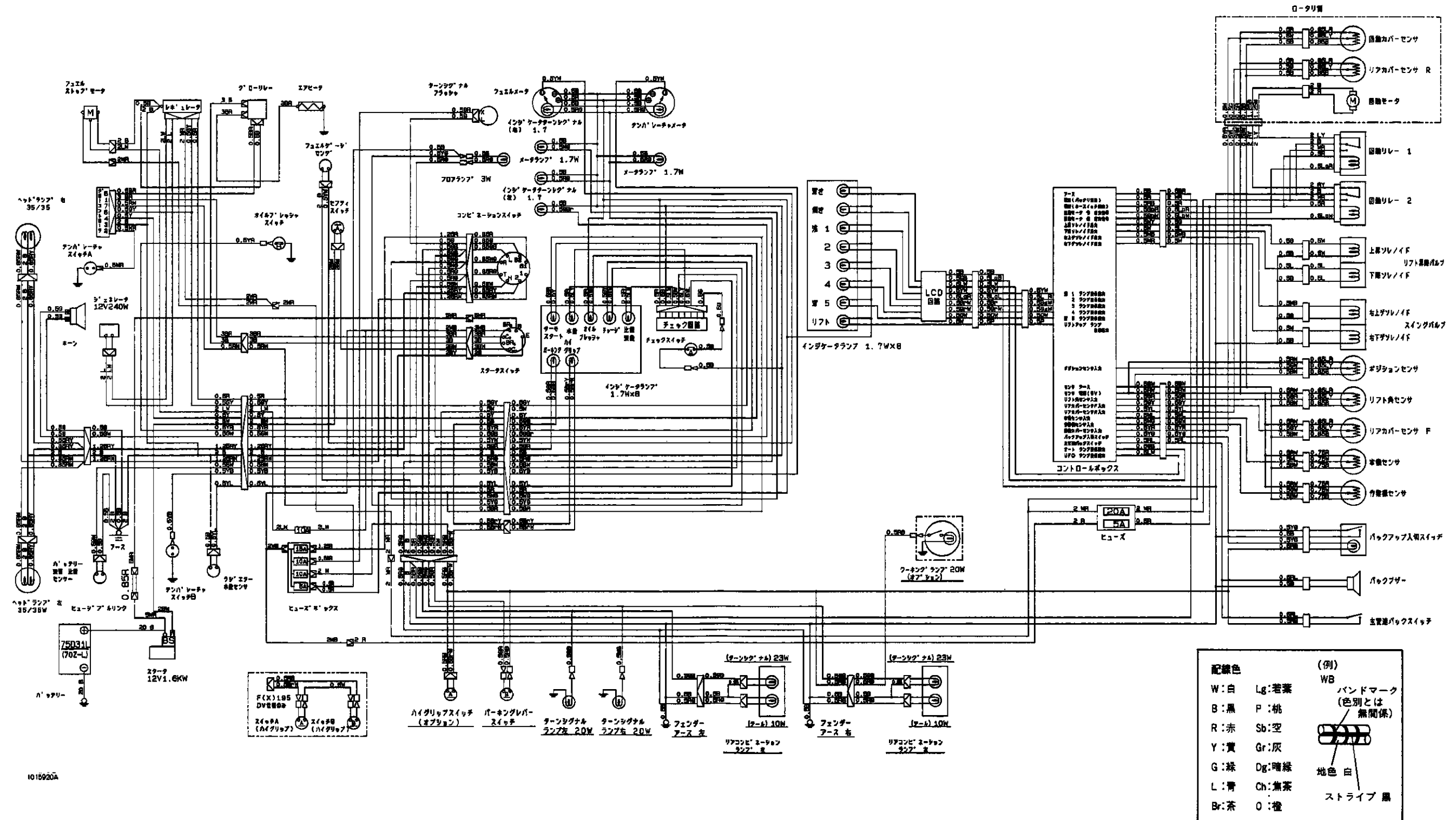
品 名	個数	仕 様	品 番	個数	適 用
両口スバナ	1	8×10	納入機械安全説明書	1	
"	1	12×14	愛用者カード	1	
"	1	17×19	保証書	1	
"	1	22×24	PTOシャフトカバー	1	
メガネレンチ	1	17×19	バックミラーステー	1 組	
キセルレンチ	1	26	ボールソケットピン	2	ロータリナシのみ
プライヤー	1	150	ブラケット仕組(UFO仕様)	1 組	アタッチメント用
ネジ回し	1	さしかえ式	カップリング仕組(UFO仕組)	1 組	ロータリナシのみ
グリースポンプ	1		UFO銘板(UFO仕様)	1	ロータリナシのみ
スタータキイ	2		ドッグクラッチ(クイックヒッチ仕様)	1	アタッチメント用
取扱書	1				





配線図(OK-UFO仕様)

F195D・FX195D
F215D・FX215D
F235D・FX235D
F255D・FX255D
F265D・FX265D





ヤンマー農機株式会社

本 社 〒530 大 阪 市 北 区 茶 屋 町 1 番 3 2 号
FAX (06) 372-6262

東京支社 〒104 東 京 都 中 央 区 八 重 洲 2 丁 目 1 番 1 号
電話 東京(03) 275-4955 代表 FAX (03) 275-1124

札幌支店 〒060 札 幌 市 中 央 区 北 四 条 西 2 丁 目 1 番 地 の 3
電話 札幌(011) 221-6138 代表 FAX (011) 221-6235

仙台支店 〒983 仙 台 市 若 林 区 6 丁 目 字 桜 町 9 番 地
電話 仙台(022) 288-7711 大代表 FAX (022) 288-8972

秋田サービスセンター

〒010 秋 田 市 茨 島 1 丁 目 1 番 3 4 号
電話 秋田(0188) 64-1880 FAX (0188) 64-3151

東京支店 〒362 埼 玉 県 上 尾 市 春 日 1 丁 目 3 2 ー 1
電話 上尾(0487) 76-3211 代表 FAX (0487) 76-3888

新潟支店 〒940 新 潟 県 長 岡 市 城 岡 3 丁 目 3 1 番 3 号
電話 長岡(0258) 24-7920 代表 FAX (0258) 24-6114

金沢支店 〒920-01 石 川 県 金 沢 市 今 町 7 4 8 番 地
電話 金沢(0762) 57-3800 代表 FAX (0762) 57-6410

中部支店 〒503-11 岐 阜 県 養 老 郡 養 老 町 船 附 1 5 2 0 番 地 の 1
電話 養老(05843) 5-1141 大代表 FAX (05843) 5-2299

大阪支店 〒530 大 阪 市 北 区 茶 屋 町 1 番 3 2 号
電話 販 売 部 大 阪 (06) 3 7 6-6 3 5 1
系 統 部 大 阪 (06) 3 7 6-6 3 5 3
営 業 技 術 課 大 阪 (06) 3 7 6-6 3 5 5
FAX (06) 3 7 2-1 1 6 5・(06) 3 7 2-2 4 5 5

岡山サービスセンター

〒702 岡 山 市 藤 崎 5 7 0 ー 1
電話 営 業 技 術 課 岡 山 (0862) 7 6-8 1 7 1
特 機 作 業 機 課 岡 山 (0862) 7 6-8 1 7 3
FAX (0862) 7 6-8 1 7 4
電話 系 統 課 岡 山 (0862) 7 6-8 1 7 6
FAX (0862) 7 6-8 1 7 5

福岡支店 〒812 福 岡 市 博 多 区 博 多 駅 前 3 丁 目 2 番 1 号 (日本生命ビル4階)
電話 福岡(092) 441-0921 大代表 FAX (092) 481-3477